



信州アーツカウンシル 令和7年度活動報告

SHINSHU Arts Council 2025 ANNUAL REPORT

信州アーツカウンシル
令和7年度活動報告

2025
ANNUAL REPORT

信州アーツカウンシル

令和7年度活動報告

SHINSHU Arts Council
2025 ANNUAL REPORT

SHINSHU Arts Council 2025 ANNUAL REPORT

信州アーツカウンシル令和7年度活動報告 目次

- 03 ご挨拶
- 04 信州アーツカウンシルとは
- 06 令和7(2025)年度事業の概略
- 08 令和7年度事業タイムライン
- 10 活動拠点一覧

Aプログラム 活動推進支援

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 12 A01 アーツ・ユニバース | 39 A28 一般社団法人ナナイロ |
| 13 A02 合同会社ARTWINGLABEL | 40 A29 ネイチャーピアノ |
| 14 A03 あーとdeらぼ | 41 A30 fatrippm |
| 15 A04 麻倉Arts & Crafts | 42 A31 フィルハーモニック・オーケストラ・松本 |
| 16 A05 一般社団法人阿智村全村博物館協会 | 43 A32 認定NPO 法人 フリーキッズ・ヴィレッジ |
| 17 A06 阿智村東山道プロジェクト | 44 A33 プンカバ |
| 18 A07 アトリエもも | 45 A34 NPO WHITE CANVAS |
| 19 A08 伊那谷クリエイティブアーツ | 46 A35 まあるの森 |
| 20 A09 伊那VALLEY映画祭実行委員会 | 47 A36 まつもと市民アーツコレクティブ |
| 21 A10 特定非営利活動法人F.O.P | 48 A37 南信州アートラボ |
| 22 A11 ○○Emergence Lab○ | 49 A38 Mina Watoto |
| 23 A12 大鹿村民話会 | 50 A39 一般社団法人ミンガヤ・コレクティブ |
| 24 A13 おどりば企画 | 51 A40 むらびとアートプロジェクト |
| 25 A14 きそ歴史芸術文化調査研究会 | 52 A41 やまびこらぼ |
| 26 A15 ぐるぐるシネマ | 53 A42 和力 |
| 27 A16 ころりん劇場企画部 | |
| 28 A17 五福 | |
| 29 A18 さくほミングル | |
| 30 A19 山麓おちつくおうち計画 | |
| 31 A20 振動興業 | |
| 32 A21 創造の森プロジェクト実行委員会 | |
| 33 A22 NPO 法人 多津衛民芸館 | |
| 34 A23 ちいさがた未来民話研究会 | |
| 35 A24 一般社団法人ツキカラカエル | |
| 36 A25 どんどろ流 百鬼ゆめひな | |
| 37 A26 NPO法人ながのアートミーティング | |
| 38 A27 ナガノのいきづらさを繋げるフリーペーパー hanpo | |

Bプログラム 活動基盤強化支援

- | |
|------------------------------|
| 54 B01 医療法人社団オレンジ |
| 55 B02 木曾ペインティングス |
| 56 B03 劇団野らぼう |
| 57 B04 NPO法人原始感覚舎 |
| 58 B05 一般社団法人 信州室内オーケストラ |
| 59 B06 松のにな |
| 60 B07 もんぜん千年祭実行委員会 |
| 61 B08 NPO法人夢空間 松代のまちと心を育てる会 |

- 62 連携・協働プログラム | 文化共創パートナー事業/ARS LONGAプロジェクト
- 66 連携・協働プログラム | Shinshu Arts-Climate Camp
- 68 連携・協働プログラム | 他地域のアーツカウンシルとの協働事業
- 69 連携・協働プログラム | 文化芸術に対する寄付促進に向けた取組
- 70 連携・協働プログラム | 伝統文化の支援体制構築に向けた連携
- 70 社会包摂(インクルーシブ)プログラム | ザラメキサポートセンターとの連携
- 71 地域創造・交流プログラム | NAGANO ORGANIC AIR 2025
- 72 地域創造・交流プログラム | シンビズム 2025
- 76 コラム | 信州アーツカウンシルは「何になっている」のか/民間非営利団体の中間支援
- 78 その他の取組

ご挨拶

信州アーツカウンシル長 津村 卓



今、私たちが生きる世界は、これまでの平穏な秩序が音を立てて崩れていくような、極めて不安定な状況になってきました。各地で武力紛争が再燃し、人々の対立は深まるばかりです。2025年はこれまで世界を不安にしていたウクライナやパレスチナ・ガザ地区での戦闘に加え、イランと周辺国あるいは欧米諸国との緊張が高まっています。これは、決して「遠い国の出来事」ではなく、私たちに多様な影響をもたらしています。経済格差がますます大きくなるなか、生活へのダメージも深まっています。またAIの急速な発展によって私たちの価値観は揺さぶられ、社会の中に不信感という種をまいています。本来であれば我々は民族や宗教を超え、人々が寄り添える平和という名の生き方を模索し、直近の課題である気候変動やパンデミックに対し地球規模で向き合わなければならない時であるはずですが。

このような状況のなか文化芸術が持つポテンシャルは、想像力から生まれる創造力によって人と人が繋がり新しい世界が創り出されることであり、社会の変化による人々の生き方の変化や、地域に起こる課題に対しその解決の糸口としての役割や力があるとされてきました。信州アーツカウンシルは2021年にスタートし、最初の節目である3年間の活動を通して多くの地域と担い手の方々とお会いすることが出来ました。そして2025年を次へのフェーズに向かうスタートの年として4年目の活動を展開しました。これまでの活動と共に今年度においても活動を支援頂いたアーティストを含めた担い手の方々、大学、行政、企業をはじめとする関係者の皆様。そして県内外のアドバイザーボードを務めて頂いている方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

2025年はこれまでの3年間実施をしてきた地域文化の担い手の掘り起こしと連携、寄り添い型の事業支援助成をはじめ、NAGANO ORGANIC AIR、SHINBISM、他分野と芸術文化の連携・協働として信州大学人文学部と連携したShinshu Arts-Climate Campを継続しつつ、新たな事業として、これまでの3年間一緒に走ってきた担い手の人達が、次の担い手の人たちの伴走者となって貰うとともに、将来は地域文化の基盤を担う存在になって貰う事を目指す「文化共創パートナー事業」を進めてまいりました。また○○×文化芸術として公的な事業に対し横断的に文化芸術を媒介することで生まれる新たな価値観づくりや、文化施設や学校、地域との連携協働の企画の相談・伴走を行う「信州広域アートコミュニティ共創事業」に取り組みました。これらの活動をきっかけに担い手の方々や協働共創し、新たなコミュニティとしての繋がりや人と人の出会い、地域と地域の繋がり、他の社会領域と文化芸術との出会い、そして文化芸術と文化芸術が出会うことがより多面的な広がりを持つようになってきたのではと感じています。

そして2026年は、新しい展開として「広域プラットフォーム会議」を実施し、市町村の公立文化施設をはじめ単体では解決が難しい課題に対し、広域・官民が協働して課題解決に向き合う糸口を見つけ、ARS LONGAプロジェクトとしてこれまでの5年間の活動のなかで生まれた言葉・表現、知識・情報、人と人のつながりをアーカイブにし、これからの長野県の文化環境を高めるための材料になることを目指します。

全国の文化施設をはじめとする文化芸術の状況は、人手不足や予算の削減など停滞を余儀なくされています。先の見えない混沌とした社会が進むなか、今こそ文化芸術を基盤に地域の再生や人と人のつながりを見直す時だと強く思っています。

2026年度に向け、私たちはこれまでの成果を一時的なものに終わらせず、次世代の担い手を育む「土壌」として定着させ、長野の地で誰もが表現の主体となり、多様な価値観が共鳴し合う社会を目指してまいります。信州アーツカウンシルにご協力いただいた皆様に改めて感謝するとともに、引き続きのお力添えをお願いいたします。

信州アーツカウンシルとは

信州アーツカウンシルは、地域の文化芸術活動の担い手を支援しています。自然豊かな風土や学びを大切に作る精神などから育まれる、信州・長野県の多様な地域文化や文化芸術の創造性を、持続的に発展させていくことを目的に、令和4(2022)年に始動しました。長野県、大学、公的機関、民間支援団体、市町村など、多様な主体がゆるやかに連携しながら、一般財団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局が運営主体となり、地域・県民主体で行う文化事業の助成、相談・助言などの寄り添い型の支援を行っています。

アートを身近に暮らしをゆたかに 様々な人が文化を創り 支え合う



広い県土に多様な地域性を有する長野県のアーツカウンシルとして 2つの観点を重視した文化芸術の環境づくりを進めています

01 文化芸術活動の「担い手」を支援する

文化芸術の場を開く「担い手」を広くとらえ、表現者、参加者、企画・運営者、支援者など、さまざまな人たちを支援します。

02 信州の多様な文化芸術を、多様な主体が支える

県、大学、民間支援団体、市町村、個人、さまざまな主体が連携し、長野県の多様な地域文化を支援する環境づくりを行います。

これらの活動を通して、3つのミッションを達成していきます。

ミッション 01

長野県全域において文化芸術活動の創造力・発信力を高める。

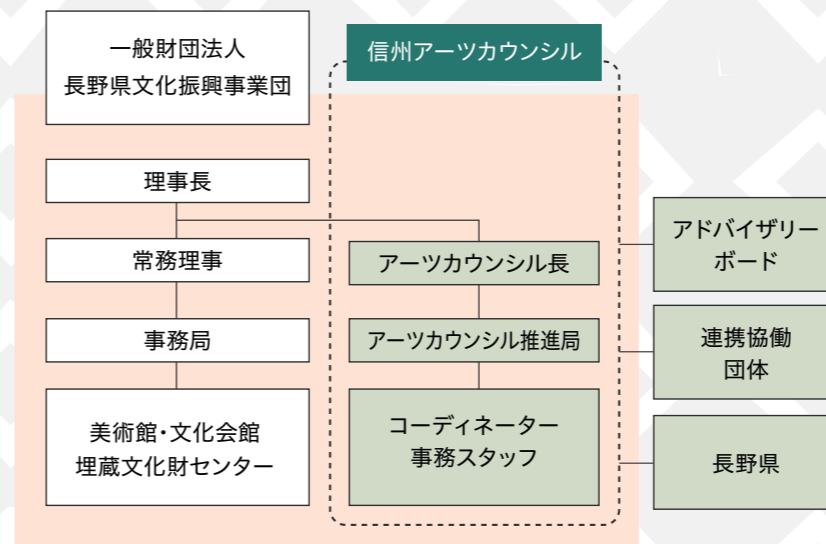
ミッション 02

文化芸術活動のポテンシャルを社会の様々な領域に拡げる。

ミッション 03

長野県内の文化芸術活動が持続的に発展する環境を醸成する。

組織図



令和7年度 信州アーツカウンシル アドバイザリー・ボード

- 金井直 信州大学人文学部 教授
- 辻野隆之 茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造 シニアディレクター
- 山本麻友美 京都芸術センター副館長/京都市文化政策コーディネーター
- 若林朋子 プロジェクト・コーディネーター/立教大学大学院教員

令和7年度 信州アーツカウンシル スタッフ

アーツカウンシル長

津村 卓 つむら たかし

1956年大阪市生まれ。一般財団法人地域創造芸術環境部プロデューサー。国内各地の公立劇場の運営に携わり、2016～20年3月上田市サントミュージアム館長。2016～21年長野県芸術監督(プロデュース)、2020～21年度長野県芸術監督団事業総合プロデューサー。

アーツカウンシル推進局

【コーディネーター(専門スタッフ)】

ゼネラルコーディネーター | 野村 政之 のむら まさし

1978年生まれ。長野県塩尻市出身。舞台芸術の創作現場と公的文化芸術支援に並行して携わる。公共ホール、民間劇場・劇団制作部、沖縄アーツカウンシルプログラムオフィサーを経て2018～22年3月長野県県民文化部文化政策課文化振興コーディネーター。

チーフコーディネーター | 伊藤 羊子 いとう ようこ

1994年より(一財)長野県文化振興事業団学芸員として長野県立歴史館、長野県信濃美術館等での企画事業のほか、館外での普及事業を推進。2016年より「信州ミュージアム・ネットワーク事業」や、長野県芸術監督団事業「シンビズム」の制作を担当。

コーディネーター | 佐久間 圭子 さくまけいこ

長野県松本市出身。大阪芸術大学映像学科卒業後、テレビ朝日報道局、信州大学地域戦略センター、株式会社エイブルデザイン、信州地域デザインセンター(UDC信州)を経て現職。公・民・学さまざまな立場で情報発信やデザイン制作を軸にした地域づくりに携わる。

コーディネーター | 早川 綾音 はやかわ あやね

1998年生まれ。宮城県蔵王町出身。学部では主にアートプロジェクトやまちづくりについて、大学院では教育普及や美術鑑賞活動について学ぶ。在学中より文化芸術活動の運営に興味を持ち、芸術祭を中心にさまざまなプロジェクトに携わる。2024年5月より勤務。

コーディネーター | 清水 康平 しみず こうへい

1996年生まれ。長野県長野市出身。日本大学芸術学部演劇学科在学中より劇団や文学同人誌の主宰として活動。卒業後はホクト文化ホールや長野県伊那文化会館にて自主事業の企画制作や貸館、広報業務などに従事。2025年4月より勤務。

コーディネーター | 小澤 貴弘 おざわ たかひろ

1982年生まれ。埼玉県滑川町出身。東京藝術大学大学院修了後、京都精華大学映像コース助手・講師。2016年に長野県大町市へ移住、北アルプス国際芸術祭の運営に携わる。信州の文化に惹かれ、農業や狩猟を経験し、蕎麦職人の道へ。2025年6月より勤務。

事務スタッフ

アーツカウンシル推進局長 | 土屋 孝夫 つちや たかお
長野県佐久市出身。1993年長野県庁入庁。2025年4月より派遣。

次長 | 岩井 千里 いわい ちさと
福島県出身。2015年長野県庁入庁。2024年4月より派遣。

主事 | 保谷 有美 ほや ともし
長野県長野市出身。2022年7月より勤務。

1. 活動基盤強化プログラム

令和7年度アーツカウンシル助成事業
「文化芸術活動の創造性を生かす環境づくり支援プログラム」 ▶ P12

長野県の文化芸術の持続的な発展に資する可能性があり、チャレンジ精神や創意工夫の見られる活動で、自らの問題意識に基づいて、社会における課題を設定し、さまざまな人や組織との連携・協働を行いながら取り組む活動を支援。

募集期間 | 令和7(2025)年2月6日～3月7日

事業期間 | 令和7(2025)年4月23日～令和8(2026)年2月28日

支援総額 | 37,190,635円

種類	想定する活動・支援	上限額助成率	応募数	採択数
A 活動推進支援 プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域における文化芸術活動の定着や新たな実施 ● 収益性に馴染まないが、他分野への波及が期待できる活動の立ち上げ支援 など 	500,000円 10/10以内	87	42
B 活動基盤強化 プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 他分野や県内他地域に展開し、県内での新たな活力創出に取り組むもの ● 定着や自走の可能性のある活動を寄り添い型で支援 など 	3,000,000円 1/2以内 (一般管理費 15%以内)	20	8



ちいさがた未来民話研究会
(A 活動推進支援プログラム)



NPO法人ながのアートミーティング
(A 活動推進支援プログラム)



NPO法人原始感覚舎
(B 活動基盤強化プログラム)

信州広域アートコミュニティ共創事業

信州アーツカウンシルがこれまで蓄積した県内の担い手との繋がりや中間支援のノウハウを活かし、県立文化施設や市町村、学校、地域等との連携による事業を実施。

2. 連携・協働プログラム



文化共創パートナー・ARS LONGA プロジェクト ▶ P62

- 信州アーツカウンシル2025交流会「共創縁日」@キッセイ文化ホール(6月14日)
- オープンカウンシル! vol.7「民間非営利団体による中間支援:文化芸術と社会教育」@犀の角(8月21日)
- 旅する信州アーツカウンシル「学ぶ・つながるフィールドワーク 長野編」@トビチ商店街(12月6日)
- コワーキングカフェ@ブルーベリーガーデン黒岩(12月19日)
- 市町村文化担当者・文化施設運営者向け相談会+フォーラム「これからの公立文化施設と広域連携に向けて」@キッセイ文化ホール(1月15日)
- 多文化共生×文化芸術「つながるサーカス・ワークショップ in こまがね」@駒ヶ根市ふれあいセンター(1月24日)
- Podcast及びZINEでの情報発信



信州アーツ・クライメート・キャンプ(信州大学人文学部との協働) ▶ P66

- 《公開ゼミ》「ロジャー・マクドナルドさんを囲んで」@松本市立博物館(5月23日)
- 《フォーラム》Bio-Regional Arts -地域の生態と循環するアート-@多津衛民芸館(10月12日)
- オープンカウンシル! vol.9「ゼロカーボン演劇と木製テント劇場創り～持続的社会的シミュレーション」@菜日(2月14日)
- 学生への講義(4月18日)



他地域のアーツカウンシルとの協働 ▶ P68

[沖縄アーツカウンシルとの共同企画・連携]

- 「アーツカウンシル連携による地域間文化交流・作戦会議!」@犀の角(8月22日)
- 座談会「創造性にどう寄り添うか～文化芸術の伴走支援がひらく扉」の共同企画・実施(1月30日)

[アーツカウンシルネットワーク(AC-net)への参画]

- 第1-3回ミーティングへの信州AC専門スタッフ参加(8月21日、12月5日、1月30日)



文化芸術に対する寄付促進に向けた取組 ▶ P69

[(公財)長野県みらい基金との協働企画の連携]

- 子どもの文化体験格差解消に焦点を当てた寄付募集「[まわる幸]出逢う!子どもとアート」の実施(9月9日-10月31日)



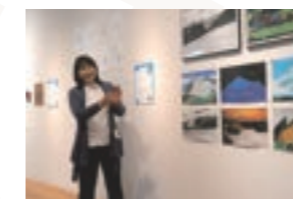
伝統文化の支援に向けた連携体制構築 ▶ P70

- 冬の南信州民俗芸能に関する講演@銀座NAGANO(11月30日)
- シンポジウム「これからの伝統文化継承と地域コミュニティ」@松本市立博物館(1月25日)
- 南信州民俗芸能継承推進協議会、公益財団法人八十二文化財団との協働

3. 社会包摂(インクルーシブ)プログラム

長野県障がい者芸術文化活動支援センター
「ザワメキサポートセンター」
(長野県社会福祉事業団)との連携 ▶ P70

- 連携会議を毎月開催し、情報共有と意見交換を行う
- ザワメキアート展2025を共催・広報支援
- シンビズム×ザワメキアート座談会&ギャラリートーク「アートへの多様な参加をひらく」@小海町高原美術館(12月21日)



4. 地域創造・交流プログラム

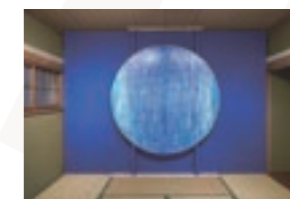
NAGANO ORGANIC AIR2025 ▶ P71

- 木島平村・山ノ内町にアーティストが滞在し、ホストのコーディネートにより、地域と有機的に関わりながら活動を展開
- 信州フィルムコミッションネットワークとの連携により白馬村に脚本家が滞在。
- 県内のAIR情報をwebサイトで集約発信。



シンビズム2025 ▶ P72

- 美術展「SHINBISM(シンビズム)6」開催
 - 第1部グループショウを県内3会場にて開催(9月20日-11月24日)
 - 第2部学校連携プログラムにて小学生とともに収蔵作品展を企画・開催(6月12日、16日、26日、7月10日、9月24日-26日、28日-29日)
- 長野県「アートの手法を活用した学び」推進事業との連携(4月23日、7月30日、8月5日、12月8日、12日)
- シンビズム事業成果報告会の開催(3月25日)

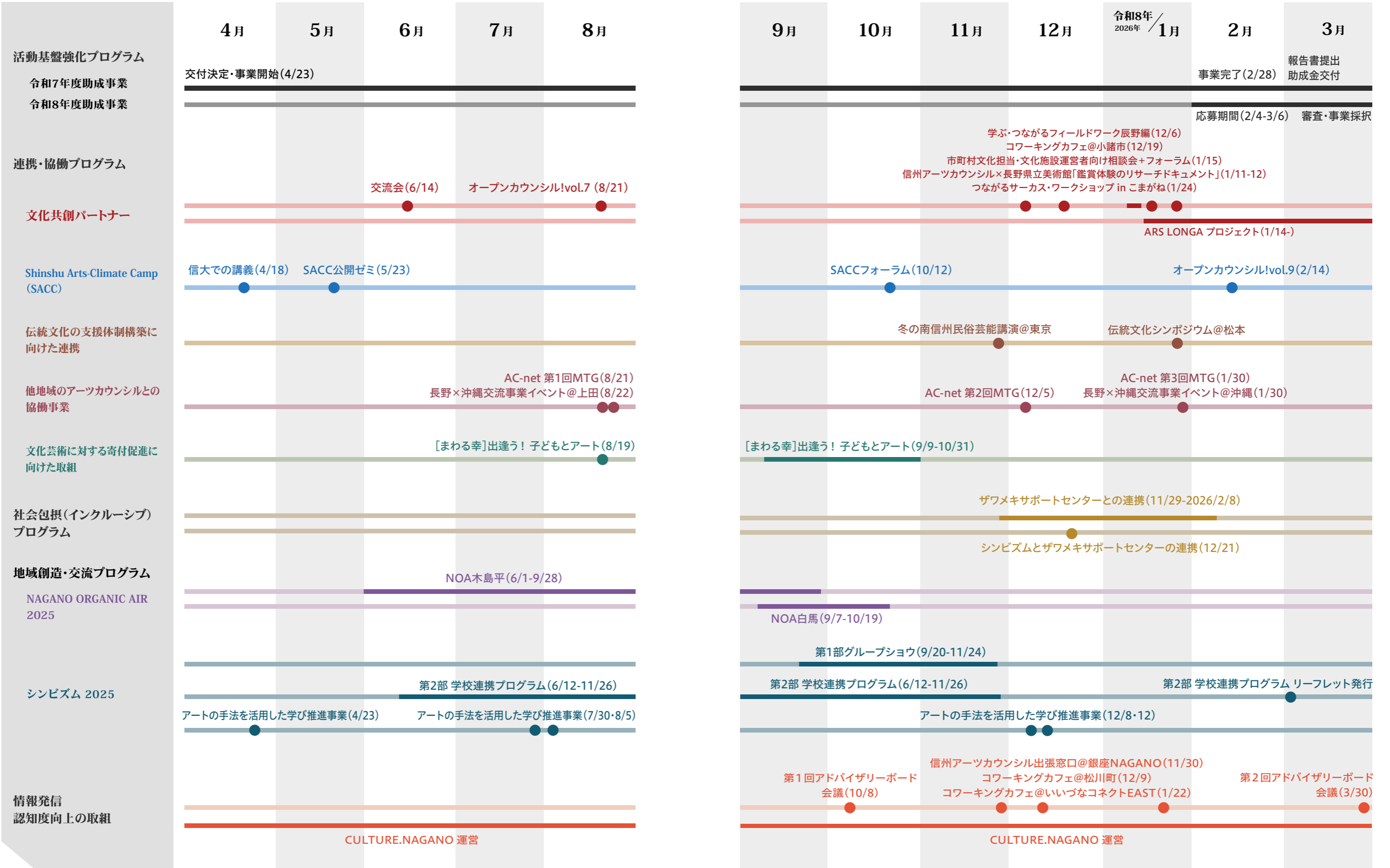


5. 情報発信・認知度向上の取組

▶ P78

- 銀座NAGANO(東京)での移住定住・関係人口づくりのイベント開催(11月30日)
- コワーキングカフェの実施@あらゆる商店街にぎわい拠点KAICOの実施(12月9日)
- コワーキングカフェの実施@いづなコネクトEASTの実施(1月22日)
- 長野県文化芸術情報発信サイト「CULTURE.NAGANO」の運営
- アーツカウンシル・ネットワーク(AC-net)における取組紹介・発信

信州アーツカウンシル 令和7年度事業タイムライン



令和7年(2025)年度事業の活動拠点

- A 活動推進支援プログラム
- B 活動基盤強化プログラム
- 連携・協働プログラム
- 社会包摂(インクルーシブ)プログラム
- 地域創造・交流プログラム(NOA)
- 地域創造・交流プログラム(シンビズム)
- 情報発信・認知度向上

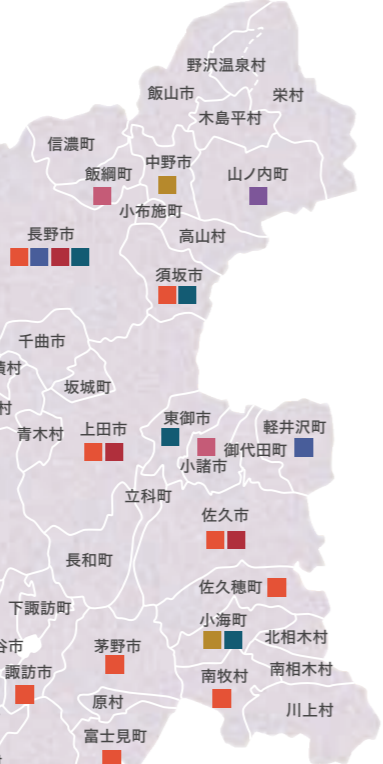
相談・助言 155 団体	助成先 50 団体	主催事業での支援・連携 100 団体
信州アーツカウンシルが 令和7(2025)年度に支援等で関係した団体数 305 団体		

- 長野市**
- A 03 あーとdeらぼ
 - A 26 NPO法人 ながのアートミーティング
 - A 27 ナガノのいきづらさを繋げるフリーペーパー hanpo
 - B 07 もんぜん千年芸術祭実行委員会
 - B 08 NPO法人 夢空間松代のまちと心を育てる会
 - 連携 長野県立美術館連携事業「鑑賞体験のリサーチドキュメント」
 - SBS シンビズム6
- 小谷村**
- A 39 一般社団法人ミンガヤ・コレクティブ
- 白馬村**
- NOA 信州フィルムコミッションネットワーク(SFN)との共同企画
- 大町市**
- A 04 麻倉Arts&Crafts
 - A 19 山麓おちつくおうち計画
 - B 04 NPO法人 原始感覚舎

- 中野市**
- 包摂 ザワメキアート展
- 木島平村**
- NOA 森をつかむ、つつむ -Branching Out-
- 山ノ内町**
- NOA 森をつかむ、つつむ -Branching Out-
- 飯綱町**
- 発信 コワーキングカフェ

- 須坂市**
- A 11 ○○Emergence Lab○
 - A 20 振動興業
 - SBS シンビズム6
- 上田市**
- A 23 ちいさがた未来民話研究会
 - A 30 fattripm
 - 連携 ○○×文化芸術 オープンカウンシル! vol.7
 - 連携 アーツカウンシル連携による 地域間文化交流・作戦会議!

- 安曇野市**
- A 34 NPO WHITE CANVAS
- 松本市**
- A 02 合同会社 ARTWINGLABEL
 - A 13 おどりば企画
 - A 28 一般社団法人ナナイロ
 - A 35 まあるの森
 - A 36 まつもと市民アーツコレクティブ
 - A 41 やまびこラボ
 - B 03 劇団野らぼう
 - B 06 松のにわ
 - 連携 信州アーツカウンシル2025交流会「共創縁日」
 - 連携 市町村文化担当者・文化施設運営者向け 相談会+フォーラム
 - 連携 Shinshu Arts-Climate Camp
 - 連携 シンポジウム「これからの伝統文化継承と地域コミュニティ」



- 東御市**
- SBS アートの手法を活用した 学び推進事業との連携
- 御代田町**
- A 38 Mina Watoto
 - SBS アートの手法を活用した 学び推進事業との連携
- 軽井沢町**
- B 01 医療法人社団オレンジ
- 小諸市**
- 発信 コワーキングカフェ
- 佐久市**
- A 22 NPO法人多津衛民芸館
 - 連携 Shinshu Arts-Climate Camp
- 佐久穂町**
- A 18 さくほミングル
- 小海町**
- 包摂 ザワメキアート展
 - SBS シンビズム6
- 南牧村**
- A 15 ぐるぐるシネマ

- 山形村**
- A 16 ころりん劇場企画部
- 塩尻市**
- SBS シンビズム6
 - SBS アートの手法を活用した 学び推進事業との連携
- 木祖村**
- SBS シンビズム6
- 木曾町**
- A 14 きそ歴史芸術文化調査研究会
 - B 02 木曾ペインティングス
- 南木曾町**
- SBS シンビズム6
- 辰野町**
- 連携 文化共創パートナー フィールドワーク
 - SBS アートの手法を活用した 学び推進事業との連携
- 伊那市**
- A 09 伊那VALLEY映画祭実行委員会
 - A 29 ネイチャーピアノ
 - A 32 認定NPO法人フリーキッズ・ヴィレッジ
- 箕輪町**
- A 08 伊那谷クリエイティブアーツ
 - A 17 五福
 - B 05 一般社団法人信州室内オーケストラ
- 宮田村**
- A 40 むらびとアートプロジェクト
- 飯島町**
- A 25 どんどろ流百鬼ゆめひな
 - A 37 南信州アートルボ
- 中川村**
- A 10 特定非営利活動法人 F.O.P
- 松川町**
- 発信 コワーキングカフェ

- 東京都**
- 発信 銀座NAGANO(東京)でのイベント開催
- 大阪府**
- 連携 民俗芸能フェスティバルin大阪・関西万博
- 沖縄県**
- 連携 創造性にどう寄り添うか 文化芸術の中間支援がひらく扉

活動基盤強化プログラム

※和暦西暦等の表記は 個々のレポートの内容におけるニュアンスや わかりやすさによって表現されています



1



1

Program A
01 アーツ・ユニバース

**3人のクリエイターによる
不登校の子ども達を元気にする芸術表現活動
(音楽・美術・メタバース)事業**

活動概要

3人のクリエイターが諏訪地域のフリースクールに通う小中高生を対象に、それぞれの芸術領域(音楽・美術・メタバース)のワークショップを行い、芸術を通じた社会接続に取り組むプログラム。

経験や人間関係が固定されてしまいがちな若者同士で交流しながら様々な芸術的経験を積むことにより、多角的な視点の涵養や自己肯定感・自己効力感の育成、コミュニケーション能力の成長を目指した。

コーディネーターより

多様な芸術的アプローチにより、子どもたちの見ている世界に多くの選択肢を示すことができた素敵な事業であった。様々な経験ができる機会と、十人十色で生きている大人たちとの出会いは、ともしれば狭くなってしまいがちな学生時代の価値観を押し広げ、社会接続への不安を柔軟に解決へと導く。制度の隙間に落ち込んでしまった問題をすくい上げ、社会の中で生きていく手法を子どもたちに寄り添いながら考えていく本事業は、当事者だけではなく美術館の訪問者や関係者にも勇気と希望を与えてくれた。今後の拡がりにも注目している。(清水)



団体所在地 | 諏訪市
MAP A01

- 1 | 原田泰治美術館での展示風景
- 2 | メタバース空間での展示風景
- 3 | アトリエもも「しずかなアートスクール」



2



3

活動内容

- 美術作品展覧会**
6/17~7/13 原田泰治美術館・メタバース子ども未来美術館
- しずかなアートスクール**
6/30 アトリエもも
- 不登校の子どもを持つ保護者向けのアートセラピー**
2/21 子ども・若者STEPハウス
- 地元美術館での対話型鑑賞プログラム**
1/20 原田泰治美術館
- 音楽×美術ワークショップ**
2/7 いきいき元気館

Program A
02 合同会社 ARTWINGLABEL (アートウイングレーベル)

高齢者の方々の言葉プロジェクト+

活動概要

日々の高齢者は移植サービスを行う中で、高齢者の取材・交流を通じZINE「えんがわ」を制作し、音楽と福祉をつなぐ活動。今年度は4号・5号を各1,000部発行したほか、障がいのある子どもたちと夏をテーマに楽曲を制作するワークショップや、全35名が参加した「いのちのうた」コーラスレコーディングプロジェクトを実施。こうした活動にNHK長野放送局が密着し、2度の特集放送が実現、老若男女をつなぐハブとしての活動が広がった一年となった。



2



3

コーディネーターより

最近リリースされたCDアルバム「Storys of Life」(雅音人)を車内で聴かせていただいた。昨今、急激に殺伐としてきた社会情勢の中で、自分自身も気持ちが引っ張られそうになることがあるが、この音楽に触れるとふとやわらかな気持ちを取り戻せるような感覚があった。高齢者や障がいのある方など、社会の中で孤独を感じやすい場面にいる人たちに、安心や楽しみをつくり出せるのは、活動の根底に確かな優しさがあるからこそだと感じた。音楽や福祉というそれぞれの活動が一つの心から生まれていることが面白さなのではないか。(小澤)



団体所在地 | 松本市
MAP A02

- 1 | 高齢者の取材・交流ZINE「えんがわ」
- 2 | NHK「どとど信州イチオシ」生出演収録の様子
- 3 | 交流ZINE えんがわ 4号、5号

活動内容

- 5月~ 高齢者の取材・交流ZINE えんがわ4号 取材先選定
- 6月 ほたるの会イベント取材・テーマソング発表
NHK密着取材スタート
- 7月 鯉川・丸山勝江取材
「いのちのうた」コーラスレコーディング(7/26木祖村、7/29名古屋)
「いのちのうた」コーラスプロジェクト松本(8/5・6、NHK同時取材)
- 8月 「歌を作ってみようプロジェクト」下見
夏休み企画「楽しい夏だ」制作
(第1回8/7・第2回8/28)→音源制作・YouTube連動
- 9月 「いのちのうた」コーラスプロジェクト清内路(9/7)
NHK「知るしん」えんがわ特 集オンエア27分(9/12)
デイサービスあんしん取材(9/17)
- 10月 えんがわ4号リリース
ケア集団ハートビート20周年イベント(10/13)
NHK「どとど信州イチオシ」生出演・えんがわ特集(10/25)
- 11月 堀六平・男性コーラス取材(11/22)
- 12月 ウクレレ・旭清子取材/あんしん慰問(12/22)
- 1月 小松彰宏・望月英治・安曇野パソコン取材(1/9)
どんと焼き取材(1/11・12)
ケア集団ハートビート取材(1/15)
濱田ちさ子衣装写真撮影(1/29)
中田芳典落語会取材・盲学校元先生中山崇善氏取材(1/31)
- 2月 えんがわ5号リリース



Program A
03 あーとdeらぼ

あーとdeらぼ

活動概要

東北信地域で活動するアーティストが協力し、子どもたちが多様な表現に触れられるマルシェ型イベント「あーとdeだいぼうけん」の第2回目を開催。今回は体を動かして表現が体験できるエリアに加え、鑑賞を中心に体験できるエリアを設け、自由な楽しみ方ができるように空間が作られた。イベント準備段階では、プログラム内容を研究する試演会の実施や、企画・運営方法の話し合い、メンバーの交流の場作りなど、実施までのプロセスを共に考えつつ進められるように意識した仕組みづくりが行われた。



コーディネーターより

本イベントは、子どもや家族が様々な表現と出会う場であると同時に、参加した約70名もの地域アーティストが互いの活動を知る機会としても機能していた。また鑑賞エリアでは、カーンダウンスペースの設置やザワメキキャラバンが展示に参加したほか、放課後等デイサービスの子どもたちも来訪するなど、自然とインクルーシブな空間が生まれていた。運営面では関係者の多さ故に活動の背景や情報の共有が課題となる部分もあったが、間口を開き集まった人とともに活動のあり方を研究・模索する姿勢は、継続的な活動に向けた大切な素地となっていくだろう。(早川)



団体所在地 | 長野市
MAP A03

- 1 | ミニ体験試演会の様子
- 2 | あーとdeだいぼうけんvol.2 参加アーティスト
- 3 | あーとdeだいぼうけん 表現体験ブースの様子

活動内容

ミニ体験試演会:表現のじっけん
一緒にやってみよう「きみも今日かららぼの一員だ！」

活動日時 | 8/2
活動場所 | Thesaurus
内容 | コマ撮りアニメーション体験(月原はる菜)
からだで表現しよう(もっか)
なかむらたぐみのアーティストBOX(なかむらたぐみ)
参加者 | 10組30名(2~12歳、30~40代)

あーとdeだいぼうけん vol.2

活動日時 | 1/16-20 (※表現体験エリア 1/17-18)
活動場所 | 長野県立美術館しなのギャラリー・ホール
出展内容 |
表現体験ブース:人形と音であそぼ(Ayaco*), モデルウォーク(棚澤愛莉)、劇ごっこ(ゴクス)、オノマトペダンス(もっか)、変な生き物を作ろう(KINOHI, knot theory, KAERUYA)、フラメンコ(りよ)、創作剣舞(いざきた鈴)、ちんどん屋(メリアン)、忍者な時間(にんじゃ)、音楽で遊ぼう(たまに葡萄)、ボン!顔アート(まちの美術部)、あてっこポーズ(あじゃば)、あいうえおラップ(おこ)、たいきょけん(ホイズ)
鑑賞体験ブース:絵画「みんなの庭」(こばやしうこ)、趣博覧会(なかむらたぐみ)、石合昌史の世界(日昌晶)、ザワめく絵画・造形(ザワメキキャラバン)、アニメ作品上映(月原はる菜)

その他の活動

ミーティング計56回、自己紹介大会(10/31-31)
振り返り会(8/6・10/30-31)



Program A
04 麻倉Arts&Crafts

誰もが持っている創造する楽しさを引き出す
～小さなときめきプロジェクト

活動概要

没後70年以上経過しパブリックドメインとなった名画を、12名の作家がそれぞれ選び「絵を纏う」というコンセプトのもと新たな表現に挑戦。麻の蔵をリノベーションしたギャラリーで体験型インスタレーションを展開した。鑑賞者は名画から新たに生み出された作家のアイデアに直接触れ、作品の中に入って写真を撮って気軽に楽しんだり、切り絵などのワークショップを通して、普段は美術に関心のない人にとっても体験的に楽しむことができる間口の広い企画となった。



コーディネーターより

麻倉美術部メンバーを中心にここに集うアーティストたちが持つ、純粋に表現することの楽しみが爆発していたように思う。展示空間に入り、マティスのJAZZやモディリアーニのおさげ髪の少女など、誰もが一度は見たことがある名画を、それぞれの作家のアイデアで着たり、持ったり、顔をはめたり、時には横たわることによってギャラリーに入るときに感じていた微かな緊張感から解き放ち、元の名画を調べたりしながら大人も子どもも笑顔になって帰っていく。麻倉のみなさんが掲げている「人は誰でも芸術家」という言葉を見せていただいた気がする。(佐久間)



団体所在地 | 大町市
MAP A04

- 1 | マティス「青い窓」をオマージュした「マティスのモードきせかえ店(渡部泰輔さん作)」
- 2 | 全身タイツをまといブルーシートに寝転ぶとマティス「JAZZ」に!
- 3 | マティスの創作技法である切り絵を体験するワークショップ

活動内容

「絵を纏う」(体験型インスタレーション)

展示場所 | 麻倉 2階
展示期間 | 10/3~11/2
展示作家 | 渡部朱美、馨子、せきやはなこ、なかやま☆はるか
渡部泰輔、田中あずみ、浅井信至、金井三和、長澤春佳
solosolo Maika、このよのはる

関連イベント
▼10/3-4 オープニングイベント
「羊毛で作る布フェルトと藍染め+ひそませワークショップ」
講師:渡辺やすこ、補助:田中あずみ

▼10/5 体験イベント
「マティスのJAZZをブルーシートと黒タイツ人間で!」
※1日だけの限定開催の予定だったが、好評により会期終了まで実施
「マティス風切り絵に挑戦」
講師:長澤春佳、渡部泰輔
「大町の風景を切り抜く額縁を作ろう!」
講師:大坪一道

▼10/26 ワークショップ
「服の上のあなたの物語を。」
講師:solosolo Maika × repair eucaly

▼10/31 ハロウィーン×絵を纏う
ハロウィーンに合わせてお菓子を用意し19時まで延長

▼11/1 クロージングパーティ
「絵を纏う、音を纏う」
ゲストアーティスト:このよのはる





Program A
05 一般社団法人阿智村全村博物館協会

園原の里 能楽・狂言復興プロジェクト

活動概要

阿智村園原の歴史文化を活かし、能教室・園原木賊Day・創作演劇「園原絵巻 零巻」の3事業を実施した。能舞台を活用した能教室は3年目を迎え、地域の歴史と伝統文化への理解を深めた。園原木賊Dayでは能教室の発表会と木賊獅子の上演、郷土の植物「木賊」に纏わる講演などを行った。創作演劇には5歳から70代までが出演し、本番には175名が来場。稽古を通じて世代を超えたつながりが生まれ、地域の人々が園原の歴史と文化に触れる機会となった。



コーディネーターより

阿智村には、世阿弥の能謡曲「木賊」や源氏物語「常木」の舞台となった園原など、全国的にも知られる歴史的・文学的資源が息づいており、その豊かさに改めて驚かされた。また、女獅子にひょっとこが獅子の幌を持って歩くという非常にユニークな木賊獅子は、江戸時代後期から続く個性的な民俗芸能。さらに、オリジナルパフェ作りといった体験メニューも取り入れることで、幅広い年代の方が楽しみながら阿智村の魅力に触れられる工夫がなされていた。歴史の深さとコンテンツの多彩さが共存する、阿智村ならではの取り組みだと感じた。(小澤)



団体所在地 | 阿智村
MAP A05

- 1 | 智里西木賊獅子舞
- 2 | 能教室発表会
- 3 | 創作演劇「園原絵巻 零巻」

活動内容

能教室

5月～2月 能教室 全10回(継続参加4人、のべ32人)
5/25、6/22、7/20、8/17、9/28、10/12、11/9、12/21、1/18、2/22

園原木賊Day

5月～2月 東山道・園原ビジターセンターはつき木館にて
企画展「園原の木賊」展示

11月23日 園原木賊Day 本番 会場 | 園原能舞台
能教室発表会(連吟・仕舞・独吟・智里西木賊獅子舞
演奏、能・獅子舞体験)
オリジナル「木賊パフェ」づくり

創作演劇「園原絵巻」

8月～10月 脚本相談・制作
10月8日 出演者顔合わせ・趣旨説明、出演者募集
11月～12月 週1回練習(火曜日)
11月30日 園原現地ツアー学習会(14名参加)
1月～ 週2回練習(火・木曜日)
1月27日 本番会場(熊谷元一写真美術館)での練習
2月14日 会場仕込み
2月15日 前日リハーサル
2月17日 上演日
まとめの会



Program A
06 阿智村東山道プロジェクト

寸劇とくさ大夫善光寺大勧進公演及び
東山道芸能サミット

活動概要

古代東山道と芸能文化を題材に、即興表現と学びを組み合わせたワークショップを全3回実施した。第1回は東山道を解説を聞きながら歩き、第2回は阿智村駒場の歴史を探索しながらコミュニケーションを深め、第3回は坐禅体験を通じてより自由な表現を探究した。講師は「ましゅ&Kei」が担当し、笑いと気づきを大切にしながら参加者の自己表現を引き出した。9月には長野市善光寺大勧進での「新・寸劇とくさ大夫」公演を実施し、122名の観客に届けた。



コーディネーターより

かつて賑わいを見せた東山道も、高速道路の整備などにより人の流れから外れ、今では人口減少が進む静かな地域となっている。そんな東山道の魅力を再発見しようと、川の水をパイラーで直接温める珍しい旧銭湯「玉の湯」の見学や街道歩き、五平餅づくりといった体験を通じて地域への親しみを育みながら、講師「ましゅ&Kei」による初心者も大歓迎のインプロビゼーションで参加者同士が楽しく交流を深めた。また阿智村全村博物館協会との連携により、より充実した阿智村体験が実現していた点も印象的だった。(小澤)



団体所在地 | 阿智村
MAP A06

- 1 | 公演「新・寸劇とくさ大夫」
- 2 | 旧銭湯「玉の湯」の見学
- 3 | 東山道、駒場歴史探訪

活動内容

6月14日(土) 第1回ワークショップ

参加者8名 「ストレッチする頭と身体」東山道を歩く
午前 古代東山道を歩き、解説を聞きながらに歴史に触れる
午後 ましゅ&Kei インプロワークショップ
「インプロ入門編“ときほぐす表現体験”」

7月10日(土) 第2回ワークショップ

参加者6名 「人とつながるコミュニケーション」
駒場歴史探訪
午前 江戸時代の宿場町・こまば街歩きと五平餅作り体験
午後 ましゅ&Kei インプロワークショップ
「コミュニケーション編“やりとりの中で新しい自分と出会う”」

8月30日(土) 第3回ワークショップ

参加者8名 「もっと自由に深く表現する」坐禅体験
午前 信濃比叡 廣徳院にて坐禅体験
午後 ましゅ&Kei インプロワークショップ
「応用編“相手の言葉を受けとめ、そこに自分らしさを重ねていく表現のカタチ”」

9月21日(日) 善光寺大勧進公演「新・寸劇とくさ大夫」

参加者122名
人使いの荒い主人を懲らしめようと企む家来たちの奔走を、阿智村園原や善光寺を舞台に、軽妙な語りや滑稽な身振り手振り、和楽器で表現する抱腹絶倒の創作歴史芝居。南信州を拠点に活躍するアーティストたちによる唯一無二の娯楽芸能芝居。2025年、さらなる進化を遂げたNewバージョン。



Program A
07 アトリエももも

「しずかなアトリエ」事業

活動概要

茅野市の「荒神の古民家」の蚕室をDIYし、年代や障がいの有無など、あらゆる枠をこえて、さまざまな人が集まり、アートを通じて交流するアトリエを運営。毎月2回、しずかに創作したい人が安心して創作できる居場所として、オープンアトリエを開催し、第3水曜日にはお昼にアートと食が楽しめるアートカフェも実施。また、地域の教育機関との連携や信州アーツカウンシルの関係団体などとコラボレーションを行うなど、様々な領域へ波及を広げた。

コーディネーターより

「創作したい」という同じ気持ちを持つ多種多様な方がしずかなアトリエを利用している。アートサポーターとしてスタッフワークをしている方も含めて創作が大好きで、それぞれのペースで創作できる環境は、古民家という場所も相まってとても居心地が良い。私が立ち会った日にアートカフェで食卓を囲みながらうかがったしずかなアトリエでの創作やそこで生まれた交流が生きがいにつながっているエピソードを話す参加者の方の楽しそうな様子が印象的だった。アートは心を豊かにし健康な暮らしに直結していることがとてもよく伝わる忘れられない時間だった。(佐久間)



団体所在地 | 茅野市
MAP A07

- 1 | 「しずかなアトリエ」での創作
- 2 | アートカフェでは、参加者・スタッフとも食卓を囲む
- 3 | 様々な団体とのコラボレーション企画を開催

活動内容

「しずかなアトリエ」

毎月2回(第1水曜日…半日・第3水曜日…半日・1日利用可)実施
開催日 |
【1日】4/16、5/21、6/18、7/16、8/20、9/17、10/15、11/19、12/17*
1/21、2/18 ※アートカフェ同時開催
【半日】6/4、7/2、8/6、9/3、10/1*、11/5、12/3、1/7、2/4*
*アーティストを招いたアートワークショップ開催

他団体とのコラボ活動

- 6/30 アーツ・ユニバース 「しずかなアトリエ体験」
- 7/27 「おどりば」@アトリエももも
- 9/21 hanpo かきねをわたるアート展 & トーク



もももフェス (しずかなアトリエ展示および作品販売)

開催日 | 2026/1/24

個展等のキュレーションサポート等

- 7/5~9/15 八ヶ岳美術館企画展「堀之内聖 一緒に生きる私たち」
- 10/9~18 「はっきょい! 推しと一緒に11年大相撲と18歳のわたし」

会合参加・出展

- 5/29 第1回不登校児童生徒支援者連絡会
- 7/30 第1回学びの支援関係者懇談会
- 11/6 第2回学びの支援「よりそう」交流会
- 11/23 よりそう2025~みんなで考える多様な学びフェア~

Program A
08 伊那谷クリエイティブアーツ

SOURCE of SOUND in NAGANO
~長野の大地から生まれる、音の源を探る~

活動概要

伊那谷の自然環境や地元の祭り、合鴨農法、さらには産廃施設のゴミが出す音まで一一。地域に潜むあらゆる音と光景を採集し、「音楽×映像×ダンス」空間へと昇華させるプロジェクト。フィールドレコーディングによる楽曲制作、映像化、DJによるライブセットを伊那谷要素で構成。南信地域では類を見ないクロスジャンルのセッションを通じ、地域の文化表現を拡張しながら、五感を揺さぶる楽しいアート空間を創出した。

コーディネーターより

辰野町の「neu stand.」は、熱気に包まれていた。商店街で来場者がハイタッチを交わす光景は、この場所に新たな文化の火が灯った様に見えた。県外者も多い。伊那谷の日常から紡ぎ出されたビートと映像が流れ出すと、会場の温度は一気に上昇。地元の子供たちからプロのダンサーまでが即興で混ざり合う、まさに自己の解放とも言えるホットな時間が流れた。ジャンルや世代を超え、地域固有の素材で盛り上がる。その光景は、伊那谷が持つ無限の可能性を示してくれた。(小澤)



団体所在地 | 辰野町
MAP A08

- 1 | SOURCE of SOUND in NAGANO 制作チーム
- 2 | 辰野町「neu stand.」には音楽関係者やダンサーも集結
- 3 | 伊那谷の音源を隈無く収録

活動内容

- 7/4,5 フィールドレコーディング1回目
辰野町-箕輪町
蛇石キャンプ場/川島地区合鴨農法の田んぼ
産業廃棄物センター/茅野高原/JR辰野駅
その他周辺でフィールドレコーディングを実施
- 9/23,24 フィールドレコーディング2回目
蛇石キャンプ場/川島地区合鴨農法の田んぼ
産業廃棄物センター/茅野高原/JR辰野駅
その他周辺でフィールドレコーディングを実施
- 10/19 Source of Sound in NAGANO開催
場所:辰野町「neu stand.」



Program A
09 伊那VALLEY映画祭実行委員会

第7回 伊那VALLEY映画祭

活動概要

「戦後80年特集 日本・アジア・伊那谷」をテーマに、伊那谷・天竜川水系を様々な視点から捉え、現代史の歩みを再検証する映画・テレビ番組・映像作品を上映。すべての作品で監督や関係者などゲストを迎えたトークや解説を実施し、731部隊の証言者・清水英男さんも登壇した。また、活動の持続に向け運営への若手の参画を図るとともに、伊那市内の高校で世界史を教える小川幸司さんの講演を行い、中高生から高齢者まで幅広い参加を得た。

コーディネーターより

劇場公開の映画から地元ケーブルテレビの番組まで、戦争、民俗、伊那谷の視点をもつ選り抜きの作品を上映し毎年新たな発見がある。地域の映像の資源化に繋がる側面があると感じる。戦後80年、体験者が少なくなる中で、清水英男さんの証言を生でお聞きすることができ、過去の戦争に対する距離感や現実感が更新された。また、地域の体験者と向き合い、その記憶を高校の授業を通して次世代に受け渡してきた小川幸司さんの実践の話から、後の時代を生きる世代の役割にも思いを馳せた。ユニークで貴重なこの映画祭が長く続く運営体制の持続化を期待したい。(野村)



団体所在地 | 伊那市
MAP A09

- 1 | 映画祭のスタッフたち
- 2 | 上映会場の「かんでんばほホール」入口
- 3 | 会場内の様子

活動内容

7月25日(金)【特集:アジアの記憶 日本の記憶】

開会挨拶:北村皆雄[委員長]
アニメ『蒼い記憶 満蒙開拓と少年たち』(1993)
解説:久保田桂子[ドキュメンタリー映画監督]
『満州富士見分村〜戦後70年の証言〜』(2015)
トーク:早出伸哉[ディレクター]
『韓国巨文島47年目のにっぽん村〜知られざる漁民移住史』(1993)
トーク:高柳俊男[法政大学教授 韓国研究]、北村皆雄[監督]
『スズさん〜昭和の家事と家族の物語〜』(2021)
トーク:大塚敦[監督・桜美林大学教授]

7月26日(土)【特集:戦争を記録した人たち】

『花はどこへいった:ベトナム戦争のことを知っていますか』(2007)
トーク:坂田雅子[監督]
『731部隊 最後の証言』(2023)
トーク:清水英男さん[出演者]、伊藤秀男[ディレクター]
「高校生と戦争の記憶を継承する-伊那谷での授業実践」
講演:小川幸司[長野県伊那弥生ヶ丘高等学校教諭]
『石川文洋を旅する』(2014)
トーク:石川文洋[写真家]、唐木孝治

7月27日(日)【特集:名作映画を見る/老いと人生】

『私は貝になりたい』(1959)
解説「BC級戦犯について」:宮下宣裕[元NHKディレクター]
『ぼけますから、よろしくお願ひします。』(2018)
トーク:信友直子[監督]
『人生フルーツ』(2016)
トーク:伏原健之[監督]



Program A
10 特定非営利活動法人F.O.P

あなたにもできる!森を、暮らしを、地域を#ミナナデビルド! 森の冒険ミュージカル&家づくりドキュメント 「懐かしい未来へ」上映ライブの開催

活動概要

荒れた森を整備し、今では野外保育や表現活動等の場として様々な人が集う場となっている奏の森。その歩みを記録した映像作品をもとに、県内外4カ所で上映会とライブパフォーマンスを実施。パフォーマンス会場では、家の模型や家ができるまでの写真を展示するなど、奏の森に訪れたことのない人も楽しみながら活動を理解できるよう工夫を凝らしながら循環型の暮らし・地域づくりについて伝えた。また上映後は「懐かしい未来会議」を設け、参加者と感想や想いを共有する場を作った。

コーディネーターより

上映会ツアーは、アーツカウンシルの活動を通じて出会った団体との連携を活かしつつ、丁寧に地域との関係性を築きながら準備を行った。実際の上映会では、行政地区を超えて地域の担い手が交流する場にもなり、アートや音楽が地域をつなぐ力になることが再確認される。また、本事業で初めて奏の森を知り、その後実際に足を運ぶ人が多く現れるなど、循環型の暮らしに共感する新たな仲間の輪が広がっている。現在も各地から上映希望の声が届いているようだが、今回で生まれたつながりが根を広げ、各地で新たな動きへと育っていくことを楽しみにしている。(早川)



団体所在地 | 中川村
MAP A10

- 1 | 諏訪大社奉納舞台・演舞の様子
- 2 | 森の冒険ミュージカル&上映ライブのメンバー
- 3 | 懐かしい未来会議の様子

活動内容

上映ライブ@奏の森

活動日時 | 6/28-29
活動場所 | 奏の森(中川村)

天竜川の源流掃除 諏訪大社奉納舞台・演舞

活動日時 | 8/31
活動場所 | 諏訪大社前宮

上映ライブ@静岡県島田

活動日時 | 8/10
活動場所 | 島田市地域交流センター 歩歩路

上映ライブ@諏訪

活動日時 | 10/26
活動場所 | 神宮寺公民館

上映ライブ@横浜

活動日時 | 12/6
活動場所 | 753Village Co-coya(横浜市)

上映ライブ追加公演@奏の森

活動日時 | 2/21
活動場所 | 奏の森ハニカムハウス





1



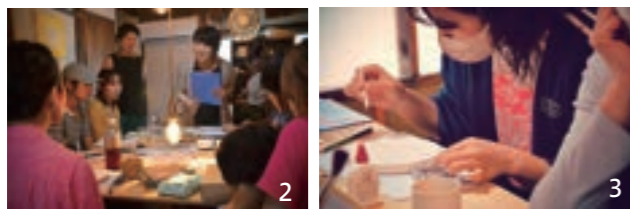
1

Program A 11 ○○Emergence Lab○

ハロー地球2025、高原表現合宿

活動概要

須坂市にて月に1度、それぞれ分野の異なる講師を迎え、各テーマに沿ってものづくりや対話をしながら、多様な角度から自分たちを取り巻く世界について語り、考え、表現するワークショップ「ハロー地球！」を開催。また特別編として、下道基行氏を講師に2泊3日の宿泊プログラム「高原表現合宿」を実施。12歳～40歳の8名が参加し、峰の原高原ならではの環境の中で自己の表現とは何かに向き合いつつ、最後は「100年後の自画像」をテーマに物語を執筆・共有した。



2

3

コーディネーターより

各ワークショップでは、ただものを作るだけではなく、テーマにまつわる自身の記憶や物語を他者と共有する要素が紛れており、「表現」が自分を内省するツールにもなっていた。回を重ね、表現を通じて自分を分かち合う時間を重ねたことで、フラットに対話し受け止める空間が作られ、各々の抱える感情や悩みも打ち明けられるようなケアの場にもなっていた。地域の中に安心して表現・対話ができる仲間がいることの意味は大きく、この柔らかなコミュニティがゆるやかに続いていくことを願っている。(早川)



団体所在地 | 須坂市
MAP A11

- 1 | 高原表現合宿
- 2 | 出せなかった手紙を書く《物語り方の可能性》の様子
- 3 | なんでもない日のドローイング《日々を彩る》の様子

活動内容

ハロー地球！ワークショップ

5/17 なんでもない日のドローイング《日々を彩る》

活動場所 | gallery&ものづくりスペース変化大名
講師 | 岡村知美(変化大名ギャラリーオーナー)

6/14 出せなかった手紙を書く《物語り方の可能性》

活動場所 | ギャラリー変化大名
講師 | 池端規恵子(映像作家)

7/19 世界に一枚、夏のワンピース《衣服にまつわる記憶》

活動場所 | ギャラリー変化大名
講師 | 北澤麻希(元ISSAY MIYAKEデザイナー)

8/10 家庭料理と物語《誰かの思い出》

活動場所 | あっぷさいくる蔵部 Uラボ
講師 | Nina(料理家)

9/27 みんなの哲学対話《生き様、死に様》

活動場所 | あっぷさいくる蔵部 Uラボ
講師 | 石山秀明(哲学研究者)

10/11-13 高原表現合宿《2泊3日のアート合宿》

活動場所 | ペンションスタートライン、cafebar CHICHIPI
講師 | 下道基行(現代美術家)

12/27 ポットラックパーティー《手元から見える世界》

活動場所 | KAYA Studio

Program A 12 大鹿村民話会

大鹿村の歴史の語り部たちから 民話を伝えるプロジェクト

活動概要

大鹿村で失われつつある口頭伝承の「民話」を次世代へ継承するため、1991年以来34年ぶりに第2集となる民話集を制作した。また、より多くの方に知ってもらうため、webやSNSでの発信にも力を入れたり、民話ゆかりの場所を巡る村巡りツアーを実施した。同時にクラウドファンディングを通じて48名の支援があり地域内外の方が村の民話に興味を持ってもらうきっかけとなった。

コーディネーターより

大鹿村の資源は歌舞伎を筆頭に数多くあるが、そこに暮らす語り部のみなさんもその一つ。観光地ではなく、地元の人すら立ち寄りたくない場所にも、古くから言い伝えがあったり、祠や社で大切に祀っていたり。村巡りツアーで直接その場を訪れ語り部からお話を伺える体験を通して、勝手に「歴史」として自分の時代とは違うと考えていたこともゆっくと時が流れながら今につながっていることを感じる事ができた。豊かで過酷な地域だからこそ伝わる民話がたくさん眠っており、多世代が関わりながら失われる前に次世代へ紡いでいる取り組みだった。(佐久間)



団体所在地 | 大鹿村
MAP A12

- 1 | 村巡りツアーでは民話ゆかりの場所を訪れた
- 2 | 定期的に集まり編集作業を続けた
- 3 | 大鹿村の民話第二集が完成



2



3

活動内容

クラウドファンディング(for Good!)実施

実施期間 | 8/1~31
48名から支援

村巡りツアー実施

村内で民話ゆかりのスポットを巡る「村巡りツアー」
開催日:10/25,11/8,11/15

民話集制作

2月に完成

記録・発信

noteで活動の様子を発信
<https://note.com/ooshikaminwa2025>

Youtubeで民話の語りや活動について発信
<https://www.youtube.com/@大鹿村民話会>



Program A
13 おどりば企画

「おどりば」

— おどりは生活の中に 人生はおどりのように —

活動概要

身体表現に関心がある人、また、自分の心身と向き合いたい人をダンス経験の有無に関係なく公募。ダンスや演劇を専門とする3人のメンターが、様々な理由で「おどりたい」参加者と個別に向き合い、コンテンポラリーダンスの創作を行った。自己の身体・ダンスへの探求心や過去の記憶、パーソナルな感情などをメンターが受け止め、対話して作品に昇華させ、観客の前で披露した。

コーディネーターより

「おどり」を媒体として心身についての理解を深めつつ、上演作品としても成立させるメンター達の妙技が光る企画であった。
7人中5人の参加者がダンス創作未経験であったが、メンターとの対話や他の参加者のアプローチに触れることによって、独自の作品の輪郭を掴んでいった。
公演では各々の現時点での「答え」を身体で表現し、最後のオープンリノでは観客も踊り出し、おどりが内包していた熱を共有し、大団円となった。
各地域でのワークショップは全て満員で、多くの方々に注目されている。今後の企画の発展も楽しみである。(清水)



団体所在地 | 松本市
MAP A13

- 1 | ワークショップ参加者
- 2 | 創作体験ワークショップの風景
- 3 | 発表に向けての稽古



活動内容

創作体験ワークショップ

- 6/15 まつもと市民芸術館スタジオ2
- 7/13 犀の角(上田市)
- 7/27 荒神の古民家(茅野市)

「おどりばびらき」

- 7/6~8/17 参加者募集
- 8/30 参加者決定
- 9/3 おどりばサポーター決定
- 9/14 顔合わせ
- 9/14~1/12 個別リハーサル
- 10/4 倉田翠特別ワークショップ
- 11/15 中間発表
- 1/17,18 「おどりばびらき」本番
- 2/16 振り返り会



Program A
14 きそ歴史芸術文化調査研究会

百草in木曾谷

「専門領域交差型アーティスト・イン・レジデンス」

活動概要

木曾谷の資源・工芸文化をコンセプトにした一棟貸し施設「玄草」にて、シェフ、動物考古学者、アーティストら異分野の3人の表現者が滞在研究を行うアーティスト・イン・レジデンス事業。地域リサーチや住民との交流、公開トーク、ポッドキャスト発信を通じて、専門領域の交差から新たな創造と地域のストーリーを想起。成果展では制作物や記録を公開し、木曾谷の新たな価値と可能性を発信した。



コーディネーターより

異なる分野で活動する3名が初めて顔を合わせたにもかかわらず、わずか3日間で深い信頼関係を築き、終始いきいきと交流していた様子が印象的であった。木曾地域の文化や特性を共有する中で、それぞれの専門的視点から多様な提案や発想が自然と生まれ、動物考古学者が石器時代の調理法をシェフに提案する場面や、シェフがアーティストに地域特性を視覚化するメニューデザインを求める場面など、分野を越えた対話が活発に展開された。今後もこの関係性が継続し、新たな視点や創作の契機へと発展していくことを期待したい。(小澤)



団体所在地 | 木曾町
MAP A14

- 1 | 異なる領域の表現者3人で木曾を巡る
- 2 | 「玄草」でのトークイベント
- 3 | 地元の方に頂いた食材で作った「あて」

活動内容

異なる領域の表現者3人が集った
アーティスト・イン・レジデンス事業を行った

[滞在した表現者]
・廣瀬允人(動物考古学者) ・服部大地(シェフ)
・中島宗一郎(アーティスト)

令和7年4月~8月
企画検討会議、周知活動、hitokoro Radio第1回~3回収録
令和7年9月30日 参加者決定

令和7年10月~11月
公募アーティスト事前ヒアリング
研究打ち合わせ 周知活動
hitokoro Radio第4回収録

令和7年11月28日~11月30日
百草in木曾谷「専門領域交差型
アーティスト・イン・レジデンス」開催
hitokoro Radio第5回~6回収録

令和7年11月30日
公開トークイベント(約20名参加)会場:玄草

令和7年12月 hitokoro Radio第6回・第7回収録

令和8年1月 事業成果報告展準備、作家アンケート実施
令和8年2月5日~15日
事業成果報告展
会場:木曾町文化交流センター、ギャラリー・カフェSOMA



Program A
15 ぐるぐるシネマ

映画の自主上映会と講演会 ぐるぐるシネマ

活動概要

最寄りの映画館まで1時間以上かかる南牧村で、地域住民が観ることを念頭に映画作品を選定し、主に農閑期にあたる時期に上映会を開催。終映後、一緒に鑑賞した方と、感想やそれぞれの想いを共有するお話会も合わせて実施した。平和について考える人形劇や紙芝居、上映後の演奏会やトークなど、映画以外の企画も行った。時期を同じくして村内で「こども映画教室」の取組が行われたことにより、子どもたちの来場も多数あり、地域内での活動の認知度が向上した。

コーディネーターより

最寄りの映画館まで車で1時間半ほどかかってしまう環境において、地域の公民館的な場所でお茶を飲んだり、ごろごろしながら大画面で映画を観ることができ、観た感想や普段は話さないようなそれにまつわる経験なども共有してしまうような一体感があった。また、ぐるぐるシネマのメンバーが、それぞれの暮らしを営むなかで無理なくゆるやかに、でも今の地域で共有したい作品を選定しているところもこの活動の個性になっていた。活動を地道に続けてきたことで「映画好き」だけの会ではなく、映画を通したコミュニケーションの場となってきている。(佐久間)



団体所在地 | 南牧村
MAP A15

- 1 | 「型破りな教室」上映会
- 2 | 平和を願う人形劇と紙芝居
- 3 | 「アラヤシキの住人たち」上映後に宮嶋信さんによるチェロ演奏

活動内容

映画上映会後、鑑賞者と一緒にお話会を実施
※すべて南牧村市場集落センターで開催

「なみのおと」「なみのこえ」映画上映会
開催日時 | 4/29(火・祝) 9時~13時半~/16時~/19時~

平和を願う人形劇と紙芝居
開催日時 | 8/1(金)14時~ 出演 | 木島知草(人形劇・紙芝居)

「型破りな教室」映画上映会
開催日時 | 11/30(日)13時半~/18時半
※映画上映後、こども映画教室の映画メイキング映像「こどもが映画に出会うとき」を上映

「わたのはらぞこ」映画上映会
開催日時 | 2026/1/9(金)13時半~/18時半
登壇 | 点と(豊島晴香・加藤紗希)
※映画上映後、こども映画教室の映画メイキング映像「こどもが映画に出会うとき」を上映

「アラヤシキの住人たち」映画上映会
宮嶋さんを囲んでお話会
開催日時 | 2026/2/11(水・祝)13時半~/18時半
登壇 | 宮嶋信(チェロ演奏・お話会)

「プリズンサークル」映画上映会
開催日時 | 2026/2/26(木)13時半~/18時半

Program A
16 ころりん劇場企画部

西山のころりん劇場

活動概要

多世代の地域住民が中心となり、人形劇「注文の多い料理店」の創作ワークショップと上演を実施。加藤直氏演出のもと、人形や音楽、舞台装置の制作や照明なども自らが手がけた。ころりん劇場夏祭りでの試演会後には、再上演を希望する声が多く寄せられ、本格的に「西山の人形劇部」を結成。地域内外3箇所出張上演を行った。また、地域における鑑賞機会の創出として劇団野らぼうを招聘した公演を開催したほか、松本平を中心とした文化芸術情報を発信するフリーペーパーの発行を行った。

コーディネーターより

子どもが芸術に触れる場作りの視点から始まった人形劇部の活動だが、大人も子どもも一人の表現者として創作に向き合い、加藤氏ともフラットに対話を重ねながら、自分たちの活動のあり方や表現を模索する場となっていた。人形劇の上演後、前より公演やイベントに参加してみるようになったという住民の方が出てきたり、メンバーの子どもたちが学校で紙芝居を披露したり、さらには人形劇に関わりたいという子が出てくるなど、本活動は演者・鑑賞者双方にとって大きな刺激となったようだ。改めて暮らしの中に表現の場があることの重要性を感じさせる取組である。(早川)



団体所在地 | 山形村
MAP A16

- 1 | 人形劇試演会の様子
- 2 | 西山のころりん劇場メンバー

活動内容

活動日時 | 4/11-8/12 (稽古22回、自主練習10回以上)
参加人数 | 10名

ころりん劇場夏祭り 人形劇試演会&西山の合唱団の合唱
活動日時 | 8/12
活動場所 | 山形村山寺清水寺

出張人形劇上演
10/5 朝日村日の出市(朝日村薬師堂 日の出市)
10/5 山形村敬老会(山形村小坂地区 敬老会)
12/14 塩尻こども劇場クリスマス会(塩尻こども劇場)

ころりん劇場秋祭り
劇団野らぼう「ボボスタラタ山」公演&西山の合唱団の合唱
活動日時 | 10/17
活動場所 | 山形村の遊休農地まるますの森

まるます喫茶通信 一マルモリー 発行
発行 | 年4回発行





Program A
17 五福

巡りあるくらしプロジェクト

活動概要

伊那谷の風土から生まれた暮らしの記憶に目を向け、それらを拾い上げる5つのプロジェクトを実施。味噌玉を用いた味噌作りについて話し合うお話会や、陶芸活動に向け地域の風土を知るウォーキングの開催、ペチカについて学ぶお話会、箕輪町の民芸品であるホウキモロコシの簀作りの継承など、地域住民や有識者とともに、多角的に地域を学び、見つめなおす中で、暮らしの中の循環として文化を未来へつないでいくことを目指した。



コーディネーターより

本事業には、地域住民や移住者、地域外の参加者など多様な背景や世代の人々が集っており、各テーマに関心を持つ人々のコミュニティの場であると同時に、その関心や思いを地域へ伝える活動にも繋がっている。また味噌玉作りのお話会では、実際に文化を体験した方から話を聞き、記憶を共有する貴重な時間が生まれていた。内容が多岐にわたる分、調査や関係構築に時間を要する場面もあったが、その過程を通じて活動の認知が広がり、協力者も徐々に増えてきた。こうして育まれたつながりが無理のないかたちで循環し、今後の活動へと繋がっていくことが期待される。(早川)



団体所在地 | 箕輪町
MAP A17

- 1 | 箕輪町の工芸品の簀に使われるホウキモロコシ
- 2 | 東山山麓・長岡地区ウォーキングでの長岡神社見学

活動内容

- ①ペチカプロジェクト
7/2 有賀製材所への聞き取り調査
12/13 お話会「未来の暖房—ペチカのある暮らし」@和えの里
- ②伊那谷の味噌作り
6/3 味噌玉のお話会 vol.1
6/7 大豆の種まき
11/30 味噌玉のお話会vol.2
- ③伊那谷の土を使った陶芸(準備)
11/30 東山山麓・長岡地区ウォーキング開催
- ④ホウキモロコシの簀
5/24,9/28 安曇野へのホウキモロコシを使用した簀作り事例調査
6/7 ホウキモロコシの種まき@箕輪町内の圃場
9/20 ホウキモロコシ収穫
- ⑤南信ユースオーケストラ
2/23 木管ワークショップ実施
活動場所 | 飯田市立飯田東中学校
参加者 | 6名(箕輪中学校、飯田東中学校、伊那西高校、阿智高校、飯田高校)

Program A
18 さくほミングル

動きと表現・時々ミングル

活動概要

放課後等デイサービス施設らいおんハートに通う子どもたちを中心に、音楽とともに身体を動かす身体表現ワークショップを実施。一般参加が可能なワークショップの実施や町の文化発表会「冬まつり」でのステージ発表など、活動を地域に伝え開いていくことにも挑戦した。また、今年度は身体表現のファシリテーターを地域在住の竹田栄次氏がメインで務め、前年度講師を務めた砂連尾理氏をメンターに迎える形で実施するなど、地域に根ざした活動を内外から支える体制作りにも取り組んだ。



コーディネーターより

活動の性質上完全にオープンな形で実施することが難しく、活動を地域に伝える部分が課題となっていた本事業。冬まつりでは、普段の活動を見てもらう形で地域へ開いていくことを試み、普段の活動で子どもたちが楽しんでた、楽器を演奏しながら練り歩く「パレード」を来場者と共に行ったりなど、会場全体が“ミングル”する時間が生まれた。地域住民に活動が受け入れられる手応えを実感できる場として、運営側にとっても大きな一歩となっていたようだ。普段の活動の積み重ねにより、参加者が安心して活動できる場が作られていたからこそ実現した発表であった。(早川)



団体所在地 | 佐久穂町
MAP A18

- 1 | 茂来館「冬まつり」でのステージ発表
- 2 | らいおんハート佐久穂でのワークショップの様子

活動内容

- 8/6 身体表現ワークショップ@ほっとカフェ
活動場所 | 佐久穂町福祉協議会2F 交流サロン「ほっとカフェ」
参加者 | ほっとカフェ来場高齢者、らいおんハート佐久穂通所児童、佐久穂町障害者福祉施設「陽だまりの家」通所者
- 11/24 身体表現ワークショップ@らいおんハート
活動場所 | らいおんハート佐久穂
参加者 | らいおんハート佐久穂・南佐久穂通所児童、佐久穂町の親子
- 12/13 身体表現ワークショップ@茂来館
活動場所 | 佐久穂町生涯学習館「花の郷・茂来館」中会議室
参加者 | らいおんハート佐久穂通所児童・南佐久穂通所高校生、地域住民
- 1/12 身体表現ワークショップ@らいおんハート
活動場所 | らいおんハート佐久穂
参加者 | らいおんハート佐久穂通所児童、南佐久穂通所児童(重度心身障害児含む)
- 2/15 佐久穂町の文化発表会「冬まつり」ステージ発表参加
活動場所 | 佐久穂町生涯学習館「花の郷・茂来館」
出演者 | らいおんハート佐久穂通所児童、らいおんハート南佐久穂通所児童親子、佐久南高校生、大村麻耶、竹田栄次

オンライン勉強会

活動日時 | 9/3、12/17、2/25
講師 | 砂連尾理
参加者 | さくほミングルスタッフ、竹田栄次、らいおんハートスタッフ、佐久穂町福祉課職員



1



1

Program A
19 山麓おちつくおうち計画



団体所在地 | 大町市
MAP A19

- 1 | 参加滞在者(後列)と、山麓おちつくおうち計画メンバー(前列)
- 2 | 「いったんおちつこう」
- 3 | 初日の顔合わせ会

山麓読書七夜

活動概要

北アルプス山麓の大町市にて、読書を通じた滞在プログラム「山麓読書七夜」を初開催。公募で選ばれたアーティスト、執筆家、書店店主、キュレーターら4名が、教員住宅を改装した施設「あさひAIR」に滞在。作品発表などの成果を求めない7泊8日の中で、豊かな自然や地域の風土、食に触れながら、思索を深めるインプットの時間を過ごした。

交流棟での座談会や食卓を囲んだ対話を通じ、専門領域を超えた創作への姿勢や孤独の在り方を共有。地域に流れる緩やかな時間の中で新たな気づきを得た。



2

コーディネーターより

アーティスト・イン・レジデンス(AIR)事業は、成果発表のパッケージ化により、時に制作者を窮屈にさせてしまう場合がある。しかし本プログラムは、一軒ずつ個別の宿泊棟を割り当て、「読書」を介して個の時間を尊重する、極めて自由な滞在モデルを提示した。

山にテントを張る夜、遠くに見える他者の灯りに安らぎを覚えるような、付かず離れずの心地よい距離感。無理に団体行動をせずとも、同じ敷地内に「仲間がいる」という気配が、思索を深めるための静かな連帯感を生んでいた。AIR本来の価値を見失わない、ありそうでなかった「自然体」でいられるAIR事業の新たな形である。(小澤)

活動内容

■参加者(公募による参加者4名)

- 栗本凌太郎(日記屋月日 店主)
- 清水里栄(作家)
- 原田桃望(キュレーター、ライター)
- 三原聡一郎(アーティスト)

【団体スケジュール】

- 5月11日 Instagram上にて企画概要の発表
- 5月12日 6月1日「山麓読書七夜」参加者公募期間
- 6月11日 当団体メンバーによる選考会
- 6月15日 四名の参加者を発表
- 7月14日 7月21日あさひAIRにて「山麓読書七夜」実施
- 7月23日 レポート作成

【参加者たちのスケジュール】

- 初日(7月14日)
 - ・あさひAIRにチェックイン、顔合わせ会
 - ・夜は交流棟にて夕食を囲む
- 4日目(7月17日)
 - ・希望者で仁科三湖を見てまわる
 - ・交流棟前のウッドデッキにてパーベキューを囲む
- 7日目(7月20日)
 - ・交流棟にて滞在者4名と運営メンバーによる「読書座談会」を開催
 - ・終了後は大町の友人・知人たちが作ってくれた夕食を囲んでの交流会
- 8日目(7月21日)
 - ・あさひAIRチェックアウト



3

Program A
20 振動興業



団体所在地 | 須坂市
MAP A20

- 1 | 「山水と思い出」
- 2 | 稽古中の一コマ
- 3 | アイデア出し

いりまじる残像

— 北信地域の高齢者から始まる表現活動の試み —

活動概要

「身体」という観点を中心に据え、「健やかに年齢を重ね、豊かに生きていくこと」を探る取組を、須坂市の満龍寺を拠点に、地域住民や満龍寺に縁のあるクリエイター達が関わり合いながら行った。身体を動かすエネルギーの源となる「食」に着目するワークショップや、自分自身の身体に意識を向けて動きやすい体を養うための体操クラス、シニア世代の参加者と身体表現の創作発表を行うワークショップ、活動を振り返る記録展示を実施した。

コーディネーターより

普段はダンスのような大きな動きをしない高齢の方がダンスを踊るとき、肉体的な制約と同じくらい「恥ずかしい」といったような精神的な制約を感じる。振動興業のクリエイター陣はこの両方の不安を取り除く術に長けており、参加者の中に眠っていた創造性を次々と引き出していった。楽しく身体を動かしているうちに、表現としての身体活動は日常の中でも実践できるようになり、以前より日々を楽しく過ごしているという声も聞こえてきた。年齢を重ねた身体だからこそできる表現を追求したダンスは、「プロ」の表現とは一味違った説得力があった。(清水)

活動内容

山水体操

6/13, 6/27, 7/11, 7/25, 9/12, 9/26, 10/10, 10/24
須坂市勤労青少年ホーム「創造の家」
講師 | 鈴木彩華

食と踊りのワークショップ「私は山に、山は私に」

6/15 満龍寺(須坂市)
講師 | 稲見朋子・鈴木彩華

「山水と思い出」創作稽古

9/4, 9/18, 10/2, 10/16, 10/30, 11/13
長野市柳原交流センター
講師 | 鈴木彩華

「山水と思い出」本番

11/15 満龍寺(須坂市)
第1部「山水と思い出」
出演 | あけみさん、えっちゃん、ふくちゃん
みいちゃん、れいちゃん
振付 | 鈴木彩華
音楽 | 中島水

第2部「主体の在処」
振付・出演 | 鈴木彩華・植田崇文

第3部 小林直博×鈴木彩華 トーク

活動記録写真と動画の展示

1/5-24 カフェかめはら(高山村)



2



3



Program A
21 創造の森プロジェクト実行委員会



団体所在地 | 飯田市
MAP A21

1 | 第1回 創造の森 現場展

創造の森プロジェクト

活動概要

令和6年度をもって閉館した長野県飯田創造館の利用者が中心となり、移転先の新たな拠点施設である南信州広域連合文化芸術活動支援センター(はにかむベース)において活動を継続し、各種講習会や「第1回創造の森現場展」といった自主事業の運営、技能向上、人材育成等を図るとともに、多世代に活動を開き、人々の交流、地域文化の発信源となることを目指した活動を行った。

コーディネーターより

地域住民のアトリエとして、講座や事業の主催もしていた県立の文化施設が閉館となり、機能を移転した新拠点で、利用者が主体となって実行委員会を立ち上げ、講座や展覧会などの活動を継続し「利用者が場を維持する」というチャレンジを始めたのが本事業だ。背景には様々な事情があるが、県民の活動の場が失われるのは望ましいことではない。移された拠点での活動の再スタートだけでもひと苦労と想像するが、2月の展覧会は充実したものだった。年を一巡し、今後新たな交流が生まれ、この状況をポジティブに捉えられるようになることを願う気持ちである。(野村)

活動内容

- 7月26日(土)、27日(日)
木工講習会 参加者5名
- 7月21日(月)、8月2日(土)、3日(日)、10日(日)
彫塑講習会 参加者 実技15名 講演会20名
- 7月26日(土)、27日(日)、8月2日(土)
陶芸講習会 参加者10名
- 9月27日(土)、10月4日(土)
銅版画講習会 参加者10名
- 10月11日(土)、12日(日)
裸婦写生会
- 2月21日(土)~23日(月・祝)
第1回 創造の森 現場展 開催
出品:31団体、320人
来場者数:1,140人

Program A
22 NPO法人多津衛民芸館



団体所在地 | 佐久市
MAP A22

1 | “とちどち”×多津衛民芸館 環境問題となっている鹿の革を活かすワークショップ
2 | 市民回復センター望月「芸術はくすりになるのか」

民芸館学校

活動概要

「平和と手仕事」の理念を次世代へ伝えていくため、多様な学びの場を展開した。「アート・コーヒー・クラブ」では、「民藝」誕生から100周年にあたり、初代館長・小林多津衛の原点や「平和と手仕事」の言葉に込められた願い、民藝の未来を語る対談を実施。「市民回復センター望月」では文化芸術が“人々の心のケアと回復を促すものになる可能性”を探った。また、子どもを対象にした陶芸や鹿革のワークショップ、クロージングとして電灯を消して過ごす「EARTH HOUR」を行った。

コーディネーターより

民間の力によって30年前に建てられ芹沢銈介をはじめとする工芸品がならぶ多津衛民芸館にて、ちょうど100年前の大正時代に生まれた民藝という言葉や概念について、あらためて学び深く知ることが混乱の今を生きるヒントになっている。アートコーヒークラブや市民回復センター望月の取り組みは、現館長のロジャーマクドナルドさんを中心に様々な角度からゲストを招き、日本と世界、過去と未来、リアルとオンラインなどを行き来しながら民藝や文化芸術の社会的役割や価値を模索しているところが特徴的だった。(佐久間)



活動内容

- 講座「市民回復センター望月」
4/19(土)~5/5(月) 展覧会「ヒルマ&エマ:まだ見ぬ未来からの使者たち」
4/19(土) ギャラリートーク 登壇:澤文也、ロジャー・マクドナルド
6/29(日) 「芸術はくすりになるのか」
ゲスト:小川 康(チベット医師・森のくすり塾代表)
ギャラリートーク登壇:大谷典子、澤文也、ロジャー・マクドナルド
- 10/18(土)~27(月) 展覧会「臼井明夫展 Flowers with Love(障がい者アート)」
10/26(日) ギャラリートーク
10/25(土) デヴィッド・トゥープ&アニア・ブセニツニコフ
パフォーマンスとトーク「Soundbody by Moreskinsound」
ゲスト:デヴィッド・トゥープ(サウンド・アーティスト)
アニア・ブセニツニコフ(舞踏家)
- 講座「アート・コーヒー・クラブ」
5/18(日) 開館30周年記念企画「小林多津衛と白樺派」
講師:ロジャー・マクドナルド
ゲスト:吉川 徹
- 7/20(日) 「民藝100年の旅」対談会
講師:ロジャー・マクドナルド
ゲスト:後藤 繁雄(編集者、プロデューサー)、
服部 滋樹(デザイナー、プロデューサー)、澤文也
- ワークショップ 子どものための手仕事ワークショップ「陶芸」
8/3(日) 講師:小池たき子
- ワークショップ “とちどち”×多津衛民芸館
「鹿革のインナーフラップポーチづくり」
11/23(日) 講師:“とちどち”駒場拓也、鶴田剛郎、由井まなみ(鹿のお話)
- イベント EARTH HOUR in 民芸館
「Ritual for the Earth ~闇と光とともに~」
12/14(日)



1



1



2



3

Program A
23 ちいさがた未来民話研究会

環境変化と民話／過去の気候変動に関わる民話や、近年の気候変動に伴う環境変化から市井の人々に起こった出来事も採集し、現代生活に活かすため、表現として、後世に残すプロジェクト。

活動概要

信州で過去に起こった気候変動や災害に関連する民話をリサーチし、現代の新たな災害民話劇として創作するプロジェクトの3年目。2年間上演を重ねている災害民話劇『鳴動』を上田市の別所温泉で、新たな形で再演。あわせて、岩熊力也氏との協働で現代の民話の映像作品を発表するとともに、気候変動や災害伝承への理解を深めるための冊子を作成し、配布した。活動を持続化していくために参考となる素材を様々な形で制作した。

コーディネーターより

題材のテーマは重く、メッセージ性も強いプロジェクトであったが、アーティストは各々のアプローチで楽しみながら題材を解釈していった。その結果、畏怖を想起させながらも堅苦しさは感じさせないという絶妙なラインに作品を載せることができた。プロジェクト3年目となる今年の成果発表も屋外で行われ、当日はあいにくの雨模様であった。しかしその環境が災害民話の雰囲気を実感させ、全身で民話を感じることができた。公演後は観客同士で災害について対話する様子も見られ、3年間積み重ねてきたものが可視化された。今後の活動にも目が離せない。(清水)



2



3



団体所在地 | 上田市
MAP A23

- 1 | 本番の様子①
- 2 | 本番の様子②
- 3 | 観客同士の議論も活発に行われた

活動内容

災害と民話の理解を深めるためのリーフレット作成

7月 イラスト・デザイン | 佐藤妃七子
企画・制作 | 姫凜子 素材撮影 | 安徳希仁

「現代の民話」映像作品制作

7～8月 作・画・編集 | 岩熊力也 (GR19)
ドラマツルク | 姫凜子

リサーチ活動紹介動画制作

8月 企画・制作 | 姫凜子 撮影・編集 | 安徳希仁
監修 | 仲田恭子

成果発表公演

10月5日 別所温泉 大湯薬師歌碑公演(上田市)

○～災害を民話で楽しく学ぶ 大人も子供も楽しめる～
『アヴァンギャルド創作民話音楽劇「鳴動2025 in 上田」

総合演出 | 仲田恭子 (アートひかり) 企画原案 | 姫凜子
出演 | 姫凜子 (パフォーマンス・朗読)

大隅健司 (声・パーカッションなど)

葛目絢一 (ホーメイ・イギルなど)

特別ゲスト | 百鬼ゆめひな (ひとかた人形師)

○現代・未来の民話映像上演

・未来の民話一創作民話映像
映像制作 | 岩熊力也 (画家・映像作家・音楽家。木曾ペインティングス)
演奏 | GR19 (岩熊力也・micci・中條聡・田中聡)

・現代の民話一災害民話劇上演への歩み

映像制作 | 安徳希仁 原案 | 姫凜子

*地域ゲストアーティスト: 直井保彦 (おどり)

○飲食出店 | rlung (レン) カレー、自然派おやつ、飲み物

Program A
24 一般社団法人ツキカラカエル

W.I.P : Work in Progress (途中)

活動概要

富士見町瀬沢集落にある旧寒天工場の売却検討をきっかけに始動した、地域文化の継承プロジェクト。かつての「結(ゆい)」の精神を現代の視点で再編集し、海外作家を招聘する滞在型プログラムの構築を目指す。今回は、アーティストの Sherry Zheng (オーストラリア) が滞在。民話の朗読会や農作業への参加を通じ、集落の内外が交わった。あえて完成を急がず、変化し続ける「途中(WIP)」のプロセスを記録・共有することで、住民と共に新たな郷土の価値を再発見する。この歩みは、将来的な集落芸術祭の開催や、場所の記憶を繋ぐ大切な一歩となった。

コーディネーターより

旧寒天工場の文化拠点化を目指す中、ソーラーパネル建設業者への売却危機が検討され、現代の地方が同様に抱える切実な問題に直面した。一時は拠点喪失の窮地に立たされたが、その「紆余曲折」さえもプロジェクトの厚みへと変えるべく粘り強く続行した。場所を自分たちの手で確保する未来を見据えつつ、柔軟に変更し、海外からの作家の招聘を開始した。この取り組みは地域の誇りや風景の再発見、または地域問題へ多角的な視点を与える契機となるはず。(小澤)



団体所在地 | 富士見町
MAP A24

- 1 | 滞在アーティスト Sherry Zheng
- 2 | 地元の方へのリサーチ
- 3 | ワークショップ「Walking and Gathering」イメージ

活動内容

- 2025年5月19日 元寒天工場(瀬沢集落区長) 面会
- 2025年7月-9月 元寒天工場草刈り支援活動
- 2025年9月 元寒天工場所有者より土地の売却の話にて会場候補から外れる
- 2025年10月 Farm Stay 候補の細川農園打ち合わせ(富士見町若宮地区)
- 2025年11月 スイス拠点 artist Felix Stockle との online meeting
ベネズエラ生まれ上海育ちの artist Jose Miguel と online meeting
- 2025年12月 WIP アーティストの表現場所候補の森打ち合わせ
- 2026年1月 デザイナーと特設ページ制作
- 2026年2月 オーストラリア拠点アーティスト Sherry Zheng 来日
(富士見商店会の全店舗、民話朗読の会、Fujimi Farming Club、地元地域の方々との懇親会、Walk Shop 開催、烏帽子集落改修 + 懇親会)



Program A
25 だんどうりゅうひゃくおにゆめひな



団体所在地 | 飯島町
MAP A25

- 1 | 108人の観客と「化けるんです」
- 2 | 百鬼ゆめひなの人形が優雅に舞った
- 3 | 「だんどうりゅう寺子屋」の風景

だんどうりゅう祭り 伊那谷化けるんです

活動概要

〈だんどうりゅう一人劇〉による人形演舞を軸にしなが、様々なジャンルのソロパフォーマンスを上演する祭り「伊那谷化けるんです」の3年目。飯島町文化館の大ホールの舞台上に客席を特設し、人形の表情が感じられる距離感での上演を行った。昨年度から実施している「だんどうりゅう寺子屋」では、だんどうりゅうの人形制作から上演までの創作過程をワークショップで学ぶ受講生たちと、いいだ人形劇フェスタほか、地域の催しにも参加。地域文化として浸透が進展した。

コーディネーターより

「だんどうりゅう寺子屋」として地域に「一人劇」を開いて2年目。3年前のワークショップからの参加者も多く、1年目の参加者に人形制作のコツをアドバイスするといった循環が生まれていた。複数の発表機会や思い切った舞台の使い方を打ち出す百鬼ゆめひな・飯田美千香さんを核に、寺子屋参加者以外の関係者や舞台スタッフの経験も積みあがった。いなばけの最後には観客に狐の面を配り、「みんなで化ける」仕組みを用意。観る側・演じる側の境界をゆるやかに越える場を創出し、創作に対する敷居を感じさせないつくりとなっており、今後の発展にも注目。(清水)

活動内容

- 4/26 だんどうりゅう寺子屋①
- 5/31 だんどうりゅう寺子屋②
- 6/30 だんどうりゅう寺子屋③
- 6/30、31 寺子屋メンバー自主公演
- 7/26 だんどうりゅう寺子屋④
- 8/10 いいだ人形劇フェスタ参加
- 8/23 だんどうりゅう寺子屋⑤
- 9/20 だんどうりゅう寺子屋⑥
- 10/25 だんどうりゅう寺子屋⑦
- 10/26 いいちゃん文化祭参加(飯島町)
- 12/7 「だんどうりゅう祭り 伊那谷化けるんです。」本番
- 12/27 振り返り会



Program A
26 NPO法人 ながのアートミーティング



団体所在地 | 長野市
MAP A26

- 1 | 藍染した端切れでコラージュトートバッグ作り!
- 2 | コラージュポスターブック作り
- 3 | それぞれのペースで創作を楽しもう

こもろのおうち 子供アトリエかぴらかぴら

活動概要

空き家を活用し、障がいや発達症、不登校などの児童・生徒、創作に興味のある方を対象に、プロとして活躍する多様なジャンルの芸術家と触れ合うワークショップを毎月開催。講師を派遣した出前アトリエや月刊誌の発行、1年間の作品を集めた展覧会を通じて、社会や地域と繋がる機会を創出した。表現活動が生む自己肯定感や他者理解により、参加者や家族の生きづらさを和らげ、支え合い、暮らしやすい地域を育む取組。

コーディネーターより

現場では、多様な特性を持つ子どもたちがそれぞれの歩幅で過ごしている。集団に馴染むことよりも個の創作を望む子に対し、決して型を強要せず、一人ひとりが安らげる居場所と表現の場を確保する姿勢が印象的だった。また、第一線で活躍する作家である講師陣は、大人や創作を楽しみたい人も受け入れてくれる。独自の在り方を持つアーティストとの対話や作品展は、参加者が心を開き、新たな自分を発見する貴重なきっかけだ。表現を通じたこの寛容なコミュニティは、皆に不可欠な「心の居場所」となっている。(小澤)

活動内容

- 4月20日 ワークショップ「自分の推しのアクスタをつくろう!」参加者19名
講師: Ch i h i r o (漫画家) / 森泉智哉 (画家・イラストレーター)
 - 5月25日 ワークショップ「ともだち石を見つけて名前をつけよう!」参加者22名
講師: 渡邊光子 (インスタレーションアーティスト、詩人) / GOKU (朗読家、詩人)
 - 6月29日 ワークショップ「本気(マジ)デッサンにチャレンジ!」参加者11名
講師: 油井祥子 (画家) / 森泉智哉 (画家・イラストレーター)
 - 7月27日 ワークショップ「生の藍の葉っぱでくちやくちや染め!」参加者22名
講師: 細ノ夏未 (染め作家) / 森泉智哉 (画家・イラストレーター)
 - 6月29日 ワークショップ「本気(マジ)デッサンにチャレンジ!」参加者11名
講師: 油井祥子 (画家) / 森泉智哉 (画家・イラストレーター)
 - 8月31日 ワークショップ「端切れコラージュトートバッグ作り!」参加者15名
講師: 細ノ夏未 (染め作家) / 森泉智哉 (画家・イラストレーター)
 - 10月26日 ワークショップ「箱の中に物語をつくろう!」参加者6名
講師: ハナサトミツキ (画家・イラストレーター) / 森泉智哉 (画家・イラストレーター)
 - 11月30日 ワークショップ「角りわ子先生の陶芸教室!」参加者15名
講師: 角りわ子 (陶芸家) / 森泉智哉 (画家・イラストレーター)
 - 12月14日 ワークショップ「角りわ子先生の陶芸教室! (色付け編)」参加者15名
講師: 角りわ子 (陶芸家) / 森泉智哉 (画家・イラストレーター)
 - 2月1日 ワークショップ「はって、東ねてコラージュポスターブックをつくっちゃおう!」参加者19名
講師: ソーダ書房 (山崎ナオコ・花本武) / 森泉智哉 (画家・イラストレーター)
- 2月1日~2月8日 「こもろのおうちかぴらかぴら作品展」開催/入場者166名



1



1

Program A
27

ナガノのいきづらさを繋げるフリーペーパーhanpo



団体所在地 | 長野市
MAP A27

hanpoキャラバン「かきねをわたりあるく」 ～オルタナティブ文化祭に向けて～

活動概要

県内各地域に住む生きづらさを抱えた当事者から作品を集め、繋ぐ展覧会「hanpoキャラバン」を3年間かけて県内10圏域に巡回し、集大成として「オルタナティブ文化祭」を開催するプロジェクトの1年目。今年度は、北信、上田、諏訪、木曽の4圏域で開催し、若者達を社会から隔て、また、守ることもある「かきね」をテーマにトークイベントを実施し、居場所づくりに関わるゲストと語りあいながら、当事者のゆるやかな繋がりを育んだ。

コーディネーターより

長野県内は思ったより広く、人間関係は思ったより狭い。若者は悩みを抱えたまま孤立しがちである。hanpoが各地で開催したキャラバンには、今まで可視化されていなかった若者たちが集った。直接会話を交わしたり、作品を通して共感したり、各々が安心できる形で接点を作れる場づくりがなされていた。当事者同士の出会いのほかにも、支援者同士が知り合い、お互いの取組状況や工夫などを共有しながらネットワークが強化されていく様子が印象的であった。県内の当事者と支援者を紡ぐhanpoの活動に今後も注目したい。(清水)

活動内容

hanpoキャラバン

6/15 in山ノ内町 山ノ内町 文化センター

ゲスト | 山ノ内町教育長 竹内延彦
参加作家7名 作品数32点 来場者18名

9/21 in茅野市 ゆいわーく茅野

ゲスト | アトリエももも 西川直子・鈴木真知子
参加作家30名 作品点数100点以上 来場者70名

10/19 in上松町 上松町公民館

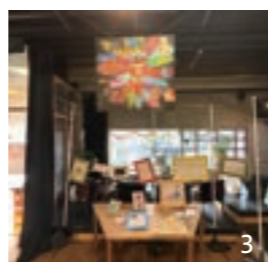
ゲスト | イラストレーター 大畑哲也
参加作家3名 作品点数114点 来場者9人

12/13 in上田市 犀の角

ゲスト | イラストレーター アオヤギマユミ
場づくりネット 元島生・秋山紅葉
参加作家20名 作品点数175点 来場者50名



2



3

- 1 | hanpoキャラバン茅野の集合写真
- 2 | ゲスト(アトリエももも 鈴木氏)との対談
- 3 | 犀の角(上田)の展示風景

Program A
28

一般社団法人ナナイロ



団体所在地 | 松本市
MAP A28

対話アート2027に向けた取り組み

活動概要

インクルーシブ・アートを展示する「対話アート NAGANO WEEK」を3年に1度の国際的なイベントに構築する事業の1年目。障がい福祉施設でのアーティスト・イン・レジデンスの公募を行い、駒ヶ根市の「西駒郷」に越智良江氏が滞在。24mの白い布の上を利用者や職員が絵の具を手に歩み、色鮮やかな軌跡を残すパフォーマンスを上演。記録した映像、写真、布作品などを松本市で展示した。福祉現場の日常と表現が穏やかに交差する豊かな時間を地域社会へ提示する試みとなった。

コーディネーターより

西駒郷の広大な芝生に敷かれた24mの白い布。秋の柔らかな光の中で、利用者たちががのびのびと筆を走らせ、布を鮮やかに染め上げていく光景は、ダンサーの軽やかな躍動と相まって、まるで夢のような穏やかに満ちていた。

この幸福な空間は、単なる偶然ではない。アーティスト越智氏の真摯な眼差しと、日々の生活を支える施設スタッフが築き上げてきた深い信頼関係が、表現の土壌となったのだと感じる。福祉とアートという枠組みを超え、互いの個性が響き合う瞬間に、この先の社会にあるべき「軽やかな壁の超え方」を提示してくれた。(小澤)



2



3

- 1 | JR松本駅自由通路での「傍、行きて、春、その時まで」記録展示
- 2・3 | 「対話アート」アーカイブ展示

活動内容

アーティスト・滞在先の選定

アーティスト公募(応募5件)を実施し、審査を経て越智良江氏を選定。演劇的要素を用いた映像作品制作の構想を採択した。滞在先施設として、作品構想と合致する長野県西駒郷に打診を行い、実施を決定。

滞在先制作・作品上演

10月23日より西駒郷にて滞在先制作を開始。10月28日、施設広場に24mの布を敷いた舞台を設置し、パフォーマンスを撮影。施設利用者、職員、俳優らが独自の描画材で布上を歩み、軌跡を残す作品を上演。

キックオフイベントの開催

11月9日、松本アートセンターにて開催。映像作品「傍、行きて、春、その時まで」の上映、アーティストトーク、高校生によるワークショップを実施。

作品展示の実施

11月9日～24日、松本市内3箇所で開催。松本アートセンター：映像上映および制作過程のメモ(ポストイット)を展示。葉日：本番使用の布や自転車、記録写真を展示。JR松本駅自由通路：衣装や写真パネルの展示、広報物の配布を実施。



Program A
29 ネイチャーピアノ

ネイチャーピアノ～古への旅

活動概要

自然の中でグランドピアノを奏で、自然と人間の持続可能な共存に思いを馳せるプロジェクト。信州アーツカウンシルの助成3年目となる今年は、伊那市東春近にある「老松場の丘古墳公園」でコンサートを行った。地元小学生が発見した南信最古の前方後円墳は、有志により心地よい風が吹き抜ける松林として整備されている。古代から人間と自然が紡いできた歴史に触れられるこの地に、ピアノや歌声、ハンドベルが響いた。

コーディネーターより

地域に眠る文化資源をフィーチャーし、アートとの相乗効果で認知度向上を果たした素敵な企画であった。コンサートは古墳の発掘調査に携わった濱慎一さんの解説から始まり、馬や農耕と共に生きていた4～5世紀ごろの伊那谷の人々の様子を知らることができた。連綿と続く命のバトンと、それを見守る天竜川。美しく情熱的なピアノや歌声で古代と現代を接続した。小学生が奏でるハンドベルの音色は未来への希望を予感させ、最後の会場全体での合唱は今を生きている人々による生命への賛歌のように聞こえた。(清水)

活動内容

現地視察・準備 老松場の丘 古墳公園(伊那市)
5/18、7/30、9/14・21

伊那市東春近小学校音楽クラブ ハンドベル演奏指導
9/11

伊那市東春近保育園 ミニコンサート
9/16

本番 9/27
ピアノ | 平澤真希
歌 | 湯澤かよこ
司会 | 樋代亜希子(いなあいネット)
歴史案内人 | 濱慎一
ハンドベル演奏 | 東春近小学校音楽クラブ



2



3



団体所在地 | 伊那市
MAP A29

- 1 | コンサートの様子
- 2 | 古墳公園の風景
- 3 | 保育園でのミニコンサートの様子

Program A
30 fatrripm

たびするはたけ 私たちの呼吸を彩る表現の旅 ～神川の詩き～

活動概要

上田市信濃国分寺にある古民家カフェ「パン食堂まほろば」を拠点にワークショップを開催し、都市部で活動しているアーティストと地元住民の交流機会を創出した。ワークショップで生まれた表現を元に演劇作品「すー、っと、きらり。」を創作。物語の舞台でもある愛知県豊橋市、東京都世田谷区、上田市で上演。各地に出会いと創造性の種を蒔いた。

コーディネーターより

ワークショップに参加している子供たちは、様々な面白い遊びに目を輝かせ、創造性を存分に発揮しながらアーティストとの出会いを楽しんだ。アーティスト側もまた、上田市信濃国分寺のあたたかな空気感の中で子供たちと関わり、表現の幅を広げていった。都市部の若手アーティストにとって、都市部以外での活動の機会は得ることが難しい。アーティストの活動範囲を広げる貴重な機会となった。創作された作品は都市部でも上演され、この活動の豊かさは伝播していく。地域と芸術が出会い、双方に豊かさをもたらす素敵な事業となった。(清水)



2



団体所在地 | 上田市
MAP A30

- 1 | 公演の様子
- 2 | アーティストによるワークショップに夢中
- 3 | 野菜に触れながら、創造性を伸ばす

活動内容

ワークショップ パン食堂まほろば(上田市)

6/21 ふれて彩る、美術と言葉で遊ぼう！
進行 | あきゆうか(美術)・石坂杏子(言葉)
アシスタント | 秋田岳瑠(Unit Ludens)

7/26 感じて彩る、野菜×からだで遊ぼう！
進行 | 井上ちゆう(身体)
アシスタント | 田口紗亜未

8/24 きらりを彩る、演劇を使って遊ぼう！
進行 | あきゆうか(美術)・井上ちゆう(身体)・石坂杏子(言葉)
アシスタント | 演劇作品出演者全員

演劇作品『すー、っと、きらり。』

出演・共同創作 | 井上ちゆう・岡田隆成(はちみつ)
河野まとい・松田天馬

作・演出 | 石坂杏子(fatrripm)
舞台美術・広報デザイン | あきゆうか
音楽 | 沼澤成毅
振付 | 田口紗亜未
演出補佐 | 井上ちゆう
演出部 | 秋田岳瑠(Unit Ludens)
写真撮影 | シャプリ宮武由佳
制作補佐 | あいちしおり
制作協力 | 大野創



3



Program A
31 フィルハーモニック・オーケストラ・松本

だれでも 気軽に 音楽を!
～長野県に音楽をみたそう～

活動概要

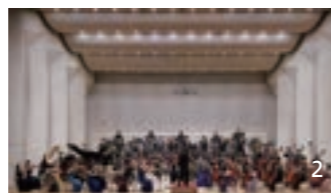
コロナ禍をきっかけに結成された、県内在住者を中心とするアマチュア・オーケストラ。ホールでの年2回の定期演奏会に加えて、中心メンバーの近藤聡氏が、大小様々な編成で地域に出かけ、長野県全域の公民館、福祉施設、教育機関など様々な場所で、地域の人々や子どもたちを対象にした音楽の楽しさを体感するワークショップや演奏会を実施。生の音楽を人々に届け、音楽の裾野を広げる活動を行った。

コーディネーターより

県内約200箇所という驚異的な回数の演奏会を重ねる姿は、まさにクラシック音楽の草の根運動といえる。象徴的だったのは児童館でのひと幕だ。乳幼児から大人までが自然と身体を揺らし、会場は温もりに包まれていた。子供の泣き声さえも即座に笑顔の演出へと変えてしまう寛容さと、リクエストに即興で応える柔軟性は、確かな技術と「届けたい」という純粋な想いがあるこそ。生の音色が持つ豊かさで場を優しく包み込み、音楽の楽しさを地域に根付かせようとする彼らの歩みは、着実に広がっていく。(小澤)

活動内容

- 5月上旬 演奏会の練習・本番開催
- 5月中旬～下旬 子育て支援施設・美術館・交流センターへの訪問演奏
- 6月 ワークショップ(協奏曲体験・ソリスト募集)
- 7月 児童館への訪問演奏
- 8月 寺院ホールでのコンサート
認定こども園・ホテルへの訪問演奏
- 9月 幼稚園への訪問演奏
- 10月上旬 記念演奏会(節目の回)
- 10月下旬 クリニック(患者さんへの生演奏)
- 11月上旬 ワークショップ(演奏体験)
- 11月中旬 児童センターへの訪問演奏
- 12月 各地でクリスマスコンサートを多数開催
保育園・福祉施設・公民館・温泉施設
ホテルなど10件以上



団体所在地 | 諏訪市
MAP A31

- 1 | 少人数編成での演奏会
公民館や児童館など各所で演奏
- 2 | 定期演奏会の様子
- 3 | 草の根運動的に広がっていくメンバー

Program A
32 認定NPO 法人 フリーキッズ・ヴィレッジ

ツリーハウスで遊びましょ
～奏でて・踊って・歌って・めでて～

活動概要

伊那市高遠の交流拠点「みんなの村」に集う、様々な背景を持つ子どもたちが、創作や表現を通して出会いつながっていくことを目指し、ワークショップや文化祭の開催等を行った。文化祭「みんなの村まつり」では、チラシ作成や出店内容など、準備段階から子どもたちが主体的に携った。当日は、活動の成果展示、子どもたちの出店ブース、子ども落語や地域ミュージシャンの演奏も行った。また、地域の高齢者からおやき作りを習いながら、地元の方言について学ぶ多世代交流も行った。

コーディネーターより

当初はパフォーマンスアートを軸とした活動を予定していたが、子どもたちの関心に応じ、ものづくりを入口に表現に触れる形に見直された。内容検討の過程も、子どもたちの居場所で事業を行う上での大切な時間となった。活動の中では、陶芸ワークショップで子どもたちが普段と違う集中を見せたり、みんなの村まつりで自ら落語を披露する子が現れるなど、徐々に主体的な表現の芽が育まれている。

みんなの村には普段曜日ごとに背景の違う子どもたちが集まるが、本事業をきっかけに、表現を媒体に曜日を超越して直に子どもたちが混じり合う場が生まれていた。(早川)



団体所在地 | 伊那市
MAP A32

- 1 | 陶芸ワークショップの様子
- 2 | みんなの村まつり 子ども落語の発表
- 3 | 方言のヒアリング・おやき作りの様子

活動内容

陶芸ワークショップ・コップやお皿づくり
@みんなの村

活動日時 | 10/27
講師 | 土のうた 工房wa

鍛金ワークショップ・スプーンづくり
@駒ヶ根赤穂(杉島大樹さん工房)

活動日時 | 11/10
講師 | 杉島大樹

子どもの手作り文化祭 みんなの村まつり

活動日時 | 11/29
活動場所 | みんなの村
来場者 | のべ150名

内容 | 子どもたちが普段の活動の中で育てた農作物を使った料理や、自分の得意なものを活かしたお店を出店。美術ワークショップで作った制作物などを展示したほか、ステージ発表では地元のアーティストの演奏、子ども落語の発表なども行われた。

方言のヒアリング・おやき作り

活動日時 | 2/2
内容 | 三義地区に住む北原信子さんから、子どもたちとおやき作りを教わるとともに、この地域に残る方言や使うシチュエーション、イントネーションなどを教わった。





Program A
33 ブンカバ



団体所在地 | 諏訪市
MAP A33

- 1|すわっチャオにて「ロボットドリームズ」無料上映
- 2|ポーターリーにて「小学校～それは小さな社会～」感想シェア会付上映

文化の場づくりを目標に何かやってみる
(上映会部分)

活動概要

上諏訪駅周辺に文化的活動拠点をつくることを目的に、地域の様々な団体と連携しながら映画上映会などを企画。今回は、ノンバーバルアニメーション「ロボットドリームズ」の無料上映と、諏訪市が実施した社会実験・スワマチスロー・ハイクにあわせ、リノベーション複合施設ポーターリーにて、モーニング名画座「ティファニーで朝食を」と、鑑賞後の感想シェア会をもうけたドキュメンタリー「小学校～それは小さな社会～」を上映。また、拠点となる空き家・空き店舗のリサーチも行った。

コーディネーターより

どのような場があれば上諏訪駅周辺で大人も子どもも豊かな暮らしになるか、映画を媒介に試行錯誤を続けている。地域から映画館がなくなり、ともに同じスクリーンをながめ時間を共有する機会が減っていく昨今、ブンカバの地産活動から集まりやすい場や料金、じっくりスクリーンで観たい作品があれば、テナポラーでも目指している文化的拠点になる気配が見えてきた。商店街や諏訪市教育委員会、ポーターリーなどの連携も活発で地域での賛同者も多く、空き家のリサーチから今後どのような場になっていくのか楽しみ。(佐久間)

活動内容

ミニシアター作品無料上映会

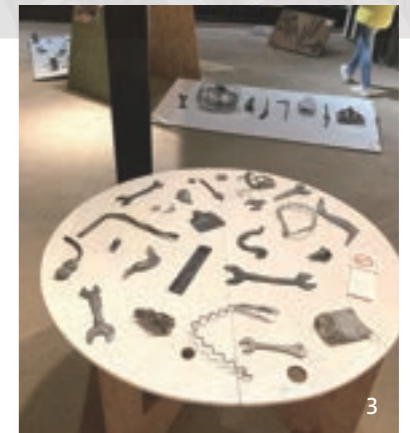
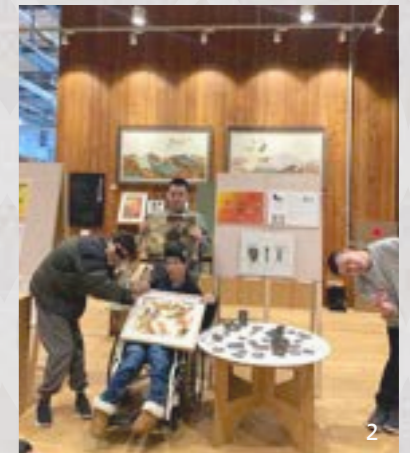
上映作品 | 「ロボットドリームズ」
開催日時 | 1/18 14:00上映開始
開催会場 | 駅前交流テラス すわっチャオ

モーニング名画座

上映作品 | 「ティファニーで朝食を」
開催日時 | 1/29～31 各回10:00上映開始
開催会場 | ポーターリートンネル棟2階

週末のミニシアター 感想シェア会付上映会

上映作品 | 「小学校～それは小さな社会～」
開催日時 | 1/31 14:00上映開始
開催会場 | ポーターリートンネル棟2階
ナビゲーター | 藍原尚美(弁護士)



Program A
34 NPO WHITE CANVAS



団体所在地 | 安曇野市
MAP A34

- 1|TIME WARPメンバーと国際ワークキャンプ参加者で鉄をたたく
- 2|3年間の歩み展示会場にて
- 3|ぺちゃんこ作品展

障がい者と地域を結ぶオープンアトリエ事業
鉄をぺちゃんこにするワークショップ

活動概要

特別な支援が必要な方達の生活介護事業所TIME WARPで、利用者であるメンバーや地域住民、国際ボランティアや作家と一緒にものづくりワークショップや作品展を通して、地域に開かれた福祉施設を目指す取り組みの3年目。熱した鉄をたたいてぺちゃんこにするワークショップの作品展を高橋節郎記念美術館で行い、これまでの3年間の歩みをまとめた展示を無印良品ツルヤ安曇野穂高の店内で開催した。

コーディネーターより

3年間伴走支援をしたなかで、他分野へ越境し共創していくところがWHITE CANVASらしい個性だと思っている。これまでのつながりだけでなく、持ち前のどんどん切り開いていく行動力や、活動を面白がって集まってきた人たちと一緒に、アートやものづくりを媒介に福祉施設と掛け合わせ、唯一無二な表現でアウトプットしている。当初、地域住民とほぼ別々でワークショップをしていたTIME WARPメンバーが、年を重ねるごとに顔や名前を隠さずに写真や映像に出るようになってきた点からも、内外が混ざり合って開かれてきた成果だと感じた。(佐久間)

活動内容

- 9/21 ぐるぐるパズル出展(鉄の廃材回収)
会場 | リビルディングセンタージャパン
- 10/3-4 鉄をぺちゃんこにするワークショップ
会場 | TIMEWARP
講師 | 小沢敦志(OZA METAL STUDIO代表・鉄作家)
- 11/8-13 ぺちゃんこ作品展
会場 | 安曇野市高橋節郎記念美術館主屋
- 11/8 ギャラリートーク
- 11/15-12/25 記録本制作・配布
- 2026/2/17-3/1 THE FOUR ELEMENTS
福祉施設と地域を結ぶオープンアトリエ事業
3年間の歩み
会場 | 無印良品ツルヤ安曇野穂高

NICE国際ワークキャンプ・ボランティア

- 9/7-11/27 NICE中長期ボランティア2名
- 9/28-10/11 NICE国際ワークキャンプ3名



Program A
35 まあるの森

まあるの森

活動概要

小学生を対象に「自分のいるところが劇場になる」をキーワードに造形・音楽・身体のアーティストがワークショップを実施。生活の中にある芸術を再認識し、春夏秋冬によって異なる自然の表情を全員で共有しながら創作活動を行う事業。ワークショップの中で子供たちが見つけた様々な魅力を集め、発表会で披露。子供たちが見つけた芸術のひとかけらを大人たちと共有した。

コーディネーターより

3人のアーティストの案内により、子供たちは次々と自然の中にある芸術を発見していった。元来、子供は芸術を見つける力を持っている。しかし、日常生活の中ではそれを遺憾なく発揮できる場面が少ない。両親や先生、いつも遊んでいる友達との人間関係から子供を引き上げ、自由な発想が常に歓迎される環境に身を置いた時、子供の感性は爆発する。3人のアーティストからはその力を信じ、寄り添い、祝福する懐の広さを感じた。今後の活動からも目が離せない。(清水)



3



団体所在地 | 松本市
MAP A35

- 1 | 自然の中でワークショップ
- 2 | 思い思いに色を付ける
- 3 | 自分たちだけの楽譜を作る

活動内容

ワークショップ kajiya(松本市)

講師 | あいざわいさな(造形作家)・権頭真由(音楽家)
小林晶子(パフォーマー)
記録・カメラマン | 内田民子
ベビシッター | 草間悠一

- 5/18 春の窓
- 6/1 雨と遊ぶ
- 7/21 夏の扉
- 8/24 影の庭
- 9/21 秋の風
- 10/19 月に浮かぶ
- 11/16 冬の声

「まあるの森の春・夏・秋・冬」
発表会
12/21



2



1

Program A
36 まつもと市民アーツコレクティブ

「風のおとずれ～三代澤本寿とその時間～」

活動概要

松本における民藝運動のはじまりと普及に尽力した松本出身の染色工芸家・三代澤本寿の作品や型紙、蒐集品などを、松本市岡田の古民家の中に配置した展覧会を開催。展示空間では、三代澤作品を様々な角度や感覚から鑑賞する試みとして、音楽や言葉による上演イベントも実施した。三代澤本寿の作品を中心に、三代澤本寿ギャラリーの運営メンバーや、地域の住民・アーティストなどが交流する機会を作った。



2



3

コーディネーターより

三代澤本寿ギャラリーを運営するm.motoju会の「本寿を多くの人に知ってほしい」という相談から始まった本企画。運営側もリサーチやヒアリングを重ね、ギャラリーとの関係性を大切にしつつ準備を進めた。その結果、美術館以外への作品貸出というギャラリー初の試みへも協力が得られ、古民家という暮らしの中での展示が実現した。展示会場としての活用が初めてだった旧小林邸にとっても会場の魅力を伝える機会となり、後に他助成団体が展示会場として当会場を使う展開も。作品や鑑賞空間、会場など様々な可能性を拡張した展示となった。(早川)



団体所在地 | 松本市
MAP A26

- 1 | 展覧会展示風景
 - 2 | 「図と譜～三代澤本寿作品を聴く」の様子
 - 3 | 三代澤作品の型染に使われた型紙
- 撮影:Shotaro Ikeda

活動内容

展覧会「風のおとずれ～三代澤本寿とその時間～」
活動日時 | 5/2-11(水木休み) 活動場所 | 旧小林邸

5/3 「図と譜～三代澤本寿作品を聴く」

活動場所 | 旧小林邸
構成 | 渡辺裕紀子 出演 | 柳澤耕吉、中川文太
松本市在住の作曲家・渡辺裕紀子が三代澤本寿作品から着想を得た音を聴く会。ジャズ・即興演奏を中心としたギタリスト柳澤耕吉とコントラパスの中川文太による演奏。

5/10 「図と語り～三代澤本寿作品と語る」

活動場所 | 旧小林邸
出演 | 池田昇太郎 演出 | 藤原佳奈
本企画の展示構成を行なった松本市在住の詩人・池田昇太郎が企画について語り、作家の著述を引用しながら、ツアー形式で上演するパフォーマンス。

座談会「作品」を繋いでいくこと」

活動日時 | 5/21 活動場所 | 菜日
毎年5月に行われている松本市美術館ギャラリーでの三代澤本寿ギャラリー主催の三代澤本寿展を参加者と共に鑑賞し、菜日に座談会を実施。

関係者との振り返り、今後について話し合う会

活動日時 | 7/11 活動場所 | 木曾屋
参加者 | m.motoju会、池田昇太郎、藤原佳奈、渡辺裕紀子



1



1

Program A
37 南信州アートラボ

「地産地show
～その土地の名産をshowと共に」Vol.1
座光寺産山ぶどうワイン&秋の桜まつり

活動概要

県宝でもある旧座光寺麻績学校校舎を舞台に、地元でつくられた表現や飲食物を楽しめるイベントを秋に開催。「麻績の里舞台桜」として親しまれる桜の木をライトアップし、桜が咲いているかのように演出を施した。地域住民向けの表現ワークショップを事前に開催し、表現活動に親しめる環境づくりを進め、イベント当日に成果発表を行った。文化財を地域のハブとして活用した好事例となった。

コーディネーターより

このイベントは地域の理解と支援があつく、ネットワークを構築しながら実現した。舞台校舎には作品上演用の音響や照明、大道具などの本格的な舞台設備が設営され、文化財活用における拡張性が示された。様々な制約と向き合いながらコミュニケーションの中でそれらを解決していったプロセスもまた、このイベントの大きな収穫と言えるだろう。舞台にちなんだ書下ろしの戯曲と魅力的なアーティスト、地元の飲食物、そして秋に咲く桜。地域に賑わいを創出し地縁を強化するこの取組が今後どのように発展していくか楽しみである。(清水)

活動内容

表現ワークショップ
座光寺公民館・旧座光寺麻績学校校舎(飯田市)
講師 | 野口千英子・後藤渉
6/28,7/27,8/17,9/28,10/6,10/11,10/18

10/19
『「地産地 show-その土地の名産を show と共に」Vol.1 座光寺産山ぶどうワイン&秋の桜まつり』& 『ワークショップ成果発表会』旧座光寺麻績学校校舎(飯田市)
脚本監修・演出 | 加藤木朗
歌・ピアノ | 横前恭子
人形遣い | 飯田美千香
語り | 野口千英子
三味線、唄 | 竹内博恵
鳴物・笛 | 卯月景



2



3



団体所在地 | 飯島町
MAP A37

- 1 | 公演の様子
- 2 | 地元の飲食物を楽しむ
- 3 | ワークショップ参加者の発表

Program A
38 Mina Watoto

「ゆるりと×コネクト」プロジェクト

活動概要

多世代の様々な住民や子どもたちが出逢い、混ざり合い、今住む場所を大切な場所と感じられるよう、様々なアート活動を展開。浅麓地域に昔から住んでいる方々に、足のपोर्टレート撮影とインタビューを行うプログラム、都市部から移住した方々の関心が高い自然の中で創作表現を行うプログラム、そして両方の参加者がお互いを知りあうプログラムを実施し新旧住民が結びつききっかけを創出した。舞台公演では、他者との出逢いを大切にするために観客同士で話し合える時間を設定、各活動の場で緩やかな繋がりが生まれた。

コーディネーターより

豊かな自然環境は子ども達に創造性を与えてくれる。中澤聖子さんが率いるアーティスト集団は、子どもの自主性を重んじ、創造性の発露を全力で肯定し受け入れる。子どもの主体性や自己肯定感が自然に伸びてゆく素敵なプログラムであった。「Tiny Steps」では、一人一人のこれまでの人生に寄り添い、歩みを丁寧に記録していった。「出逢いのワークショップ」はこれらの貴重な関係性を統合するプログラムだ。様々な背景を持つ地域住民同士が混じり合い、豊かな地域を創造していく布石となった。これからの展開にも期待したい。(清水)



団体所在地 | 御代田町
MAP A38

- 1 | ワークショップ発表会の様子
- 2 | 出逢うワークショップの様子
- 3 | 「〇〇さん家のものがたり」の様子

活動内容

Tiny Steps
浅麓地域(小諸市・軽井沢町・御代田町・佐久市)
4月～2月(全11回)

自然の中で子ども創作表現ワークショップ
軽井沢町びっぴの森
5月～7月(全12回)

大人たちの出逢うワークショップ 軽井沢町びっぴの森
6/8

自然の中で遊ぶワークショップ
9/7 御代田面替の里
10/26 上田市民の森公園

出逢うワークショップ 小諸市読書の森
11/27

舞台公演「〇〇さん家のものがたり」 軽井沢風越学園
1/21



2



3



1



1

Program A
39

一般社団法人 ミンガヤ・コレクティブ



団体所在地 | 小谷村
MAP A39

山の奥の藝術学校

活動概要

小谷村の山奥にあり車で行くことができない真木集落にある古民家を拠点に、茅葺き屋根の修繕や、山での暮らしを維持するための営みを共同体で実践する試み。3度の滞在で参加者と生活をともにしながら、職人を招いて茅葺きや茅刈りを行った。また、この様子を映像とZINE制作で記録。ZINEは参加者からの寄稿などで共に制作し、2月にはZINEの製本ワークショップと活動報告会を長野県だけでなく東京と京都の都市圏でも開催し、県内外に活動を広く伝えた。



2

コーディネーターより

先人たちが築き上げた近代化やモータリゼーションなどによる社会構造の変化で“便利な暮らし”を送ることができるようになった一方で、農村でかつては当たり前であった共同体の一員として担っていた暮らしの維持から遠ざかっている。山の奥の藝術学校では、暮らしを営むためには生死が隣り合わせで一人では生きていけないということ、積雪の季節が容赦無く建物を壊していくことを目の当たりにした。若い世代が便利な暮らしと共存しながらもこの取り組みを実践し発信することが、人口減少社会を生き抜くためのヒントになるのではないか。(佐久間)

活動内容

- 7/11 山の奥の藝術学校説明会兼『農民藝術概論綱要』読書会@渋谷
- 7/19-20 茅葺き体験会@真木集落
- 7/21 山の奥の藝術学校説明会兼『農民藝術概論綱要』読書会@オンライン
- 8/23-27 山の奥の藝術学校第一部「木を伐り道具をこしらえる」
- 9/12-16 山の奥の藝術学校第二部「茅で屋根を葺く」with縄文屋根
- 10/18-21 山の奥の藝術学校第三部「茅を刈りにいく」
- 11/1 牧の入で茅刈り
- 11月~1月 ZINE制作期間
- 1/30-2/1 印刷@hand saw press
- 2/1 製本と活動報告会@東京 (hand saw press)
- 2/21 製本と活動報告会 (京都けんちくセンター+オンライン)
- 2/27 製本と活動報告会 @松本 (OOTE41221 Give me little more.)



3

Program A
40

むらびとアートプロジェクト



団体所在地 | 宮田村
MAP A40

つながりアートプロジェクト

～文化芸術による地域包括的支え合い活動～

活動概要

宮田村・宮田宿にある交流施設「村人TERRACE」やその周辺を拠点に、毎月1回開催のオープンマイクや、講師を招き宮田宿の町並みを撮影する企画、写生大会や地域のイベントでのライブパフォーマンス、障がいのある方の作品展などを実施。地域での多岐にわたる文化芸術活動を地域住民や障がい者、地元の小中学校など幅広く連携しながら実現した。

コーディネーターより

宮田宿では、2026年2月に国の登録有形文化財である建物で火災があり、『宮田宿を撮す・描く』では火災前の姿をおさめた作品を残すことにつながった。結果的に突然失われてしまう可能性のある町並みを後世につなぐ取り組みとなった。また、オープンマイクでは、まばたきしか身体を動かすことができない方が作詞した唄に地元アーティストが曲をつけ、まばたきをデジタル技術でシンバル音に変えて一緒に演奏を披露する回もあった。地域住民の“やりたい・楽しみたい”想いを、多様な人が関わり合う場として地道に着実に続けることは並大抵のことではない。(佐久間)



2



3

活動内容

- 【宮田宿を撮す】指導講師：加勢春樹
 - 4/5 商店街の店舗と連携した町並み写真撮影会
 - 4/12 宮田のさくら巡り 写真撮影会
 - 7/20 店街の店舗と連携した町並み写真撮影会
 - 8/17 あめんぼうを作ろう 指導講師：北原有 会場：津島神社境内
- 【みやだまちなかフォトコンテスト 写真展】
 - 10/1-31 写真展会場：村人TERRACE 監修 審査：加勢春樹 写真応募数 65点/こどもが選ぶみやだまちなかフォトコンテストも開催
 - 11/3 みやだまちなかフォトコンテスト表彰式
 - 2/1~ まちなかフォトコンテスト写真展 会場：宮田村民会館、指導：加勢春樹
- 【街並み保全景観イベント】絵画指導：片桐美登
 - 9/20 宮田宿を描く(写生大会) ※雨天のため室内にて講話のみ実施
 - 10/25 宮田宿を描く(写生大会)
 - 10/18 宮田市 まちなか景観ライブ 会場：津島神社前道路 司会進行および演奏：りなち(佐藤利菜) 演奏者：彦音/和音(久保田治彦)ガーリック&ベッパー(石井裕之) てんぶら まんじゅう(蟹澤勝博)ムシカティコティコ(北原有) ドリームエンジェルス(加藤千代子)信州梅が里宮田太鼓(小野浩幸) 協力：宮田中学校吹奏楽部
- 【オープンマイク】
 - 毎月第3日曜日13:30~17:00 会場：村人TERRACE
- 【発展途上国支援 アート展】
 - 7/8-8/7 展示作品提供：ヒロ・イシイ(石井裕之)
 - 8/22 小学生へ 芸術と異国の文化教育 宮田小学校3年1組生徒対象 発展途上国で描いた絵画鑑賞 音楽演奏と講話
- 【障がい者の才能発揮 アート展】
 - 11/23-12/28 展示作品提供：青木星斗、展示サポート・個別指導：小川泰生
- 【環境音楽ライブ】
 - 11/8 ふれあいフリーマーケット 音楽とダンスのステージ 会場：宮田村総合公園 ふれあい広場 演奏：彦音(久保田治彦)、笛師久兵衛(北原有)、蟹沢勝博



Program A
41 やまびこらぼ

リスニング・リサーチ・プロジェクト (Listening Research Project)

活動概要

日常音を地域の文化資源として収集・共有し、音から創作へとつなげる試みとして実施。音の専門家であるやまびこらぼメンバーと、身体表現や演劇などを専門とするゲストファシリテーターがチームとなって、子どもから高齢者まで多様な参加者とともに、屋外を歩きながら音を聴き、その音を身体表現や楽器をつかった形で再現する創作を行った。フィールドワークで収集した音源は、アーカイブし、音のマップを制作。地域の記憶・環境・表現を結びつける取り組みとなった。

コーディネーターより

地域の子どもや高齢者の参加が多く、ワークショップでは音に注目してまちを歩くことで普段何気なく環境音として聞き流していたものに耳がいき、なぜそのような音がするのか、どう表現できるか、など聞いた音から対話が広がっていた。そして楽器を使ったり身体を駆使して川の流れや神社の鐘、飛行機などを表現しゲーム感覚も交えながら流れていってしまう情景を工夫しながら、そして楽しみながら表現していたのが印象的だった。時を経て、今回聴いた音がどのように変化していくのか、それをやまびこらぼでどのように表現していくのか楽しみ。(佐久間)



団体所在地 | 松本市
MAP A41

- 1 | ワークショップでは聴いてきた音を身体で表現
- 2 | 音を探しにフィールドワーク
- 3 | どのような表現にするかチームで相談

活動内容

- 7/25 音のフィールドワーク1
↳ 岡宮神社から四柱神社をメンバーでフィールドワーク
- 11/29 音のフィールドワーク2
↳ 女鳥羽川をメンバーでフィールドワーク
- 1/12 リスニング・リサーチ・プロジェクト
「まわりの音からつくる：音とからだのワークショップ」
ファシリテーター
渡辺裕紀子・松本真結子・加藤綾子(やまびこらぼ)
分藤香・矢萩美里(にちカラ)
成田明加(劇団野らぼう)
会場：松本市東部公民館

Program A
42 和力

芸×農塾 農ある暮らしと芸能のつながり体験プログラム

活動概要

阿智村を拠点に農ある暮らしをしつつ芸能活動をしている和力のメンバーがファシリテーターとなり、芸能と農業・生活のつながりを体験するプログラムを実施。今年度はものづくりを新たに取り入れ、地元住民を講師に篠笛作りやしめ縄作り、霜月祭りで使用する小垂れ作りを体験。芸能を通じて、ものづくり・狩猟などの「技」から地域の生活に根付いた文化を学びつつ、その背景や込められた想いも含め知ることによって、参加者と地域がより深くつながる機会を作った。



コーディネーターより

芸能に携わる参加者が多い中でも、篠笛やしめ縄づくりは初めてという人がほとんどだった。制作した篠笛を持って霜月祭りの演奏に訪れる参加者が複数いたり、本来ものづくりと一体であった芸能のあり方を体験する機会になったと共に、参加者の主体的な地域の芸能への参加が持続的に生まれている。事業の継続的を通じて参加者同士のつながりや地域との関係も着実に深まっており、「自分の田舎が増えたよう」と語る声も聞かれる。リピート参加の多さからも、この場が阿智村や南信州との縁を結び、繰り返し“帰ってくる”きっかけとなっていることがうかがえる。(早川)



団体所在地 | 阿智村
MAP A42

- 1 | WS①神楽の舞「鶏舞」の稽古
- 2 | WS②篠笛作り
- 3 | WS③鹿の解体体験

活動内容

- ワークショップ①
「田んぼ、薪割りの仕事から学ぶ身体遣いと芸能」
活動日時 | 7/19-20
活動場所 | 伍和高齢者いきがいセンター、田んぼ、加藤木朗自宅の庭
講師 | 加藤木朗
協力 | 農び会
- ワークショップ②
「篠笛を自分で作ってみよう、霜月神楽の里で狩猟と芸能のつながりを体感しよう」
活動日時 | 11/1-2
活動場所 | 飯田市南信濃、古民家つばや、旧木沢小学校
加藤木朗自宅の庭
講師 | 久保田照男(篠笛作り)、益山勝人(南信濃猟友会)
木沢霜月祭り野郎会
協力 | 阿智村全村博物協会、遠山愛猟会
- 収穫祭、しめ縄づくり、奉納舞台
活動日時 | 12/7
活動場所 | 伍和高齢者いきがいセンター
協力 | 農び会
- OPEN作業DAY (藁干し、畑作業)
活動日時 | 9/23





Program B
01 医療法人社団 オレンジ

つながるサーカスクラバン2025

活動概要

サーカスアーティストの金井ケイスケさんと協働し、障がい者や医療的ケア児・きょうだい児、ジャグリングに取り組む若者など多様な背景の市民と共にサーカスを開催。中信・東信では一般キャスト選考ワークショップを実施し、8名の“つながるキャスト”と稽古を重ね、ムーンナイトサーカスを作り上げた。医療機関として万全のサポート体制や、関係者とのノウハウの共有、公立文化施設等と取り組む創作・上演環境の整備・改善や10代、20代の若い担い手の発掘・育成も推進した。

コーディネーターより

医療福祉機関が主体となってサーカス創作・上演する取り組みのため、バックアップ体制が万全であるが、その一方でサーカスを作り上げている出演者など一人一人がチームでの助け合いとして自然にサポートをしたりお互いに気にし合いながら進めている点が特に印象的だった。それは“障がい”ということではなく、体格差や経験の差のような、ただの違いとして存在しているだけに感じられたからだ。サーカスを通して、保護者や、スタッフ・キャストの特別な専門性によって実現する、ということではないインクルーシブな舞台芸術活動の認識が広がる素晴らしい活動。(佐久間)



団体所在地 | 軽井沢町
MAP B01

- 1 | ムーンナイトサーカスinちの 公演の様子
- 2 | サーカスをつくらうワークショップの様子
- 3 | サーカス本番に向けて稽古を重ねた

活動内容

一般公募キャスト選考ワークショップ「サーカスをつくらう！」

【中信】塩尻市、岡谷市

講師 | 金井ケイスケ、ルーミー、くるくるシルク、HiROKO 分藤香

参加人数 | 12名
うち8名がムーンナイトサーカス参加

【東信】佐久市

講師 | 金井ケイスケ、ルーミー、くるくるシルク、HiROKO 分藤香(10/26のみ)、XIO(11/1・2のみ)

参加人数 | 14名
うち14名が今後ムーンナイトサーカスに参加予定

ムーンナイトサーカス稽古

8/31-2/20の期間中25回実施

ムーンナイトサーカス2026 in ちの

開催日 | 2月21~22日

場所 | 茅野市民館マルチホール

出演 | 金井ケイスケ、ルーミー、トッチ・ハット(くるくるシルク) HiROKO、XIO、神本エリ、寺田ユースケ、下地尚子 安部亘、dj sleeper、つながるキャスト8名



Program B
02 木曾ペインティングス

展覧会「3025 美しき消滅世界」開催 映画滞在制作プロジェクト 木曾川流域アーティスト交換留学 地域交流活動、音楽活動

活動概要

展覧会【3025 美しき消滅世界】では、千年後の未来を起点に作家それぞれが作品を展開。人類存続に向けた架空の施設「人類菌類化研究所」など多様な視点の作品を通して問うた。【きそがわ往来】では、中山道や木曾川で繋がる岐阜県美濃加茂市の「きそがわ日和」との連携、旧精肉店等で作品展示を行った。【映画滞在制作プロジェクト】では映画監督たかはしろうた氏が木曾に2ヶ月程滞在して住民との交流を重ね、シナリオ執筆～撮影・編集、上映会を行った。

コーディネーターより

展覧会「3025 美しき消滅世界」のイベント、「消滅前夜祭」のライブパフォーマンスには、信州アートカウンシルの助成団体である、どんどろ流百鬼ゆめひな(飯島町)、ちいさがた未来民話研究会(上田市)、麻倉Arts&Crafts(大町市)などが飛び入りで参加した。地域や分野を越えた多彩な表現者がその場集い、とても煌びやかだった。木曾を起点としたつながりが、他地域のプレイヤーも巻き込んでいく力強さに感銘を受けた。(小澤)



団体所在地 | 木曾町
MAP B02

- 1 | 「3025 美しき消滅世界」展示アーティスト
- 2 | 「きそがわ往来」会場
- 3 | たかはしろうた監督 映画制作現場

活動内容

【3025 美しき消滅世界】

会期 | 2025年12月1日(月)~12月14日(日)
会場 | マツモトアートセンター/古民家「旧小林邸」
人口減少の極端に進んだ1000年後の世界をアーティストそれぞれの想像力で展開。
同時に発表した展覧会オリジナルサウンドトラックによって美術ファン以外にもコンセプトが届くようにした。
昨年度から展覧会場を木曾から松本に移したことで認知度も広がったように感じる。松本のライブハウスへの電撃出演というサプライズも生まれた。

【木曾川流域アート交流「きそがわ往来」】

会期 | 2025年10月17日(金)~10月26日(日)
会場 | 旧中村屋精肉店(木曾郡木曾町福島5133)
木曾川・中山道という二つの共通点で繋がる地域との交流によって、県境を超えた新しい枠組みでの関係を築くことができた。今後も継続することで両地域の交流が深まることを期待したい。
また、同時期に開催されたシンビズムと協力してきそがわ日和の理事も交えたトークイベントが開催されたのは意味のあることであった。

【映画滞在制作】

会期 | 2025年11月16日(日)
会場 | 木曾町文化交流センター
たかはしろうた監督に2ヶ月地域に滞在してもらいシナリオから執筆してもらったことで純木曾産とよべる映画が完成した。
ワークショップではスマートフォン一つで撮影から編集まで行うことで、参加した子どもたちにとっても映画を身近な存在と感じられる機会となった。
上映会後のトークに撮影スタッフや俳優も参加したことで映画制作の裏側を見せることもできた。





1



1

Program B
03 劇団野らぼう

県産材100%の木製テント劇場創り

活動概要

上演に使う電力を自前の太陽光発電で賄う「ゼロカーボン演劇」の活動を進めてきた劇団野らぼうの新展開、県産材100%の木製テント劇場の設計・創作を行った。舞台美術家の大島広子氏、地元(株)柳沢林業と協働し、森で木を切り倒し、加工し、木製テントを制作するまでの一連のプロセスを実際に体験することで、資材の“始末”を知り、持続可能な創作活動についての思考を深めた。またプロセスをYouTubeやブログなどで紹介し学びを共有した。

コーディネーターより

今回の試みを通して、創作プロセス自体を再検討することができるようになった。劇団の人間が単管パイプを組んで劇場を設営する通常のプロセスの中では生まれなかった価値観が、全く異なる視点を持つ新たな協働者によりもたらされた。そうして制作されたテントは、新たに獲得した価値観を観客へと伝播させる装置となるだろう。協働者同士のコネクションはお互いにとって貴重な存在で、今後さらに面白いことが起きそうな未来を想像させる。次は何を仕掛けてくるだろうか。劇団野らぼうの今後の活動から目が離せない。(清水)



2



3



団体所在地 | 松本市
MAP B03

- 1 | 林業現場見学
- 2 | 木材加工の様子
- 3 | 「ホエールトラス構造」をもつテントの一部

活動内容

- 5月 林業現場見学(安曇野市)
木製テント劇場視察(韓国)
- 6月 木材選定8月伐倒
- 9月 木材加工・乾燥
- 10月 設計・プロトタイプ作成①
- 11月 クロストーク企画開催
- 12月 設計・プロトタイプ作成②
- 1月 設計・プロトタイプ作成③
- 2月 エキシビジョン『骨になるまで空みる鯨展』開催
2/12~14

Program B
04 NPO法人原始感覚舎

信濃の国 原始感覚美術祭2025 —水のやまづと+ 原始感覚一座巡業公演と Joy of Weavingリサーチプロジェクト + 原始感覚友の会noteプロジェクト

活動概要

2010年より始まった原始感覚美術祭の16年目として「水のやまづと」をテーマに開催。国内外から80名を超えるアーティストが参加し、大町にて滞在制作をしながら、9日間の展示と3日間の祭りを開催。芸術祭以外でも大町を拠点としたイベントや松代での原始感覚一座の獅子舞公演、ドイツ・韓国での滞在制作など、国内外で様々な活動を行ったほか、原始感覚友の会・有料noteプロジェクトを開始し、活動の持続化に向け自律的な予算の獲得に向けた取り組みを行った。

コーディネーターより

今年度は特に、諏訪市木遣り保存会の芸術祭参加や、NPO法人夢空間との連携、助成外だが「まつもと原始感覚」への信州大学生参加など、従来の枠を越えた連携が広がっており、芸術祭を知り、支える輪が広がっている。本芸術祭では国内外から多様なアーティストが自発的に集うが、その背景にあるのは、国内外での継続的なりサーチによる関係性の構築や「居場所」としての芸術祭の存在である。助成3年目である本事業だが、広がり続けるつながりの中で、本芸術祭がその独自性を保ちながら今後も続いていくことを期待したい。(早川)



2



3



団体所在地 | 大町市
MAP B04

- 1 | 本祭 おおたほつち(獅子舞)
- 2 | 本祭 諏訪市木遣り保存会の唄い
- 3 | 宵祭り 即興ワークショップの様子

活動内容

- 信濃の国 原始感覚美術祭2025—水のやまづと
活動日時 | 8/23-31(8/29千年の森祭、8/30宵祭り、9/1本祭)
活動場所 | 木崎湖畔、信濃公堂、西丸震哉記念館、常盤の家
まれびとの家、千年の森、美麻爽風館、木崎湖POWWOW
山の子村、麻倉arts & crafts、サスキの森
- ・8/25 原始感覚note・原始感覚友の会プロジェクト開始
 - ・2/28 信濃の国 原始感覚美術祭2025
—水のやまづと記録集制作と発行

原始感覚一座 県内巡業公演

活動日時 | 11/3
活動場所 | 松代の文化で町と人を未来に「つなぐ」プロジェクト

イベント・ワークショップ

黒田将行 縄文キャンプ@千年の森自然学校(5/3-4・8/2-3・11/1-2)
大町商店街やまびこ祭り 踊り連参加&手縫いワークショップ@庵舎(8/2)
中村綾花 土偶づくりワークショップ@西丸震哉記念館(8/3)
鈴木彩花 土鈴作りワークショップ(7/27・8/3・8/9)
平田篤史のアイストーク 西丸震哉記念館(9/1)

国外での滞在制作

5/30-7/7 Joy of Weaving-REpairリサーチプロジェクト
活動場所 | DomagkparkAtelier、halle50(ドイツ・ミュンヘン)
2/1-23 Baggat Art Exhibition 交換プロジェクト
活動場所 | 京畿道加平郡チャラ島西島(韓国)



Program B
05

一般社団法人信州室内オーケストラ

～つなぐ・えがく・みのわの未来～
信州室内オーケストラ音楽プロジェクト

活動概要

長野県や伊那谷に縁のある音楽家を中心に結成されたプロオーケストラが、定期演奏会開催や小・中・高校生を対象にした少年少女合唱団の結成・運営、演奏会に訪れることができない高齢者向けに施設でのライブ配信、オーケストラメンバーによる中学校吹奏楽部へのオンライン楽器講習会など1年間を通して実施。子どもから高齢者まで多世代に音楽体験を広げる取り組みを精力的に行った。



コーディネーターより

ホールで生の演奏を聴く楽しみだけでなく、ステージ上でオーケストラと一緒に合唱をしたり、演奏家による講習会で育成を行ったり、会場に訪れることができない高齢者施設の利用者に向けたオンライン配信で気軽に楽しめるようにしていたり。1年に1度の定期演奏会という機会を活用し、年間を通して多世代の地域住民と音楽を共有している点がこの取り組みの特徴だ。代表の荒川さんのきめ細やかな企画運営やパワフルな越境力がこれを実現させている。箕輪町には合唱部がない学校もあり、少年少女合唱団の結成が部活動の地域展開の形としても参考になる。(佐久間)



団体所在地 | 箕輪町
MAP B05

- 1 | 第五回信州室内オーケストラ演奏会inみのわ2025
- 2 | 小学生の合唱練習
- 3 | 高齢者施設にて演奏会のライブ配信

活動内容

- ①信州室内オーケストラ少年少女合唱団の運営
合唱指導 | 荒川昌美(信州室内オーケストラ音楽監督)
練習会場 | 箕輪町文化センター、松島コミュニティセンター
箕輪中学校、高遠高校、伊那西高校
- ②社会福祉施設での信州室内オーケストラ演奏のライブ配信
ライブ配信会場 | ケアセンターふれあいの里
ライブ配信対象者 | 入所者およびデイサービス通所者
映像撮影・配信 | 中部クリエイティブ
- ③中学校吹奏楽部へのオンライン楽器講習会
レッスン場所 | 箕輪中学校
受講生 | 箕輪中学校吹奏楽部生徒
実施形態 | オンラインレッスン2回
対面レッスン1回
レッスン場所 | 箕輪中学校
受講生 | 箕輪中学校吹奏楽部生徒
- ④第五回信州室内オーケストラ演奏会inみのわ2025の開催
日時 | 2025年10月19日 14時開演
場所 | 箕輪町文化センター
入場料 | 一般4000円/中学生以下1000円
指揮 | 荒川昌美
管弦楽 | 信州室内オーケストラ
合唱 | 信州室内オーケストラ少年少女合唱団



Program B
06

松のにわ

アートプロジェクトひとつひとつ

活動概要

性差や文化によって形づくられてきた身体へのまなざしについて、多分野の専門家や市民と対話を重ね考えつつ、3年後の上演を目指すプロジェクト。1年目となる今年は、生物学と舞台芸術の双方から性について見つめるイベントや出産をテーマにしたお話し、Podcastなどを行いつつ、様々な分野を専門にもつリサーチャーの勉強会・対話会を実施。1年間の最後に上演の形でリサーチ発表を行い、人形パフォーマンスやリーディング、トークなど、これまでの活動を来場者と共有し対話する場を開いた。

コーディネーターより

今年度は、リサーチャーの関心から生まれた「クィア×生物学」「生と老い」「暴力とケア」の3テーマを軸にリサーチを進め、過程も含め内容を共有していった。その過程では、プロジェクト名の検討や子どもも共に入れる空間づくり、語りにくさを抱える人の存在にも目を向けるなど、多分野のリサーチャーにより「場をひらく」ことが丁寧に模索されていた点も印象的である。上演では、ともしれば語ることに慎重さを要するテーマについて、上演というフィクションと個人の言葉とを往還しながらまなざすことで、誰もがフラットに「話ができる場」が育まれていた。(早川)



団体所在地 | 長野市
MAP B06

- 1 | 「ひとつひとつの不思議なカタチ」トーク風景
- 2 | 長井望美さん人形パフォーマンス
- 3 | 「オスとかメスとか人間とか」諸橋憲一郎さんの講義

活動内容

- アートプロジェクトひとつひとつ×「十月十日の旅」
ひとが生まれる、ということについて
活動日時 | 6/16 活動場所 | 出居番丸西
出演者 | 伊藤茶色、やぎかなこ
- 生物学×フィクション×クロストークイベント
「オスとかメスとか人間とか」
活動日時 | 7/5 活動場所 | 犀の角
出演者 | 諸橋憲一郎、藤原佳奈、生井達也、伴朱音、渡辺瑞穂
- 多分野協働リサーチ発表の場
「ひとつひとつの不思議なカタチ」
活動日時 | 12/5-12/7 活動場所 | 犀の角
出演者 | 長井望美、岩安良祐、坂口彩夏、月影瞳、生井達也、朴建雄、平野鈴、藤原佳奈、山田珠実、渡辺瑞穂、秋山紅葉、中村友美、伊藤茶色ほか
- 勉強会・対話会
・クリスチャンLGBTQ対話会参加@新宿(4/24)
・プロジェクト名変更オープンミーティング@オンライン(5/7)
・「瑞穂の読書会」参考資料読書会(5/30)
・「クィア×生物学」勉強会(8/18・10/8,30・11/5)
・「暴力とケア」勉強会(8/20・10/8,26・10/28・11/3)
・「生まれること老いること」勉強会(9/4・10/10)
・ひとつひとつのDAY@犀の角(8/25・9/30・10/28・11/25)
・暴力とケアの対話会@やどかりハウス協力(9/10,10/2,10/23)
・クリエイション合宿(11/7-9・11/30-12/3)
- ひとつひとつポッドキャスト 計9エピソード収録・配信



Program B
07 もんぜん千年祭実行委員会



団体所在地 | 長野市
MAP B07

「もんぜん千年祭」にまつわる諸事業

活動概要

善光寺門前にて芸術祭を開催しているもんぜん千年祭の3年目として、これまでの参加アーティストの紹介や活動をまとめた記録集を出版した。イベントとしてはもんぜんまち劇場での上演や岡澤喜美雄氏、永田傑氏による展覧会を実施したほか、小山利枝子氏の絵画が展示された善光寺大勸進紫雲閣にて山田せつ子氏による特別パフォーマンスが行われた。また、3年間の活動を振り返るトークイベントも複数開催し、今後の展開や持続的な活動の可能性を探った。

コーディネーターより

今年度は3年間の記録をまとめることを軸としつつ、今まで関係を築いてきた善光寺大勸進や西之門よしのやを会場に表現に触れる場も開いた。協力者や関係者が徐々に広がり、門前界隈を中心としたネットワークが蓄積されたことは、活動継続の大きな成果といえる。歴史ある文化や建物に現代の表現が重なり混じり合う本芸術祭のあり方は、古くから多くの人を受け入れてきた善光寺・門前の姿とも重なる。運営体制等に課題は残るものの、新たな担い手の参加や他地域との連携も進みつつある。もんぜんの未来を含めた「千年」をとにも考える場として今後の展開を見守りたい。(早川)



- 1 | 山田せつ子氏パフォーマンス
- 2 | 会場となった善光寺大勸進紫雲閣
- 3 | 3年間の活動をまとめた記録集

活動内容

もんぜんアートトーク
「もんぜん千年祭を振り返って」

活動日時 | 8/24 活動場所 | R-DEPOT 1階
出演者 | 松本直樹、小山利枝子

アート・ウォーク善光寺
「謎を紡ぐ 善光寺本堂-変容とその痕跡」

活動日時 | 8/24
活動場所 | 善光寺本堂・境内、西之門よしのや精米蔵
講師 | 土本俊和(信大工学部教授)

岡澤喜美雄-版画の世界
活動日時 | 9/23-29 活動場所 | 西之門よしのや穀蔵

もんぜん千年祭アートマーケット&もんぜんトーク
活動日時 | 12/23-27 活動場所 | R-DEPOT 2Fシアター
出演者 | 小山利枝子、石川利江 ※12/27もんぜんトーク

特別パフォーマンス
「初めまして こんにちは 出合いがしらに 花降って」

活動日時 | 2/7 活動場所 | 善光寺大勸進紫雲閣
出演者 | 山田せつ子、竹澤悦子、小山利枝子、石川利江

永田傑ポスター・アーカイブ展<Part 0>
活動日時 | 2/20-25 活動場所 | 西之門よしのや精米蔵

もんぜん千年祭2024-2026記録集作成
編集 | 10月~2月 発行 | 2/25



Program B
08 NPO法人 夢空間松代のまちと心を育てる会



団体所在地 | 長野市
MAP B08

松代の文化で町と人を
未来に繋ぐプロジェクト

活動概要

歴史ある松代の文化遺産を新たな形で発信・継承していくことを目指し、真田子ども勝どき太鼓や、松代特産のあんずの栽培と加工、カフェでの業務など、小中高生が松代の地域文化の要素に触れ交流する活動を年間を通じて行った。11月には、松代文武学校槍術所の歴史を感じる空間で「松代の文化で町と人を未来につなぐプロジェクト」を実施、松代の地域資源を取り入れた内容の音楽、ダンス、美術など地域内外のアーティストと子どもたちが共演した。

コーディネーターより

松代の文化的なまちづくりを主体となって支えているNPOの活動に参画する世代に広げることを目指し、プロジェクトが始まって3年。復活した子ども勝どき太鼓は力強く継続し、地元アーティストと共に創ったオリジナルソングが定着、様々な活用されるようになっていく。



11月のイベントは天候により松代城本丸跡ではなく文武学校槍術所で行われ、昨年までと異なる趣きがあった。アーティストと住民が絡まる組み立てが絶妙で、松代の個性ある地域文化を子ども・若者が楽しみながら受け継ぎ、それを高齢世代が観て交流する、素晴らしい取組となっている。(野村)

活動内容

「松代の文化で町と人を未来につなぐプロジェクト」
11月3日 会場 | 松代文武学校 槍術所(天候不順により変更)
[出演者]

- ・NOBYAN a.k.a 八百ヤーマン from 八百万BAND
「みんなで踊ろう“松代青大音頭”」「みんなで歌おう“紡”」
- ・せんぜんもん
せんぜんもん一座が遊ぶ! 豊穰舞台
~御神楽舞や豊年太鼓に傘踊りなど~
- ・子ども勝どき太鼓
・原始感覚一座
- ・Okikaと小さい鷲男プレゼンツ
火の鳥分の1ゆらぎ団 ~松代生まれの童謡達~
- ・GIANT STEPS
ジャイアントステップスがやってくる! みんなで踊ろう真田節
- ・石井 則仁 / 辻祐 落合皎児
《Water Mirror》Water Mirror~水と血の対峙~

真田子ども勝どき太鼓

- ・小学生の週1回の練習
- ・地域行事等への参加
- ・新規メンバー募集



あんず活動

- ・2025年5月~2026年2月
- ・中学生、高校生の体験学習、職場体験受け入れ(栽培、商品開発、カフェ営業の体験)

真田勝開太鼓

- ・2025年11月~2026年1月

文化共創パートナー事業

信州アーツカウンシルの助成プログラムで令和4～6年度に、3年の継続支援を受けた団体等を「文化共創パートナー」に位置づけ、「信州の多様な文化芸術を、多様な主体が支える」環境づくりに向けて、支援を提供する側として信州アーツカウンシルと協働する取組を行いました。

文化共創パートナーがこれまでに蓄積したネットワークやノウハウ等を、講座やワークショップ、フィールドワーク、交流会や相談会、伴走支援を通してこれから活動を発展させる段階にある担い手に伝え、活用してもらうことで、持続的に地域の文化芸術活動の担い手に支援を届ける環境づくりを進めました。

信州アーツカウンシル2025交流会「共創縁日」

2025(令和7)年6月14日(土) 会場:キッセイ文化ホール 中ホール

文化芸術を通して信州の地域を「ともにつくる」人々の縁を繋ぐ機会として、交流会「共創縁日」を開催。「シンビズム」など主催事業関係者や、助成採択団体、文化共創パートナーが集い、交流しました。

プログラム

- 10:00～11:30 「文化共創パートナー」座談会
- 11:30～13:00 交流タイム/昼食休憩
- 13:00～13:30 オープニング・アクト
出演:GR19 [galaxy route nineteen]+小川格
百鬼ゆめひな、姫凜子・大隅健司(ちいさがた未来民話研究会)
- 13:30～13:45 信州アーツカウンシル 令和7年度事業紹介
- 13:45～14:30 「シンビズム6」事業紹介
- 14:30～14:40 交流タイム/休憩
- 14:40～16:30 助成団体自己紹介マイクリレー
- 16:30～17:00 交流タイム

展示 木曾ペインティングスGR19 [galaxy route nineteen]
信州アーツカウンシル活動紹介展示



GR19によるオープニング・パフォーマンス
(撮影:安徳希仁)



助成団体によるマイクリレー
(撮影:安徳希仁)

オープンカウンシル! vol.7

「民間非営利団体による中間支援文化芸術と社会教育」

2025(令和7)年8月21日(木) 会場:犀の角(上田市)

那覇市若狭公民館がアーティストと地域住民と共に創造し、継続してきた「パーラー公民館」や「アートな部活動」の取り組み、また、近年たくさんの方が地域に住むようになったネパール人コミュニティとの協働(ネパール・ニューイヤー・パーティなど)の実践をご紹介いただきながら、アート、公民館、障がい者福祉、多文化共生など、多様な人々が暮らす地域社会における「中間支援」について議論しました。

記録映像



スピーカー

- 宮城 潤 (NPO法人地域サポートわかさ/那覇市若狭公民館)
- 武捨和貴 (NPO法人リベルテ)
- 直井 恵 (NPO法人アイダオ/NPO法人上田映劇)
- 福澤信輔 (長野県社会福祉協議会)



旅する信州アーツカウンシル 学ぶ・つながるフィールドワーク 辰野編

2025(令和7)年12月6日(土)

会場:トビチ商店街(辰野町)

トビチ美術館」が開催中の辰野町・下辰野商店街周辺を、文化共創パートナーである(一社)〇と編集社の代表・赤羽孝太さんの案内で視察し対話しました。



コワーキングカフェ@小諸

2025(令和7)年12月19日(金)

会場:ブルーベリーガーデン黒岩(小諸市)

文化共創パートナー・わかち座の拠点であるブルーベリー農園の直売店スペースで、個別相談会とコワーキングを実施。わかち座の皆さんや、集った方々と交流しました。



「〇〇×文化芸術」の推進

地域の課題解決等に向け、文化芸術の枠に留まらず、分野を越えた取組を実施しました。

【多文化共生×アート】

「つながるサーカス・ワークショップ in こまがね」

(1/24駒ヶ根市)

県民政策課多文化共生係へのヒアリングをきっかけに企画が立ち上がり、上伊那地域・駒ヶ根市で様々な国をルーツとする地域住民との交流を行う「地球人ネットワークinこまがね」の皆さんの協力を得て、日本語教室の時間に、金井ケイスケさん(松本市)率いる「イッカデサーカス」のワークショップを実施しました。

【その他】

- 林務部信州の木活用課のヒアリング、事業視察
- 教育委員会学びの改革支援課と協働し「中学文化部活動の地域展開」への取組



ザワメキサポートセンター

(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)との協働

- 「ザワメキアート展 2025」の共催
(11/29~12/22小海町、1/17~2/8中野市、11/29~web展示)
- シンビズム×ザワメキアート座談会&ギャラリートーク
「アートへの多様な参加をひらく」開催(12/21)
- ザワメキサポートセンター、障がい者支援課、文化振興課との
月例会議実施(通年)



展示の様子@小海町高原美術館

▶ 詳細 P70

県立文化施設との連携

長野県文化振興事業団が中間支援機能をもつことを目指し、各施設と連携した取組を行いました。

- ホクト文化ホール、キッセイ文化ホール、伊那文化会館、県立美術館、埋蔵文化財センターへのヒアリングを実施。
- ホクト文化ホール、県立長野図書館等が開催する「わかさとクエスト」への伴走。
- 長野県立美術館「北島敬三写真展『借りた場所、借りた時間』」において「鑑賞体験のリサーチドキュメント」として、記録映像制作。(installation view / audience perspective)



北島敬三写真展
「借りた場所、借りた時間」
[installation view]



北島敬三写真展
「借りた場所、借りた時間」
[audience perspective]

市町村文化担当者・文化施設運営者向け
相談会+フォーラム

「これからの公立文化施設と広域連携に向けて」

2026(令和8)年1月15日 会場:キッセイ文化ホール 国際会議室

個別相談会では、市町村の文化担当者の方、文化施設で働いている方を対象に、有識者と信州アーツカウンシルコーディネーターが、それぞれの施設や地域が抱える課題や悩みについてお話を伺いました。公開フォーラムでは、オープンカウンシル! vol.8として、人口減少時代において市町村単体では解決の難しい文化振興の課題に、広域連携や公民連携で取り組むための課題を語り合い、約30名の様々な立場の参加者が一言ずつ意見を述べました。

パネリスト

金井直(信州大学人文学部教授) 辻野隆之(茅野市民館シニアディレクター)
吉本光宏(一般財団法人長野県文化振興事業団理事長/合同会社文化 commons 研究所共同代表)

モデレーター

津村卓(信州アーツカウンシル長/キッセイ文化ホール館長) 野村政之(信州アーツカウンシルゼネラルコーディネーター)



フォーラム「これからの公立文化施設と
広域連携に向けて」

信州アーツカウンシルの活動から生まれた言葉や表現、知識や情報、人のつながりを、紙やデジタルのアーカイブに束ね、学び合いの素材として次の展開につなげていく取組に着手しました。



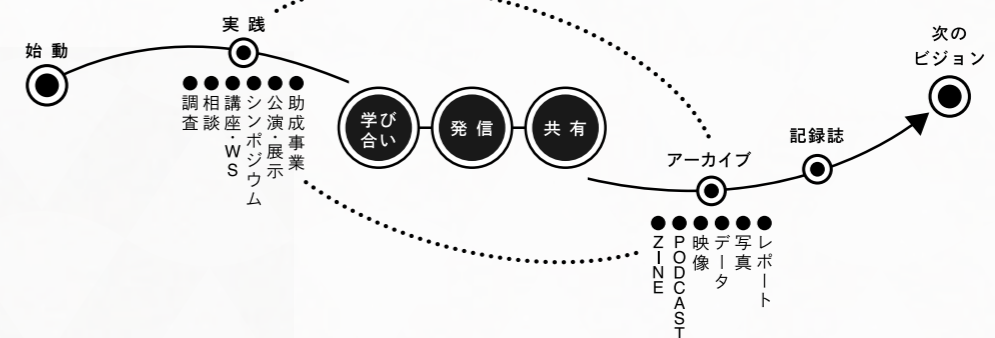
人の一生よりも長い創造に向けて



アルス ロンガ プロジェクト
ARS LONGA PROJECT は、

これまで信州アーツカウンシルの活動にかかわって生まれてきた言葉や表現、知識や情報、人のつながりを、学び合いの素材として次の展開につなげていく取り組みです。地域に根付いた文化や、新たに芽吹いたアートの試み、議論の過程を、紙やデジタルのアーカイブに束ねていきます。多様な人々の実践がアーカイブになっていくプロセスのなかで、人がつながり、さらなる実践を創る~こうした循環を含んだ流れを「文化」と捉え、信州・長野県で培われた文化循環を共有していきます。Ars Longa,vita brevis(芸術は長く、人生は短い)と、古代ギリシアの医学の祖・ヒポクラテスは言いました。人の一生よりも長い時間を意識した持続的な文化芸術を、信州アーツカウンシルは探求しています。

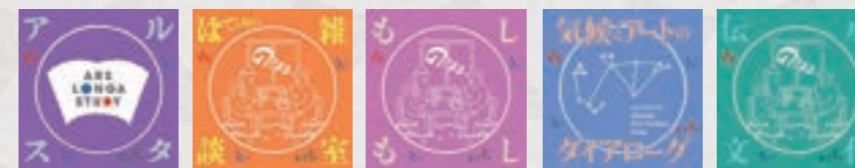
長い芸術、野にあり。



Podcast 信州アーツカウンシル のにある放送センター



長野県の文化芸術活動の担い手を支援している信州アーツカウンシルがお届けするPodcastです。長野県内の文化芸術のイベントや取り組みなどについて、ゆるく、ながく発信しています。



Apple Podcast



Spotify



ARS LONGA ZINE

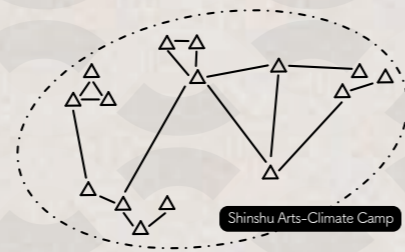


ARS LONGA ZINE vol.1
発行 | 信州アーツカウンシル
デザイン | 北林南
協力 | 犀の角印刷所

ARS LONGA ZINE vol.2
編集 | 加藤亜弓、野村政之
デザイン | 北林南(ZINE)
五加意匠(フライヤー/ロゴ)
協力 | 犀の角印刷所

Shinshu Arts-Climate Camp は、文化芸術の視点から気候変動や地球環境の課題を見つめ、信州・長野県において行われている様々な取り組みを知り、取り組んでいる人に学び、共に考え、変化していく、コモンスペースをつくっていこう、というプロジェクトです。

「気候×アート」をキーワードに、気候変動や環境問題をアートの視点から様々な切り口で考える取り組みを、信州大学人文学部との連携事業として2023年から行っています。



令和7年実施事業

10/12 開催 Shinshu Arts-Climate Camp × 多津衛民芸館 〈フォーラム〉Bio-Regional Arts -地域の生態と循環するアート-

信州アーツ・クライメイト・キャンプのナビゲーターの1人、ロジャー・マクドナルド氏が館長をつとめる「平和と手仕事 多津衛民芸館」との共同主催によるフォーラム。

地域それぞれの自然風土や素材から手仕事を通して生まれる民藝などの工芸や美術、また、狩猟や採集によって森や山の富を生活の中に取り入れる際に駆使する様々な技術や知恵は、現在のアートの価値観、そして、これからのアートや美術館・博物館・文化施設にとって、どのようなヒントや可能性をもつものなのか、各地域の実践を元に、生態地域主義(Bioregionalism)の切り口から、気候危機時代に向き合う「持続可能なアート」をめぐる議論しました。

開催概要

日時 2025年10月12日(日) 10:00~17:00
会場 平和と手仕事 多津衛民芸館
入場料金 無料 [予約制]



午前の部



午後の部

午前の部

野村政之「あいさつ・概要説明」
ロジャー・マクドナルド「Bioregionalismとアートの未来ビジョン」
深澤孝史「『アケヤマ』秋山郷立大赤沢小学校について」
川崎光克「山の奥の芸術学校～ミンガヤ・コレクティブの活動について」

パフォーマンス 伊達麻衣子・竹田栄次

午後の部・Part1

トークセッション「民藝と山の芸術～持続可能なアートに向けて」

パネリスト 深澤孝史、川崎光克、吉澤朋(文化の翻訳家)
金井直(信州大学)、ロジャー・マクドナルド

午後の部・Part2

議論の共有/まとめ～信州アーツ・クライメイト・キャンプの今後
モデレーター 金井直、ロジャー・マクドナルド、野村政之



5/23 開催 公開ゼミ ロジャー・マクドナルドさんを囲んで/Shinshu Arts-Climate Camp

今年は「民藝」誕生100年。松本市では「信州の工芸」や「クラフトフェアまつもと」が開催。そうしたタイミングにあわせて、多津衛民芸館館長でもあるキュレーター、ロジャー・マクドナルドさんをお招きし、信州大学人文学部の連携事業として公開ゼミを開催しました。現実世界から切り離されてしまいがちな「美術・アート」を、生活の中にある「民芸」の視点から見つめ、作品や資源を消費しない芸術活動についての実践に関するお話をお聞きし、ゼミ参加学生や来場者とともにアート鑑賞の環境について考えました。

開催概要

日時 2025年5月23日(金)
会場 松本市立博物館 講堂
聞き手 金井直
ゲスト ロジャー・マクドナルド



2/14 開催 「ゼロカーボン演劇と木製テント劇場創り～持続的社会的シミュレーション」 劇団野らぼう×信州アーツクライメイトキャンプ / オープンカウンスル! Vol.9

劇団野らぼうが3年前から取り組んでいる「ゼロカーボン演劇」と、今年度新たに取り組んできた「木製テント劇場創り」の活動を振り返りながら考察しました。持続可能な舞台芸術の環境づくりに取り組んでいる舞台美術家の大島広子さん、上田市の劇場・犀の角代表の荒井洋文さんを迎え、演劇活動を行う上で考えられる持続可能性の高い選択肢や、演劇が持続的社会的達成のために果たする役割について理解が深まる内容となりました。

開催概要

日時 2026年2月14日(土)
会場 栗日(松本市)
登壇者 前田斜め(劇団野らぼう)
大島広子(舞台美術家/一般社団法人 Image Nation Green)
荒井洋文(プロデューサー/犀の角 代表)

ファシリテーター 野村政之



Podcast 「気候とアートのダイアログ」

文化芸術の視点から気候変動やアートについて考えるポッドキャスト番組。信州・長野県において、アートを通して気候変動や気候危機の課題に取り組んでいる担い手へのインタビューを配信しています。

連携・協働プログラム 他地域のアーツカウンシルとの協働事業

他都市のアーツカウンシルと連携・協働しながら、お互いの地域特性や活動の姿を学び合い、人々の交流を通して、地域を超えて共感しあうネットワークの形成を目指す取り組みです。今年度は沖縄アーツカウンシルとの事業や、日本中の地域アーツカウンシルが集うアーツカウンシル・ネットワーク(AC-net)のミーティングへの参画を行いました。

令和7年度 長野×沖縄交流事業

「アーツカウンシル連携による地域間文化交流・作戦会議！」

8月22日(金) 10:30~12:00 犀の角(上田市)

2023(令和5)年3月に長野県と沖縄県が交流連携協定を結び、これをきっかけに「長野×沖縄交流事業」として、令和5年度は琉球芸能公演、令和6年度は伝統花火の実演とシンポジウムという形で、文化における長野と沖縄の交流が行われました。

こうした背景のなかで、ともに「アーツカウンシルが設置されている県」であるということと地域間の交流・連携の推進体制として活用していくことについて話し合いました。アーツカウンシル同士が協働することで、互いの地域のアーティストの交流のキッカケとなったり、魅力的な事例を共有する場を創出していく可能性が見えてきた作戦会議でした。

登壇者 上地里佳(沖縄アーツカウンシル)

宮城 潤(NPO法人地域サポートわかさ/那覇市若狭公民館)

若林朋子(沖縄アーツカウンシル・信州アーツカウンシルアドバイザーボード)

野村政之(信州アーツカウンシル)

森隆一郎(合同会社渚と)

主催 信州アーツカウンシル、長野県



座談会「創造性はどう寄り添うか ~ 文化芸術の伴走支援がひらく扉」

1月30日(金)18:00~19:30 那覇市若狭公民館



沖縄アーツカウンシルと信州アーツカウンシルの共同企画として、地域アーツカウンシルにおける伴走支援にフォーカスした座談会を行いました。

伝統文化を現代のストリートカルチャーをつなぐ新たな発想のプロジェクト「Maeda Lacquer Project」の経緯や展開、この活動を支援する沖縄アーツカウンシル・プログラムオフィサーの関わりについての対話を起点として、文化芸術活動の担い手やアーティストに寄り添うアーツカウンシル専門スタッフの伴走支援がひらく可能性について議論しました。

アーティストが行政やアーツカウンシルに対して感じている想いを聞き、より良い伴走支援の輪郭をつかむことができました。

登壇者 前田比呂也(漆工房・前田貝揃案)

前田 彬(漆工房・前田貝揃案)

喜舎場 梓(沖縄アーツカウンシル)

佐久間圭子(信州アーツカウンシル)

主催 信州アーツカウンシル(一般財団法人長野県文化振興事業団)

沖縄アーツカウンシル(公益財団法人沖縄県文化芸術振興会)、長野県

アーツカウンシル・ネットワーク(AC-net)のミーティングへの参画

8月21日(木) 犀の角(上田市)

12月5日(金) オンライン(Zoom)

1月30日(金) 那覇市若狭公民館

「アーツカウンシル・ネットワーク(AC-net)」は、独立行政法人日本文化振興会と全国各地のアーツカウンシル機能を持つ「地域アーツカウンシル」の連携・交流ネットワークです。信州アーツカウンシルは今年度、日本芸術文化振興会と共に事務局としてAC-netを運営しました。ミーティングでは、いくつかの地域アーツカウンシルのこれまでの歩みや事業、助成団体の取組などを紹介・共有しました。地域アーツカウンシル同士の顔が見えたことにより、連携・協働の下地を作りました。

文化芸術に対する寄付促進に向けた取組

(公財)長野県みらい基金との協働企画の連携



長野県において全ての子どもたちが分け隔てなく文化体験・アート体験の機会を得られる環境づくりを推進するために、信州アーツカウンシルと長野県みらい基金が協働し、「[まわる幸]出会う!子どもとアート」プロジェクトを実施しました。

本プロジェクトでは、子どもにゆたかな文化環境を提供できる社会を共に創りたいという思いを持つ方々から長野県みらい基金に寄付いただき、集まった寄付を、アート体験をコーディネート/実施する地域の団体・グループに助成金として提供しました。

また、持続的な活動につなげていけるよう、地域の実施団体に対して、信州アーツカウンシルが寄付に関する手数料(応援金額の10%)を負担するとともに、側方支援を実施し、この取組全体を県内に広め、地域に定着させる活動を行いました。

「[まわる幸]出会う!子どもとアート」特設ウェブサイト

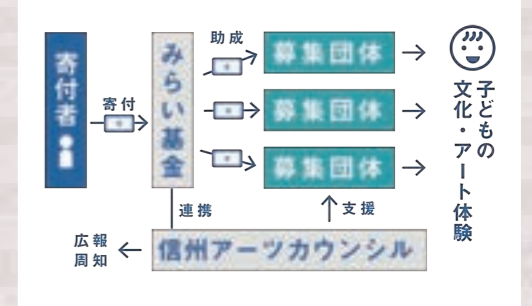
<https://shinshu-arts-council.jp/organising/child-art-project/>



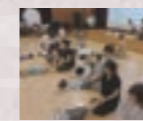
活動概要 [まわる幸]信州アーツカウンシル×長野県みらい基金
出会う!子どもとアート 寄付応援プロジェクト

■ 寄付募集期間:9月9日(火)~10月31日(金)

■ 寄付募集団体:長野県内でアート体験をコーディネート
実施する地域の団体・グループ全9団体



[寄付募集参加団体]



NPO法人夢空間夢幻工房(長野市)

事業名 ひかる翼チャイルド・プレイワーク

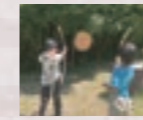
応援金額 131,000円



NPO法人ながのアートミーティング(長野市)

事業名 こもろのおうち・アートワークショップの
のれん分け

応援金額 65,000円



一般社団法人シアター&アーツうえだ(上田市)

事業名 ひみつきち、みつけた!
イロイロな人たちと子ども若者が劇場で共に創る
「うえだイロイロ倶楽部」

達成金額 199,000円



にちカラ(松本市)

事業名 まつもと子どもアートまつり

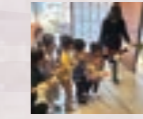
応援金額 290,000円



人形芝居燕組(松本市)

事業名 長野県の全ての園児に人形劇を

応援金額 576,000円



NPO法人サポートC(茅野市)

事業名 みつばちプロジェクト~
あーとが届かない子どもたちのところに
あちこちまわってあーとをお届けします~

応援金額 272,000円



NPO法人ふるさと芸術研究所(伊那市)

事業名 伝統文化おやこ体験フェスタ
~見て、聴いて、やってみる!
ふるさとの宝物を、未来を担う子どもたちへ~

応援金額 162,000円



NPO法人いいだ人形劇センター(飯田市)

事業名 ココロが動く感動体験

応援金額 190,500円



一般財団法人長野県文化振興事業団(長野県)

事業名 信州アーツカウンシルを通して「出会う!
子どもとアート」全体へ寄付

応援金額 57,000円

その他の活動一覧

8月19日(火)、10月8日(水) 寄付募集団体へのファンドレイジング研修会を開催

10月31日(金) 子どもの文化体験格差に関わる事業を行う県内の団体による座談会の開催

連携・協働プログラム 伝統文化の支援体制構築に向けた連携

南信州民俗芸能継承推進協議会や(公財)八十二文化財団、県内各地の祭り芸能の担い手と連携して県内の民俗芸能等が抱える課題を調査し、保存・継承に向けた手法等を検討・支援する体制構築を実施しました。

講演「遠山郷の霜月祭り」と冬の南信州・民俗芸能の魅力」

信州アーツカウンシル出張窓口@銀座NAGANOのプログラムとして、民俗芸能研究者の櫻井弘人さんによる「遠山郷の霜月祭り」を中心とした南信州民俗芸能についての講演を行いました。

日時 11月30日(日) 14:00~15:00

会場 銀座NAGANO(東京都)

登壇者 櫻井弘人(國學院大学専任講師/元・飯田市美術博物館学芸員)

レクチャー動画



シンポジウム「これからの伝統文化継承と地域コミュニティ」

県内各地の伝統文化継承や地域コミュニティの現状を共有しながら、今後の伝統文化継承のあり方について、多様な立場の方々とともに考えました。

日時 1月25日(日) 13:00~16:30

会場 松本市立博物館講堂

登壇者 櫻井弘人、井口幸信(両島地区お八日念仏足半草履保存会会長)
樋口 明里氏(長野市立博物館)、武井 成美氏(松本市立博物館)
近藤 大知氏(飯田市美術博物館)

地域の民俗芸能等の保存・継承に取り組む団体等との関係構築・支援

7月13日(日) 民俗芸能フェスティバルin大阪・関西万博への参加@大阪府

10月19日(日) 三遠南信地域民俗芸能シンポジウムへの参加@浜松市

1月17日(土) 「戦後80周年平和祈念事業琉球芸能公演～伝統芸能で繋ぐ平和の心～」への
広報・制作協力@北野文芸座

社会包摂(インクルーシブ)プログラム

障がい者福祉、高齢者福祉、多文化共生などに関わる文化芸術活動を、課題を共有する団体等と共同して取り組んでいます。令和7年度は、令和4年度から連携し活動している「ザワメキサポートセンター」(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)との協働を推進しました。

ザワメキサポートセンターとの協働

- 連携会議を毎月開催し、情報共有と意見交換を行う
- 「ザワメキアート展2025 Curate the curation」の共催

日時 小海町:11月29日(土)~12月22日(月)/中野市:1月17日(土)~2月8日(日)/web展示:11月29日(日)~

会場 小海町高原美術館、中野市一本木公園展示館(中野小学校旧校舎・信州中野銅石版画ミュージアム)

主催 長野県、ザワメキサポートセンター、小海町高原美術館、一般社団法人一本木公園バラの会

共催 長野県教育委員会、信州アーツカウンシル



シンビズム×ザワメキアート座談会& ギャラリートーク「アートへの多様な参加をひらく」

日時 12月21日(日) 13:00~15:30

会場 小海町高原美術館 映像室・展示室

登壇者 中嶋実、鈴木一史、中村勘二、持田めぐみ、野村政之

NAGANO ORGANIC AIR 2025



「NAGANO ORGANIC AIR」では、長野県内の各地域にアーティスト等が滞在し、創造活動を行う「アーティスト・イン・レジデンス(AIR)」の環境づくりを進めています。地域の様々な団体がアーティスト等を受け入れ、ホストとして地域での活動をコーディネートする取組に様々な形で協働しています。

今、そして、これから、信州・長野県で活動するアーティスト等との「ORGANIC=有機的」な関係づくり、持続的な環境づくりに向けた新たな実践を進めています。

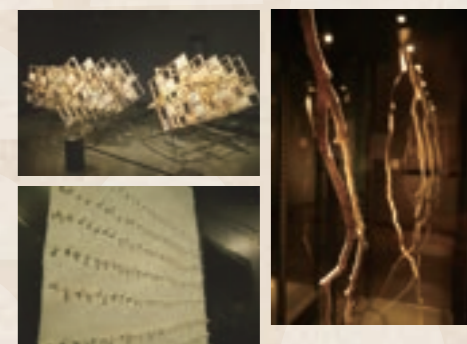
NOA木島平 「森をつかむ・つつむ -Branching Out-」

内山和紙の里、木島平に紙や木を素材・題材とするアメリカ在住のアーティスト2名が滞在制作を行いました。小中学生をはじめとした木島平の住民と交流しながら、和紙を学び、森と人と関わり、木島平中町展示館をアトリエとして作品を制作しました。木島平村を中心とした北信州の豊かな自然と歴史・文化を、それぞれが自身の作品に織り込んでいきました。滞在中に制作した作品を発表する展覧会を、山ノ内町立志賀高原口マン美術館で開催しました。

アーティスト クリスティン・トーダル・ウィリアムズ、石村まなみ

ホスト 木島平アート部

滞在日程 6月1日~7月22日



- 木島平中学校 クリスティン ワークショップ 6月6日(金)、13日(金) 会場:木島平中学校
- クリスティンの紙すきワークショップ 6月14日(土) 会場:若者センター(木島平村)
- 木島平小学校 石村まなみワークショップ 6月18日(水)、20日 会場:ケヤキの森公園、木島平小学校
- 「森をつかむ・つつむ -Branching Out-」 7月13日(日)~9月28日(日) 会場:志賀高原口マン美術館
- オープニングパフォーマンス「Bōkによる舞」 7月13日(日) 14:30~15:30 会場:志賀高原口マン美術館
- 和紙のワークショップ 7月15日(火) 10:00~11:30,13:30~15:00 会場:山ノ内町文化センター

NOA白馬 「白馬五竜グリーンAIR」

NAGANO ORGANIC AIRでは、2024年度より信州フィルムコミッションネットワーク(SFN)と共同で、映画監督・クリエイター/プロデューサーを対象としたAIRプログラムを開始しました。

長野県には複数の活発なフィルムコミッションがあり、様々な映画・映像作品の撮影のロケ地ともなっています。一方で、広い県土と多様な地域性を持ちながら、まだ注目されていない地域資源も多く眠っています。本事業は、長野県の文化・自然に関心を持つ映画クリエイター/プロデューサーが地域に滞在し、フィルムコミッションの役割を担うホストとともに次回作のリサーチに取り組むことを趣旨としています。本年度は白馬村に脚本家の大井里花子さんが滞在。地元の方々と交流しながら村全体のリサーチを行い、脚本への着想を得ました。滞在中の「映画脚本ワークショップ」には村内在住の11名が参加し、白馬村を舞台とした脚本を共同で完成させました。

アーティスト 大井里花子(脚本家)

ホスト 白馬五竜観光協会

主催 信州アーツカウンシル
信州フィルムコミッションネットワーク
長野県

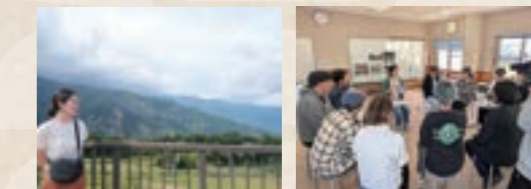
後援 一般社団法人白馬村観光局

滞在日程 [プレ滞在] 9月7日~9月8日
[本滞在] 10月9日~10月19日

● 映画脚本ワークショップ

[開催日時] 2025年10月18日(土)13:00 ~ 16:00

[開催場所] 白馬五竜観光協会 神城駅2階



note 大井里花子さん滞在記録

<https://note.com/naganoair/n/n7f4238e50ca4>

「シンビズム6-信州ミュージアム・ネットワークが選んだ作家たち」展
長野県「アートの手法を活用した学び推進事業(対話鑑賞)」をはじめとする対話鑑賞事業

【事業概要】

シンビズム※は、県内各地の美術館・博物館の学芸員が公立・民間等の所属の別なく集い、ネットワークを形成しながら信州ゆかりの出品作家を選定、紹介するグループショウを県内各地で開催しています。長野県芸術監督の故本江邦夫氏の「全国一のミュージアム数を有し、学芸員が一人体制の館が多い長野県においては、学芸員同士の分け隔てない関係構築こそがミュージアム・ネットワーク化の一番の近道である」との思いから、2016年度に長野県監督団事業として活動がはじまり、2022年度からは信州アーツカウンシルのプログラムになっています。これまで開催した第1回～第6回のグループショウでは、延べ24会場にて全85名の作家を紹介、延べ263名の学芸員が参加しました。事業の継続的な実施により、県民の芸術鑑賞機会の拡大や現代作家への全県的支援、学芸員の意識共有と資質の向上、県内美術館・博物館のネットワーク化の促進を図り、県全体の美術振興を進めています。

2025年度事業では、シンビズムの展覧会・学校連携プログラム開催を基盤として「美術館等の文化施設と地域の協働」、「多様な参加者に向けて創作現場や展覧会をひらく」ことを試み、全体のテーマに「地域と美術」を掲げてグループショウと学校連携プログラムの2部構成で実施しました。

また、長野県「アートの手法を活用した学び推進事業(対話鑑賞)」では、学校での対話鑑賞の普及を目的として、教員向けワークショップの実施やプログラム実施校へのファシリテーター(学芸員)派遣を行いました。

※シンビズム=「信州の美術の主義」の造語で、新しい美術、真の美術、親しい美術等の意味を含んでいます。

シンビズム6 信州ミュージアム・ネットワークが選んだ作家たち」展

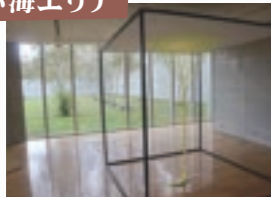
第1部 | グループショウ

グループショウでは、小海、木曾、須坂の3エリアごとに地域の特性に合わせた個別テーマを設定し、テーマ毎に作家を選抜しました。また、周辺文化施設等でのサテライト展示を行い地域交流の拡大をめざしたほか、グループショウ開催地域の小中学校等と連携し、出品作家を講師に招いたワークショップ等を実施しました。

【実施概要】

■ 開催会期・会場・出品作家

小海エリア



テーマ「美術館から地域へ、多様な人々にひらく」

会 期 9月20日(土)～11月16日(日)
会 場 小海町高原美術館 ※サテライト展示会場:美術館野外展望台
HOTEL MIYAMレストラン、松原諏方神社下社付近、小海町図書館
出品作家 島州一(絵画・版画)、下平千夏(インスタレーションほか)
細萱航平(彫刻・インスタレーション)
関連イベント 9月20日(土) 作家、顧問、学芸員によるギャラリートーク

木曾エリア



テーマ「空き家活用、地域AIRとの連携」

会 期 10月4日(土)～11月9日(日)
会 場 木祖村旧藤屋旅館(藪原宿) ※サテライト展示会場:塩尻市立平出博物館
木曾町御嶽山ビジターセンターさとテラス三岳、妻籠宿松川家(木の店 あぶらや向かい)
出品作家 宇賀神拓也(写真)、小川格(絵画)、波多腰彩花(陶・インスタレーション)
関連イベント 10月4日(土) 作家、学芸員によるギャラリートーク
10月26日(日) シンビズム6トーク“地域とアート”
小川格×木曾ペインティングス×NPO法人 きそがわ日和

須坂エリア



テーマ「移築建物の活用、地域による連携小展示」

会 期 10月4日(土)～11月24日(月)
会 場 須坂歴史的建物園・須坂版画美術館
出品作家 木村不二雄(染色)、戸矢崎満雄(インスタレーション)、堀内袈裟雄(絵画・陶芸)
関連イベント 10月5日(日) 作家、顧問、学芸員によるギャラリートーク



■ 学校連携WS実施概要

須坂エリア出品作家木村不二雄氏によるワークショップ

日時 6月27日(金)、7月3日(木)、9月5日(金)、10日(水) / 全1年生1～5組各2回
会場 長野市立三陽中学校

木曾エリア出品作家小川格氏によるワークショップ

日時 8月28日(木)、9月9日(火) / 1、2、5年生、学童クラブ各1回
会場 木祖村立木祖小学校

■ 入場料 一般500円、高校生以下無料

第2部 | 学校連携プログラム

「学校と美術、レガシーを未来へ」をテーマに、泰阜村立泰阜小学校の児童がキッズ学芸員となり、全校児童を対象にした授業や美術館の運営に携わっている美術館・環境委員会の児童との活動を経て、シンビストの学芸員と共に秋の収穫作品展をつくりあげるプロジェクトを実施しました。泰阜村立学校美術館に収蔵されている作品のうち先生方が選んだ40点に、飯田創造館より新たに寄贈された10点を加えた計50作品を展示作品候補とし、作品選定や展示構成、展覧会のキャッチコピーやポスターなどの広報物制作までを児童が主体的に携わり、展覧会づくりのプロセスを体験しながら展示をつくりあげました。

【実施概要】

泰阜村立学校美術館 キッズ学芸員とシンビストによる収穫作品展プロジェクト
テーマ 「学校と美術、レガシーを未来へ」

■ 実施内容 ※実施日・詳細等は別表【第2部 学校連携プログラム】参照

【授業】 第1～2回:全校児童に向けた対話鑑賞とアートカードゲーム
第3～5回:美術館・環境委員会の児童と最終的な展示作品決定、キャッチコピーの考案、展示作業体験
第6回:茅野市美術館サポーター「美遊com.」2名と共に村民に向けた対話鑑賞実施
第7回:全校児童に向けシンビストによる対話鑑賞実施

【展覧会】 令和7年度泰阜村立学校美術館企画展「ぼくたち・わたしたちがつくる『やすび』企画展」
会期:9月25日(木)～11月26日(水)
会場:泰阜村立学校美術館

◇顧問 | 笠原美智子(一般財団法人長野県文化振興事業団理事、長野県立美術館長)
◇運営アドバイザー | 石川利江(ISHIKAWA地域文化企画室代表)
◇エデュケーショナルアドバイザー | 三澤一実(武蔵野美術大学教授)
◇企画・構成 | 信州ミュージアム・ネットワーク「シンビズム」ワーキンググループ
工藤美幸(佐久市)、由井はる奈(佐久市立近代美術館)、宮下真美(ギャラリー1045)、名取淳一(小海町高原美術館)、中嶋実(小海町高原美術館)
鈴木一史(小海町高原美術館)、圓山佐登子(小海町)、清水雄(上田市立美術館)、山極佳子(上田市立美術館)、大塚菜々美(上田市立美術館)
佐藤聡史(丸山晩霞記念館)、山崎麻由(東御市)、佐野悠斗(東御市)、小沢和実(東御市)、高野真希(星くずの里たかやま黒曜石体験ミュージアム)
伊能あずさ(川越市立美術館)、鷹野雪菜、山岸吉郎(イルフ童画館)、河西見佳(イルフ童画館) 酒井重明(市立岡谷美術考古館)、前田忠史(茅野市美術館)、中田麻衣子(茅野市美術館)、平林壮太(原村教育委員会)、小松由以(高遠町公民館)、川島周(辰野美術館)、小林一博(泰阜村立学校美術館)、
矢ヶ崎結花、伊藤幸穂(木曾ミュージアムサポート)、坂口佳奈(木祖村教育委員会)、石井健郎(塩尻市立平出博物館)、三澤新弥(安曇野市教育委員会)、
塩原理絵子(安曇野市教育委員会)、武井敏(公益財団法人礪山美術館)、富永淳子(安曇野高橋節郎記念美術館)、大竹永明
田中想子(須坂版画美術館)、中村綾子(世界の民俗人形博物館)、五味大樹(世界の民俗人形博物館)、田中新十郎(田中本家博物館)、布谷理恵(千曲市アートまちかど)、越智波留香(おぶせミュージアム・中島千波館)、水橋絵美(中野市立博物館)、小林宏子(前中野市立博物館)、阿部澄夫(一般社団法人一本木公園バラの会信州中野銅石版画ミュージアム)、関千尋(山ノ内町立志賀高原ロマン美術館)、小野佳奈、松井正(長野県立美術館)
梨本有見(一般財団法人長野県文化振興事業団)、早川綾音(信州アーツカウンシル)、小澤貴弘(信州アーツカウンシル)、伊藤羊子(信州アーツカウンシル)

長野県「アートの手法を活用した学び(対話鑑賞)」推進事業の実施

令和5年度から、県の「アートを活用した学び推進事業」の中で、シンビズムワーキンググループメンバーを対話鑑賞のファシリテーターとして派遣し、学校での対話鑑賞の普及を目的として教員向けワークショップの実施やプログラム実施校でのワークショップなどを実施しています。

今年度は、飯田市・御代田町での教員向けワークショップや、塩尻市辰野町中学校組合立両小野中学校での生徒に向けた対話鑑賞プログラムを実施しました。

その他シンビズム事業

- 5月16日(金) ワーキンググループメンバー向け「あいサポーター研修」を開催しました。
- 12月21日(日) シンビズム×ザワメキアート座談会・ギャラリートークを開催しました。
- 3月25日(水) 本年度のシンビズム事業成果報告会を開催しました。

【実績概要】

グループショウ入場者数

第1部 グループショウ

エリア	開催期間	参加人数(一般)	参加人数(高校生以下)
小海エリア	9月20日(土)～11月16日(日)	1530	101
木曾エリア	10月4日(土)～11月9日(日)	353	—
須坂エリア	10月4日(土)～11月24日(月)	855	132
計		2738	233

第2部 学校連携プログラム
実施プログラム一覧

	日付	実施内容	参加人数(一般)※1	参加人数(児童)
1	5月13日(火)	打ち合わせ会議	8	—
2	6月12日(木)	「アートカードゲームで遊ぼう!」 「収蔵作品展をみんなで作ろう!」 全児童への対話鑑賞とアートカードゲーム実施	32	84
3	6月16日(月)	展示作品を決めよう① 「選んだ作品をみんなに伝えよう」 全児童で展示作品選定	36	84
4	6月20日(金)	美術館・環境委員会児童への 「展示作品を決めよう②」に向けたZoomミーティング	9	11
5	6月26日(木)	「展示作品を決めよう②」 美術館・環境委員会児童との展示作品選定	9	11
6	7月10日(木)	「展示作品を決めよう③」 「展覧会メッセージを決めよう」 美術館・環境委員会児童との展示作品決定、キャッチコピー決定	10	11
7	9月24日(水)	「作品を展示しよう」 美術館・環境委員会児童が作品展示作業を体験	16	12
8	9月25日(木) ～11月26日(水)	自然の中の輝き 「ぼくたち・わたしたちがつくる『やすび』企画展」開催	263 ※2	—
9	9月28日(日)	「作品をみながら、おしゃべりしよう」 茅野市美術館サポーター「美遊com.」2名による 保護者・一般への対話鑑賞実施	25	—
10	9月29日(月)	「作品をみながら、おしゃべりしよう」 泰阜小学校児童への対話鑑賞実施	18	72
参加者数			426	285
参加合計			711	

※1 7、8は一般来場者。1-6、9-10は、シンビズム学芸員、事務局員
小学校関係者、茅野市美術館サポーター美遊com.等の参加人数。延べ56名

※2 内訳 一般入館者数191名/高校生以下72名



地域交流プログラム入場者数

実施内容	実施延べ回数	延べ参加者数
障がい者への合理的配慮への対応を学ぶ講座	2	54
アーティストとシンビズムWG(ワーキンググループ)学芸員による一般市民にむけた交流事業	6	193
作家、WG学芸員、市民サポーターによる児童生徒にむけた対話鑑賞・ワークショップ事業 (学校へのアウトリーチを含む)	17	982
教員および地域の担い手にむけた対話鑑賞事業、ファシリテーター研修	3	239
アーティストとWG学芸員による学校や福祉施設等へのアウトリーチ実施に向けた 情報交換及び研修	5	70
合計	33	1,538

【事業の成果】

■ 美術館等の文化施設と地域の協働

長野県というフィールドで10年間活動してきたシンビズムについて、出品作家とシンビズムワーキンググループが再び「地域と美術」に向き合う展覧会に合わせ、各会場ごとに周辺文化施設等でのサテライト展



示を実施したほか、会場でのギャラリートークやワークショップの実施、会場エリアの学校との連携・協働型アウトリーチなどを行い、地域交流の拡大をめざしました。また、木曾会場での木祖村の演劇アーティストインレジデンス・発表展との同時開催・トークイベントの実施や、泰阜村立学校美術館での村民に向けた対話鑑賞を茅野市美術館のサポーター「美遊com.」が務めるなど、地域の中で活動する様々な文化芸術団体との協働を実現しました。結果として、事業本体が地域交流プログラムと重なった取組となりました。加えて、制作準備段階から様々な地域の方々との協働を行ったことで、事業自体へも興味関心のある方々だけでなく、観光客や地域住民も職場、学校、地域の各層での繋がりによって参加くださる事例が多くみられました。多層的な関係性をもつ「地域」には、暮らしのなかのさまざまな側面からアプローチすることの重要性を改めて認識しました。

【制作手法の成果】

シンビズムでは、都道府県の中の組織が主体となり、文化庁や(一財)地域創造等の公的な助成を取得しつつ、それぞれの市町村の垣根を越えてプログラムおよび参加者のコーディネート、事務作業を行い、小規模の公立美術館および所属学芸員や担い手の活動をフォローする体制ができています。このような館や地域を超えた助け合いの体制は、それぞれの市町村施設の交流が深まり、各自で動き出す手助けとなります。このように「余力(時間と人員)」そのものが不足している小規模な公立美術館・文化施設において、シンビズムの運営体制は他の地域の参考となり得ると考えます。

【課題】

■ 地域の担い手との交流の場づくり

本年度木祖村会場は、木曾ペインティングス(同地を拠点に持続可能なアートのあり方を、地域の課題に向き合いながら取り組む活動を行なっている団体)が整備した空き家を活用し、会期中には同団体やNPOきそがわ日和とともに「地域とアート」のトークイベントを実施しました。本トークイベントをきっかけに、同じ目的を持つはずの文化施設の担い手と、地域で文化芸術活動を行う団体やアーティストとの意見交換・交流の場が未だ少ないことを改めて実感し、今後は文化施設の事業を意識的に「ひらく」ことの必要性を感じました。

【地域交流プログラムの成果】

■ 県内学校への対話鑑賞事業

東御市にて「朝鑑賞」を主導する宮下聡東御市教育委員会指導主事は「対話鑑賞は、学習指導要領(①生きて働く『知識・技能』、②未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』③学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』)の掲げる、育成を目指す三つの資質・能力を統合した取組み」であるとして、学校現場での効果を示しています。こうした東御市での実践や当シンビズム事業での全県的な取組により、長野県では令和8年度から教員研修(10年研修)において対話鑑賞WSが実施されることとなりました。また「朝鑑賞」の実施によって、学校での対話鑑賞は、美術館が学芸員によるファシリテーターの支援、作品画像支援を通して「地域のため」になることを市民に実感いただける活動だと改めて認識する機会となりました。

■ 多様な参加者に向けて創作現場や展覧会をひらく

年度当初から、シンビズムWG学芸員が多様な障がいの特性、障がいのある方への必要な配慮を理解する研修を実施し、バリアフリーの向上に向けた展示会場でのプリーフィングと改善を行い、ザワメキサポートセンター(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)や県が主催するザワメキアート展との共同企画座談会、作品や展示の理解を深め、教育普及活動の実践を体験するギャラリートークを実施しました。今年度はシンビズム学芸員が障がいを学ぶだけでなく、バリアフリー向上に向けた展示会場の改善、さらにキュレーションを市民に「ひらく」実践(ザワメキアート展2025)を通して、具体的な事例を積み上げながら「アートへの多様な参加をひらく」ことの意味を共有しました。

【次年度以降の継承・展開】

次年度は、2019年度に開催した「シンビズム3」の作家たちに焦点をあてた企画展を開催し、作家たちの7年間の取組を振り返り、作品を巡る状況がどのように変化しているかを示し、今を見つめることを目指します。また、シンビズム10周年を記念して、連携の実践の積み重ねを検証し、シンボジウムを開催し、地域で多様な価値を発揮する博物館、担い手づくりについて考えます。そして、対話を通じた作品鑑賞(対話鑑賞)に関する活動としては、朝鑑賞の導入に向けた教員や学芸員、市民等を対象としたワークショップの開催、対話鑑賞プログラム実施校への学芸員等の派遣を行い、更なる対話鑑賞の普及を目指します。

■ 助成事業から文化共創パートナーへ

アニュアルレポートは4冊目になり、信州アーツカウンシルの活動は5年目に入りました。4年間を振り返ると、年毎にそれぞれ新しい試みを軸として、信州アーツカウンシルとしての取り組みを多層化してきたように思います。

【2022(令和4)年度】
助成事業スタート／長野県芸術監督団事業の継承

- 地域・民間の担い手発掘、寄り添い型支援の開始 相談窓口の開設。
- シンビズム、NAGANO ORGANIC AIR の取組継続。

【2023(令和5)年度】
文化芸術を媒介とした他分野と協働共創に着手

- [気候変動×アート] Shinshu Arts-Climate Camp 開始 (信州大学人文学部との連携)
- 助成事業の継続支援

【2024(令和6)年度】
信州アーツカウンシル 2024 バレード
〜ともにつくるムーブメント〜

- 助成団体と協働して3年の成果の可視化と共有。県内5地域に展開。
- 伝統文化の継承とコミュニティの課題に向けたシンポジウムを実施。

【2025(令和7)年度】
文化共創パートナー
信州広域アートコミュニティ共創事業

- 3年助成した団体と支援者として連携。長野県みらい基金と協働した資金調達実施。
- 行政、文化施設、民間団体の連携による、地域課題への対応に向けた環境づくり。

この間、私自身、県の資金(長野県文化振興基金)や国庫補助を使いながら行っている事業として、信州アーツカウンシルは「何になっている」のだろうか?、さらに何ができるのだろうか?ということ、常に問い直しながら歩んできました。

言い方を変えれば、なかなか「成果」を語るのが難しい文化芸術の分野において、信州アーツカウンシルの活動の意義をどのように説明できるのだろうか?、説明するためにはどのような試み、チャレンジ、やったことないことを実験して、結果、事実を得ることが必要だろうか?、を考え続けています。

助成事業を始めたことにより、信州アーツカウンシルは、寄り添い型支援という形で毎年40件程度、県内各地を拠点とする民間団体の活動の現場を知り、地域の課題や可能性、様々な状況に具体的に触れることが可能になっています。

相談窓口も定着が進み、ホームページから毎月数件の相談が定常的にあります。これも、文化芸術の担い手の接点づくりや、地域でのニーズを知る機会となっています。

助成による支援を3年間継続することにより、事業がある程度定着し、助成終了後も同様の取組を継続発展させてくださっている団体も少なくありません。

そうした団体は、信州アーツカウンシルが目指しているビジョンを共有している、主体的な実践者であり、仲間です。地域社会での活動の難しさや意義を当事者として理解しているという意味で、たとえば委託事業などで業務を請け負ってくださる業者さんとは異なる質の貢献をしてくれる可能性がある存在です。

そのような団体を、2025(令和7)年度から「文化共創パートナー」と位置づけて、地域における文化芸術の支援者としての役割で連携することにしました。主催事業で講師やパネリスト役を担っていただいたり、長野県みらい基金と協働した「[まわる幸] 出会う!子どもとアート 寄付応援プロジェクト」(p69)で、子どもへの体験機会を提供していただいたり、などはわかりやすいかと思います。

こういった取組は、3年間の助成事業による支援を通じた、パートナー団体と信州アーツカウンシルの相互理解、信頼関係、ビジョンの共有が土台にあって行うことができます。助成を始めた初年度には行えないことで、その時点で私も思いついていませんでした。2年目、3年目と、各団体の有意義な活動に向き合いながら、「信州アーツカウンシル助成事業が単に文化団体への“パラマキ”、“再分配”であると誤解されては堪らない!」、という思いや、「民間団体の方たちが有している力をより地域社会の中で活かしたい!」という思いが源泉となって着想した、新しい仕組みの試行なのです。

■ 民間非営利団体による中間支援

文化共創パートナーの取組は様々なポテンシャルを持っています。その一つの視点として、文化共創パートナーは、行政と地域住民の間をつなぐ「中間支援」の担い手である、と捉えることができます。

左下の図は、今年度行ったオープンカウンシルvol.7「民間非営利団体による中間支援 文化芸術と社会教育」(p62)のイベントの趣旨説明の際に私が作成・提示したものです。

矢印は、様々な形で支援の提供を示しています。資金的支援の場合もあれば、資金以外の支援の場合もあります。基本的に上から下に向かう矢印がある一方で、下から上に向かう矢印(点線)があるのは、支援の提供者にとって、被支援者から受けるフィードバックは現場を知るために重要な資源で、支援の双方向性のような意味があるからです。

行政からの資金を基礎に、公的中间支援組織が助成事業や様々な形の支援を民間団体に行います。そしてその民間団体が、さらに別の民間団体に何等かの支援を行い、その先で更に民間の支援が続いていく、というイメージを図にしています。各階層での支援は、お金が受け渡されることもあるかもしれませんが、別の形のものに転換したり派生したりすることもあるかもしれません。一定期間に次々と同じテンポで支援が展開していくというわけではないかもしれません。

公的な資金を受けた民間団体、地域の文化芸術活動を担う団体が、様々な人を繋ぐ文化の力を活用し、受けた支援を様々な分野に受け渡し、派生させていく。そのことにより、多様な市民・住民に対し、様々な分野を横断した支援を提供する、多重な中間支援のレイヤーを構成することができる(できている)のではないかと、というイメージです。

地域社会の日常の中では、さまざまな形で支え合いや共同作業が行われています。例えば、子ども食堂のような場合は、子育て支援、福祉、文化、教育、あるいは商工、農業、自治会など様々な分野に関わるようなことが同時に起きています。関係者の中には、ビジネス・業務として関わる人もいれば、ボランティア、地域活動、家族としてプライベートに関わる人までいます。担い手は重複的に様々な立場、分野に取り組むプレイヤーであることもしばしばあります。

様々な地域課題がこのような複合的な要因をもつ状況にあるなかで、分野や立場を越える繋ぎ役を担える民間非営利団体の存在意義や活動の意味合いは、一層重要になっているのではないかと考えられます。

左下の図は、4年前、アニュアルレポート2022のコラムで触れた「文化的コモンズ」の考え方を、別角度で切って見たモデルといってもいいかもしれません。

■ 人口減少時代における持続的な発展

信州アーツカウンシルの活動5年目は、2025(令和7)年度に着手した「信州広域アートコミュニティ共創事業」を展開し、以下のようなトピックに注力していきます。

【2026(令和8)年度】
広域プラットフォーム会議／新たな助成枠試行
ARS LONGA プロジェクト

- 市町村単体では解決の難しい課題に、広域・公民連携で取り組む素地づくり。
- 新助成枠「C 関係人口共創プログラム」で、県外団体を通して県内地域を支援。
- 5年間の取組を紙&デジタルの形でアーカイブ。学びあいの循環、次のビジョン形成。

これまで信州アーツカウンシルでは、民間団体への支援を主に行ってきましたが、2026(令和8)年1月に開催した相談会&フォーラム(p64)をキックオフに、「広域プラットフォーム会議」などを通して市町村への支援に着手します。

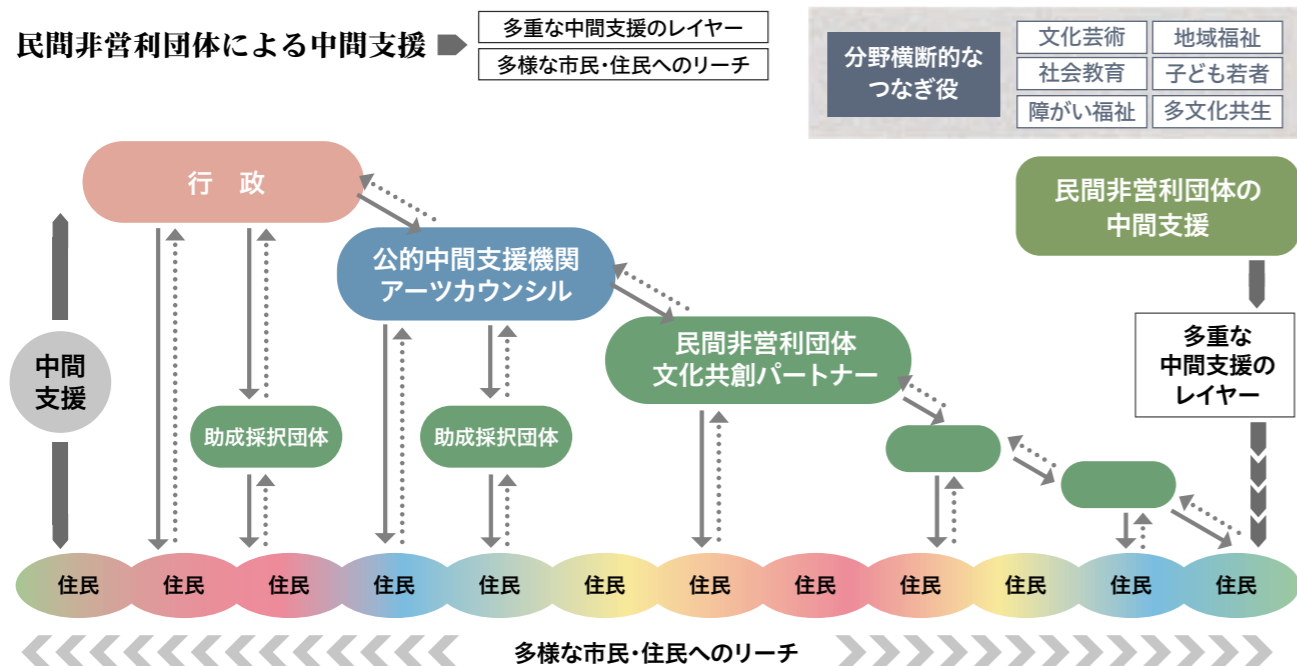
人口減少社会、県内各市町村の文化行政においても様々な課題が明に暗に進行しています。その根本には、行政組織自体が、人的、資金的に縮小し、これまで担ってきた部分が支えられなくなっていくというリソースの課題があります。行政だけに支えられている活動が持続するということが難しくなっていく、民間で支えられている活動のほうが持続的な発展の側面があると捉えることが必要です。(とくに文化芸術分野においては)

信州アーツカウンシルが市町村を支援するといっても、打出の小槌があるわけではありませぬので、このリソースの課題を単に解消するようなことはできません。が、ここでも、文化共創パートナーの取組、「民間非営利団体の中間支援」が活かせるのではないかと考えています。

県、市町村のそれぞれの仕事の範囲、いわゆる“タテ割り”があるなかで、これを前提としつつも、生活圏を共有する「広域連携」や、課題の当事者/支援者として課題を共有する「公民連携」において、地域の文化芸術活動の担い手、文化共創パートナーが「つなぎ役」になって、課題に対するアクションの幅を広げ、適切な対応策に貢献するようなことがありうるのではないかと。

そういった意味で実績が生まれれば、信州アーツカウンシルが「何になっている」のか、ある程度広く共有されるようになると思うのです。

野村政之 (ゼネラルコーディネーター)

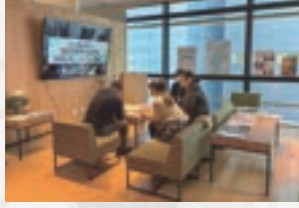


その他の取組

認知度向上に向け実施した事業や活動をまとめました。

信州アーツカウンシル出張窓口

11月30日 銀座NAGANO



コワーキングカフェ

12月9日 あらい商店街にぎわい拠点KAICO
1月22日 いいづなコネクトEAST



撮影:中島拓也

アドバイザーボード会議

10月8日 ホクト文化ホール・オンライン
3月30日 茅野市民館



長野県文化芸術情報発信サイト「CULTURE.NAGANO」の運営

<https://www.culture.nagano.jp/>



長野県の文化芸術を楽しみ、参加していただくことを目的として、県内の文化芸術情報を広く紹介し、その魅力を発信するホームページです。令和7年度は文化芸術に関する催事情報発信のほか、年2回の季刊誌発行、特集記事13本・動画8本の掲載などを行いました。

[季刊誌]

8月 長野県文化芸術情報発信
CULTURE.NAGANO
季刊誌 Vol.14

1月 長野県文化芸術情報発信
CULTURE.NAGANO
季刊誌 Vol.15



[特集記事]

- 6月5日 伝統文化がつなぐ新たな関係・世代・地域 ～祭り芸能の担い手座談会【開催レポート】
- 6月25日 ～アートを身近に 暮らしをゆたかに 様々な人が文化を創り 支え合う～信州アーツカウンシルのこれまでとこれから
- 11月4日 伊那谷の自然と文化を映す多面体～市民と共に育つ飯田市美術館
- 12月5日 子どもたちの“体験・学び”の新たなカタチ 「みらいハッ!ケン」プロジェクトが描く未来
- 12月10日 誰もが自分の手で創り、遊べるアトリエ 麻倉Arts&Crafts
- 12月22日 体験者から受け継ぐバトン 満蒙開拓平和記念館のこれから
- 3月3日 「交流と創造を楽しむ、文化の拠点」を持続的な形に 小布施町立図書館まちとしょテラソ
- 3月6日 シンポジウム「これからの伝統文化継承と地域コミュニティ」開催レポート
- 3月10日 暮らしの中にもっとアートを。自由な表現をはぐくむ「アトリエももも」の挑戦
- 3月19日 大作映画から配信動画まで ロケ誘致を通じて長野県への誘客と魅力発信を図る「信州フィルムコミッションネットワーク」
- 3月26日 長野県伊那文化会館「かみ派の美術－諏訪につどった前衛たち 1969-1974」
- 3月27日 思いをつなぎ、地域を育てる 伊那谷財団が描く持続可能なふるさとの姿
- 3月31日 時代を超えて、諏訪の地で響くシンフォニー 創設100周年を迎えた諏訪交響楽団

[特集動画]

旅する信州アーツカウンシル
「学ぶつながるフィールドワーク
辰野編」



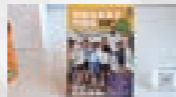
NPO法人サポートC「みつばちプロジェクト」
～あーとが届かない子どもたちのところに
あちこちまわってあーとをお届けします～



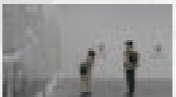
シンビズム6
—信州ミュージアム・ネットワークが
選んだ作家たち—
テーマ:地域と美術



「こもろのおうちかびらかびら」
作品展
NPO法人ながのアートミーティング



北島敬三写真展
「借りた場所、借りた時間」
[audience perspective]



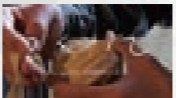
多文化共生×文化芸術
トライアル企画
「つながるサーカス in こまがね」



ともに創る学びの場
表現コミュニケーションLab.



つくりて
-NPO WHITE CANVASの
記録-



SHINSHU Arts Council 2025 ANNUAL REPORT

信州アーツカウンシル 令和7年度活動報告

令和8(2026)年 6月発行

企画・編集 | 信州アーツカウンシル
(一般財団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局)

編集デザイン | 北林 南 (合同会社伊那谷サラウンド)

発行 | 信州アーツカウンシル

〒380-0928 長野県長野市若里1-1-4 県立長野図書館1階


TEL | 026-223-2111

FAX | 026-223-2112

MAIL | artscouncil@naganobunka.or.jp

WEB | shinshu-artscouncil.jp

信州アーツカウンシルは、長野県文化振興基金により運営されています

 信州アーツカウンシル
(一般財団法人長野県文化振興事業団)

環境に配慮した用紙を使用しています